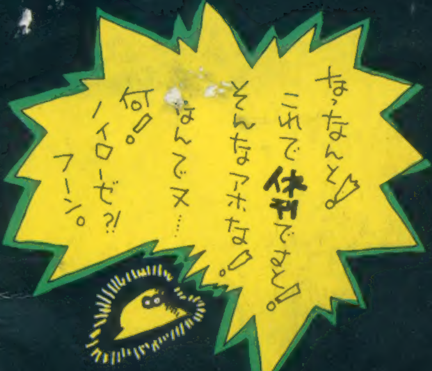
季刊 ファントーシュ







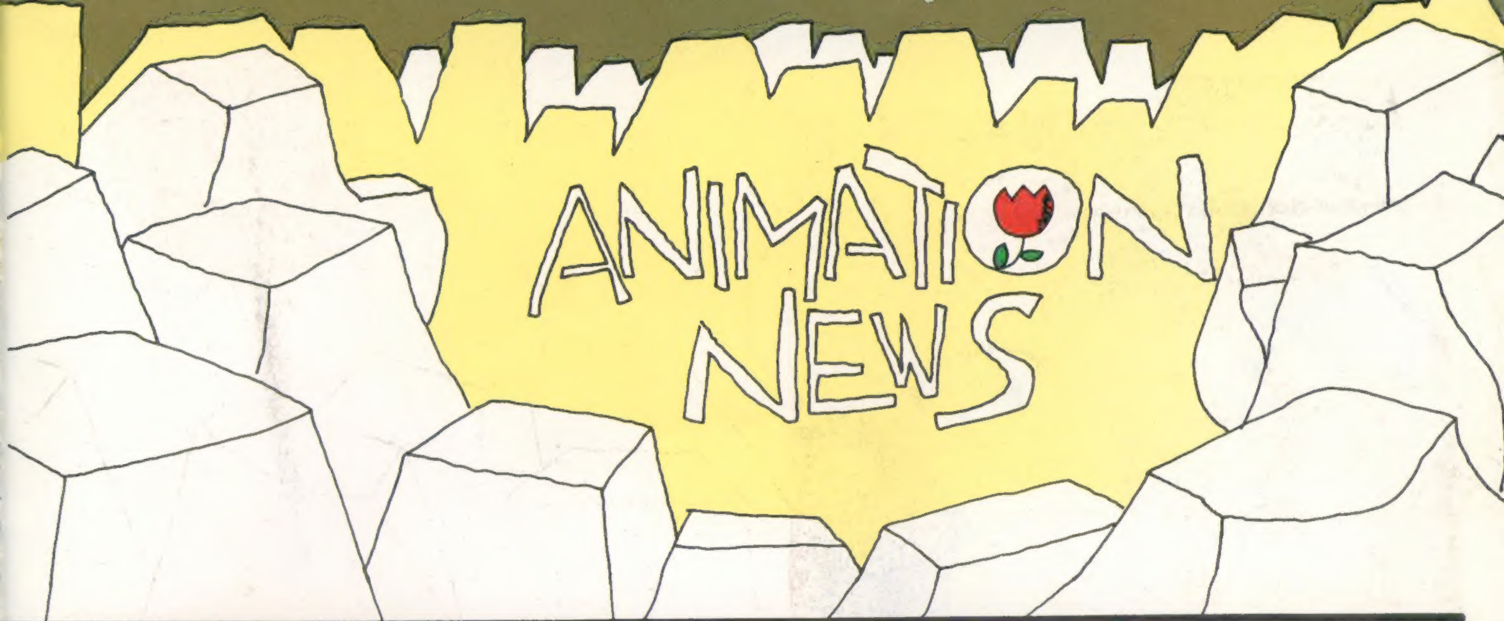
★編集に協力して下さった方々。西谷弘子さん、桜井雅信さん、岸てできさん、スタジオあかばんてんの面々。そして他の方々ありがとうございました。最后のファントーシュ HIROSE



宇宙戦艦ヤマト
はるか宇宙の彼方・・・・
イスカンダルへの旅は終り
ヤマトは今、地球へ帰ってきた。
テレビ・映画 オリジナル・サウンドトラック盤
宇宙戦艦ヤマト
CS—7033 ¥1,800
A面 宇宙戦艦ヤマト（オープニングテーマ）
SOS地球!!甦れ!宇宙戦艦ヤマト
ヤマト発進!!29万6千光年の挑戦
驚異の世界!!光を飛び越えたヤマト
さらば太陽圏!!銀河より愛をこめて
B面 決断!!ガミラス絶対防衛線突入
決戦!!七色星団の攻防戦
イスカンダル!!滅びゆくか愛の星よ
地球よ!ヤマトは帰って来た
真赤なスカーフ（クロージング・テーマ）
Columbia コロムビアレコード



休刊になりますので…今回は、カラーで大サービス!





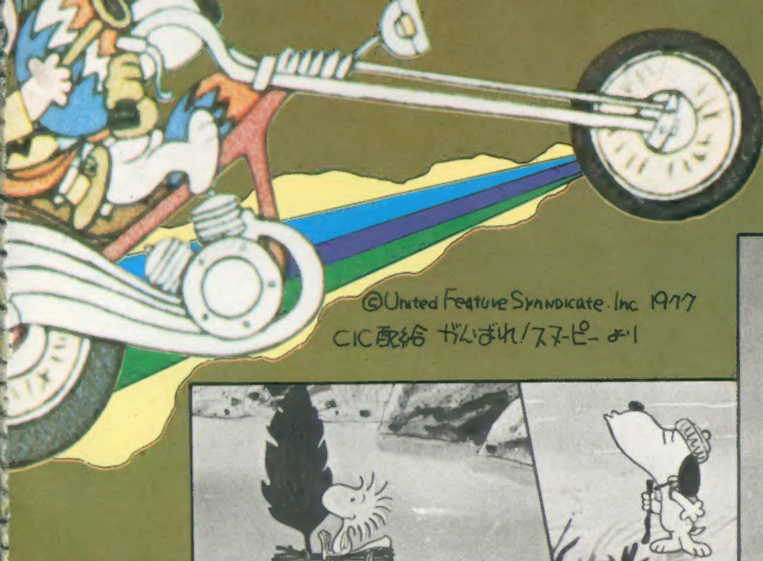




(イラスト・松本零士)



©アカデミー



©United Feature Syndicate. Inc 1977
CIC配給 がんばれ！スヌーピー より





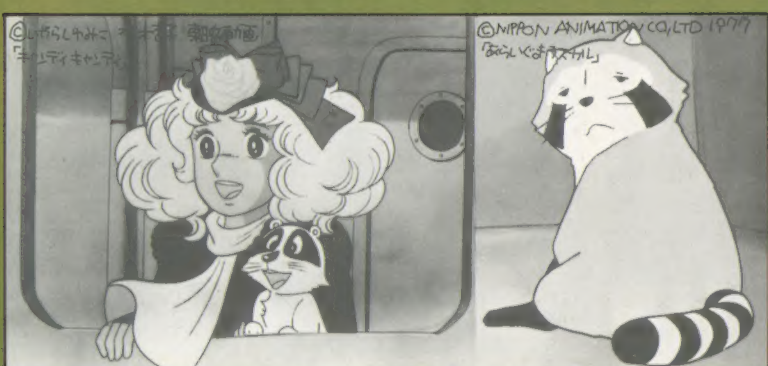
お待ちどうさまでした！
“まんが画廊”は7月より年中無休になります。
営業時間も午前10時～午後10時までと延長いたしました。

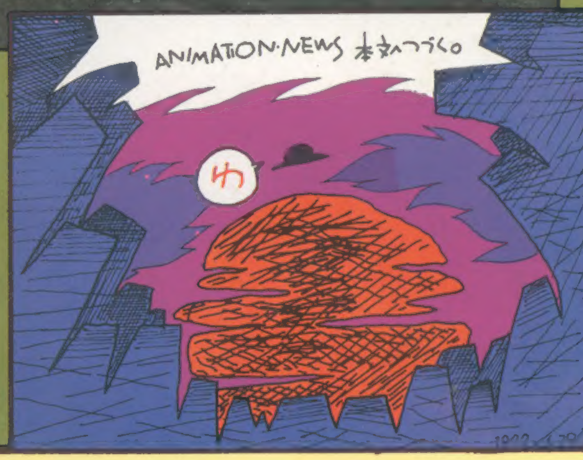
コーヒー専門店「まんが画廊」
PHONE 03(994)4627
東京都練馬区豊玉上1-20-1 ハニービル内 〒166

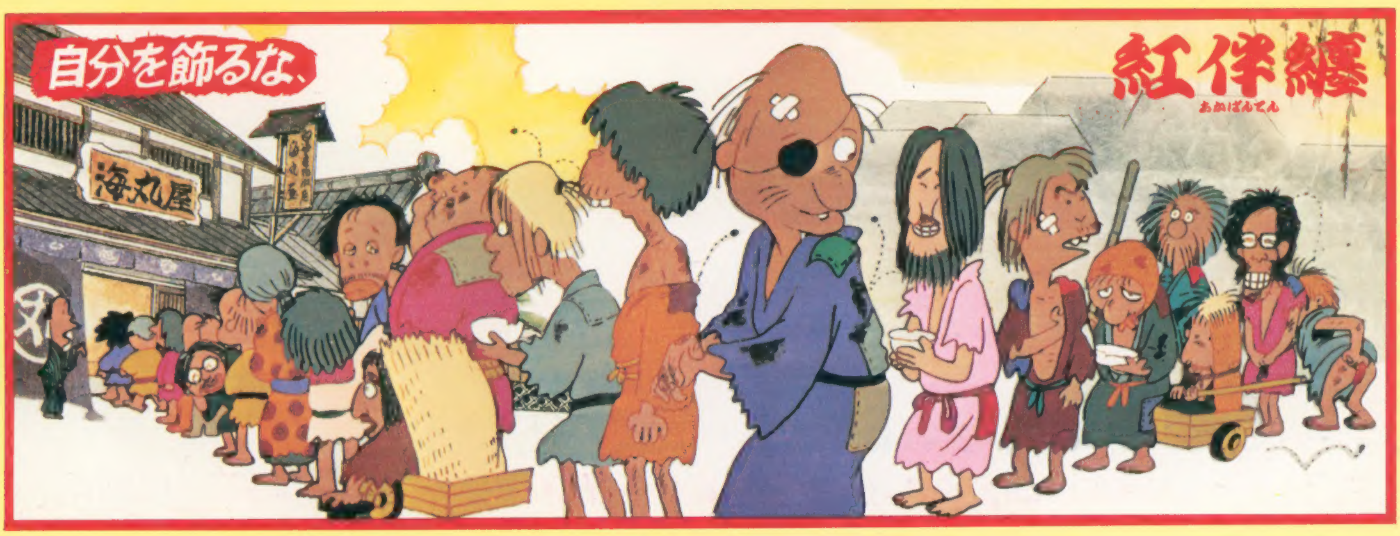


展示●
7月1日～8月31日 **「宇宙戦艦ヤマト」展**（各種商品販売予定）
9月1日～9月30日 **いがらしゆみこ“キャンディキャンディ”**（講談社）**原画展**


ハウス
HOUSE
これは東宝映像(東宝配給)製作の映画「ハウス」の一場面ですが、全編の2/3位が合成画面という劇映画ではめずらしいオプチカル技術の見本市のような映画なのだ。(そうだ)
ちょっと見ると何も細工がしていないような画面でも、何か仕かけがしてあるというカットが多いので、それを見破るのも、この映画の一つの楽しみ方かもしれません。
例えば、美しい空が沢山でてくるが、実物はほとんどなくて、絵に描いたものばかり。さて、どうやって実写の画面に空をはめこんでいるのだろうか!?!?!!
写真は、映画のクライマックス近く"家"が生き残った少女も全部食べてしまう直前のイメージ・カット。アニメーション(家)と実写(人物)と背景の空をエリ合成している。
(本文・NEWSへつづく)


「キャンディキャンディ」
©NIPPON ANIMATION CO,LTD 1977
「あらいぐまラスカル」


ANIMATION・NEWS 本文へつづく。


自分を飾るな、
紅伴纏
あかばんてん
海丸屋



科学忍者隊ガッチャマン　　イラスト宮本貞雄

◘特別企画

テレビアニメーションの世界／PART 1

竜の子プロダクション(1)

復刊の際には(2)企画いたします。



■玄関（スタジオ）











創刊の頃から要望の多かった"竜の子プロダクション"にスポットをあててみたのですが、無知な所とタイミングの悪さ、資料不足で"特集"には成り得ませんでした。すみません。

この企画を担当した僕が、良く竜の子プロを知らなかった………という所から、すでに内容がうすく、時間も少なかったということで多くの人に接触することもできませんでした。作品の奥深くまでは入ることが不可能でしたが、竜の子のヘッドである4氏の、考えみたいなものは聞けたのではないかと思っています。

御意見・御感想をお聞かせ下さい。

担当・広瀬和好

カメラ、採録●桜井雅信
採録●森脇和子／藍原淑子

協力●ユートランド・スタッフ
（近藤万理子、橋爪敏美、徳田静江）





●九里一平・笹川ひろし氏に聞く

一竜の子プロのできたきっかけは？

九　私も社長も当時漫画家で、漫画を描いていました。ところが雑誌の止まった絵では、あき足らなくなっていた頃に、虫プロが国産テレビアニメ第1号を発表し、アニメーションがとても身近に感じられるようになったんです。それまでアニメーションといえば“莫大な金をかけて”というイメージだったわけです。ディズニーはもちろん、東映動画でもけっこう贅沢に長編なんか作ってましたからね。頑張ればできるなあっていう気になったんですね、とにかく作れば何とかなるという無手法な考えでした。

一漫画を描いていた頃、仕事は吉田さんと一緒でしたか？

九　初めは別々にやってたんですが、仕事に追われて助けたり助けられたりしているうちに、いっしょになって、絵も似てくるようになってしまいました。また、どちらかと言うとあんまり現実主義じゃなかったもんですから、“体力もいるし、こりゃァ、あんまり長いことやる商売じゃないナァ”なんて思ったりして、心はどうしてもアニメーションに走ってしまったようなわけです。

一もともとは漫画家になりたいと思っていたわけですか？

九　そうですね。

一吉田さんの場合は？

九　社長の場合は、大人物のさし絵家を目指してたんです。紹介状をもらって上京してきたわけなんですが、いきなり仕事があるわけもなく、とりあえず、という形で少年雑誌のさし絵を描いていたんです。そしたら、それが人気が出てしまい、いつのまにか忙しくなって、そのうちに、漫画もけっこう楽しいですからね。そういう風になったんだと思うんです。

一九里さんは吉田さんより少し遅れて漫画家になったんですか？

九　漫画は僕の方が1年か半年くらい早いんです。

一竜の子プロがアニメーションを始めたのは虫プロができてすぐの頃ですか。

九　そうですね、虫プロができて、東京ムービー、TCJ（今のエイケン）ができて「エイトマン」とか「ビッグX」とかをやってた頃だったと思います。「宇宙エース」が第1作でした。

一東映でやるはずだったという話を聞きましたが。

九　あれは僕の原作とキャラクターで、東映の買い切りという話だったんです。でもそれじゃあ、なんとなく楽しくないし、ヘタなくせに、なんだかんだと作家意識がものすごくきつかったもんですから、それだったらやめとこう、という話になっちゃったわけなんです。あまりはっきりは憶えていないんですけど……。

一結局その「宇宙エース」を内輪で作るということが竜の子プロでアニメを始めるキッカケに？

九　そうですね。

一それまでアニメーターをやってた人を集めたりとかしましたか。

九　募集しましたね、新聞の全国版で。とにかく何も知らなかったから向こう見ずなところがあって、雑誌に描けるんだから動かすのも当然描けるだろうってなものでした。

一製作費の工面はどうされたんですか？

九　当時の雑誌の収益をみんなつぎ込みました。それでも社員の給料2ヶ月分にしかならなかったんです。一番最初の頃で30名ぐらいいましたから……。

一その30名で「宇宙エース」をお作りになったんですか？

九　ええ、ほとんどはそうですが、月4本のうち1本あたりのペースで外部のアニメーターにやってもらってましたね。

一満足のいくように作ることができましたか？たとえば動きが思うようにいかないとかいうことはありませんでしたか？

九　無我夢中でした、だれも教えてくれる人がいないわけですからね。演出も自分でやりました。手探りですよ。おかしい所は自分なりに感じとって、慣らしていくというような形です。原画は作れると思うんですけど、その間っていうのは原理があるわけだから、動画家に入れさせて動かしていくことになるわけで、そうして“なるほど動いている”とか“ちょっと動きすぎてゴムのようだ”とか除々に慣らしていく。当時はそういうことができましたから今より楽しかったですよ。本当に好きな連中が集まっていたという感じでね。今はちょっと機械的すぎて…。これだけ本数が増えてくると、そうはいかないですね。

一九里さんの原作っていうと主にどんなものがありますか？





■竜の子プロダクションの歩み

昭和37年

10月　会社創立（19日）

昭和38年

10月　テレビアニメ「宇宙エース」制作開始

昭和40年

5月　「宇宙エース」フジテレビ系放映開始

昭和42年

4月　「マッハGOGOGO」フジテレビ系放映開始

6月　「宇宙エース」(SPACE ACE) オーストラリア、ニュージーランドに輸出

10月　「おらあグズラだど」フジテレビ系放映開始

昭和43年

1月　「マッハGOGOGO」(SPEED RACER)オーストラリア、南米諸国、ニュージーランド、ホンコン、インドネシア、アメリカ（ニューヨーク、アップルトン)、西ドイツ、スイスに輸出

2月　「宇宙エース」タイ、ホンコン、アラブ連合に輸出

〃　「マッハGOGOGO」アラブ連合に輸出

4月　「宇宙エース」南米諸国に輸出

8月　「宇宙エース」シンガポール、マレーシアに輸出

10月　「ドカチン」フジテレビ系放映開始

〃　「おらグズラだど」(GUZURA) 南米諸国、オーストラリア、ニュージーランド、タイに輸出

12月「マッハGOGOGO」タイ、シンガポール、マレーシアに輸出

昭和44年

4月　「紅三四郎」フジテレビ系放映開始

10月　「ハクション大魔王」フジテレビ系放映開始

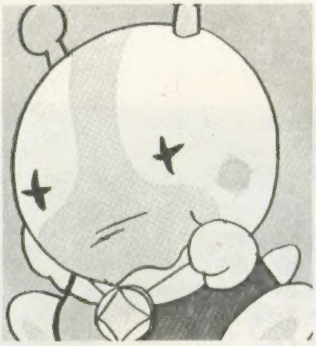
九　自分の作品といっても、企画部で検討しながら作りあげていくから、確かにいい作品ができ、一般大衆への受けもいいのですが、反面、個性的なものに乏しさがありますね。
—妥協しあってクセがなくなってしまうということですね？
九　大衆になり替ってディスカッションするということはいいんだけれど、個性的な物を出そうというのであれば、それじゃあ駄目ですね。“基本はこれなんだ”“これ以上ごちゃごちゃひねくり回してくれるんだったら、これは無いものにする!!。”というような頑固な姿勢で作っていかないといけない。僕は僕なりに、今そういうものを少しずつ作っているんです。企画の段階ですがね…。
—初期の作品で九里さんのクセとか個性とかが良く出ていた作品はありますか？
九　あまり無かったですね。最近になってそうしていきたいな、という気はしていますけど。僕は週刊誌の作品からスタートしてるんで、とにかく毎週毎週“はっと思わす。とか来週は……”とか、そういうのに慣らされたんでしょう。じっくり落ち着いた作品というのは苦手だったんですが。
—雑誌連載っていうのは、おおまかなストーリーを作っておいて、あとは、その週その週で考えていくわけですか？
九　そうです。
—詰まることは？
九　あります。でも毎週ですから休むことが、できないんです。あれは、過酷ですね。苦しくても忙しくても、たくさんの雑誌をやるというテクニックが必要になってくるんです。デモンストレーションの意味で。そうすると読んでいる人は、“この人は人気があるんだなあ”と思ってくれるわけです。もちろん、作品がおもしろくなければ、駄目ですけどね。
—竜の子プロを始めてからの九里さんの仕事っていうのは、どういった事でしたか？
九　まず最初は演出ですね。「みなしごハッチ」などの総監督もやりました。それから、ここ５年くらいは製作の方ですね。
—動画は、やらないんですか？
九　動画は、あんまりやりません。
こんなこと言っては何ですが、あれはあんまり労力を費やす分野じゃないみたいに思うんです。原画はもちろんやりますが、あれはあれだけでものすごく、追求したら、のめり込んで行かなきゃならないと思うんです。僕は、どっちかと言うと技術以前の所で物を生み出したり、表現したり、そっちの方に力を入れてるわけです。僕があれにのめり込んだら、他の事ができなくなっちゃうんです。今やりたいことと言ったら、原作企画はもちろん、キャラクターも、製作も一手に自分でやりたいですね。近いうちにやるつもりです。
—やるとしたらテレビでですか？
九　やっぱりお金がないですから、そうなりますね……。
経営をはじめた以上、物を作るひとつの流れの勉強もしないと、絵ばっかり描いてても尻から経営がさるもれだったら何もならないですからね。好きな絵も描けなくなってしまいますから。
そういう点では、我々みたいに経営者になっちゃうと、狭い竜の子プロの中でしか勉強できないですからかなり苦しいですね。
それでも、ここ５年間ほど経営の仕事もやったんですよ。それで、そろそろ自分としてもまた何か作りたくなったわけです。

（ここで笹川ひろしさんがインタビューに参加して下さいました。）

—最近、アニメファンに15〜16才くらいの女の子が増えているようですが、どうお考えですか？
笹　アニメーションを作るということに対しての、興味の持たれかたがはっきりしないんです。キャラクターに対しての憧れであったり、声優さんの日常の生活に探りを入れたがっていたり……。
—今まで、ファンという存在は割とアニメーションの“不思議さ”“動かすおもしろさ”などに興味が向いていたんですが、最近はアイドルを追いかけるみたいにキャラクターを追いかけているみたいですね。
笹　最近は同好会みたいにして見学に見えるでしょう。すると、アニメのできるまでを係の人に丁寧に案内してもらうんですけど、どうもピントがずれてる感じなんです。
作品を作り上げるテクニックではなくて、それに描かれている人間像みたいな所を探りたいようですよ…“ここで、こうして動画を作る”なんていうのやめちゃって、そんな話合いにでもした方が、見学に来られる方も楽しいんじゃないか、なんて思っちゃいます。
—以前は、絵があってストーリーがある。というふうだったんですが、今ではストーリーが先に立ってしまっていますね。
九　とにかく、ストーリーを追うだけのアニメじゃつまらないですね。せっかく動きで表現するんだから。画面を見て楽しいということも動きの中にあるわけだから、そういうものをもっと生かさないとね。
—動いているだけではなく、その動きの中で何を表現しているか？ということが大事になってくるわけですね。
九　そうですね。
—製作費のことなんですけど、本来かかるものなのに、なぜ安くなってしまうんでしょうか？
九　スポンサーは我々にあてはめてくれるんじゃないんです。アニメばかりを考えて買ってくれてる人っていないですからね。結局、我々が、それにあてはめていかなきゃならないわけです。
どうしたら、400万なら400万のお金に、見合ったものが作れるか……と。それじゃ無理だという事になれば、キャラクター使用権の収入等のサイド収益を考えなければならないわけです。非常に危険なことだけど、そうしないとテレビに乗っからないのが実情ですね。
—お金をかけた作品、イコールいい作品とならない事も製作費を削られる原因になっているようですね。
笹　“いいもの”というのと“当たるもの”というのは、違うわけです。
テレビっていうのは大勢の人が見てくれた方がいいんです。大勢に見させようとして企業がやってるわけですから。（実験作品だったらいいと思うんですけど）やっぱり大勢の人に見てもらった方がいいわけです。
金をかけるからイコール高視聴率という事になるかというと、その辺が複雑なんですね。ただ、みんなが共鳴してくれるものは、必ずその中に何かがありますね。“いい”とか“悪い”っていう言葉は適切でないと思うんですが、何かがあるんです。
視聴率っていうのは、以外に正確なんですよ。大勢の人が見る作品には、それなりに訴える力が強いということなんです。
逆に、視聴率の低い作品は、当っているものより弱い点があるんじゃないかと思いますね。
—ただ、放映される時間によっては、人気のある番組の裏になってしまうなど、不運な作品もありますね。
笹　それは、確かにありますね。







―また、ただ子供が、見さえすればいいという考え方に、つながってしまっているように思うのですが。

九　ヨーロッパなんかでは、まず大人が子供に与える、という意味で判断してからでないとテレビに乗せないんです。

日本のように、子供が求めているから乗せる、というのとは、かなり違ってきますね。日本の場合、商魂が見えすぎてますよ。

こんなことじゃいけない、と我々も渦に巻きこまれないよう頑張ってるんですけど。安い製作費でも、ちょっとしたアニメができちゃうでしょう。また子供も求めてる。だけど、作る側の人間が、それでいいと思っては駄目なんですね…………。

笹　竜の子プロでも、昔は、こっち（竜の子プロ）から"こういうものをやろう"という作り方が可能だったんですよ。こっちでやりたいことを、スポンサー側で理解してくれて、ブラウン管に乗っけてくれたような時代でした。今は、型が先にできていて、そのわくの中で、あがかなきゃあいけないみたいなところがあります。最初は妥協することに抵抗があったんですが、慢性化されてきてしまって……。

こっちの主張の場が、だんだん少なくなってくるみたいで、やっぱりつらいです。

九　でも、こんな時だからといって、荒れた作品をインスタントで作ってては駄目だと思いますよ。みんな消耗品的に見るだけじゃないと思うんです。パッと振り返って心に残っているものっていうのは、いい作品しかないわけですからね。それが判る時代が必ず来るんじゃないかと思います。常に精一杯、愛情を込めたものを作る、という姿勢を持っていないとだめですね。

―作ってる側が、ほんとに乗ってるかどうかということも、フィルムに出てきますね。

笹　不思議なもので、スタッフが乗ってたり、乗らなかったりってすると、声優さんまで乗ったり、乗らなかったりするんです。

九　乗った作品っていうのは、視聴率もいいですね。

笹　そうですね。リズムがでてきちゃうんです。足並みがそろって、新しい試みがどんどん成功するんです。こればかりはどうしてなのか分かりませんが、何かひょっとしたきっかけで、バカみたいに調子が良くなる時があるんです。

九　作ってて不思議なんですが、いいであろうと思ってやってることが、良くないことがあるんです。ところが、これが3～4回目くらいになってきて、パッといいのが出たりするんですね。そういう時を早くつかめば、その作品は成功するんですね。作っていきながらきっかけを拾っていくというようなところがありますね。

笹　この辺をやればいい、という狙い所がつかめるまでにひと月かかります。





普通だと第1話は、パァーッと良くって、それ以降が制作上の問題なんかのため、だんだん下がって行くわけなんですが、うちのは出だしが遅い作品が、後で良くなる、という場合が多いんですよ。だから、その辺を良く理解してもらえないと損をする時があるんです。

最初は、ひどいもんですよ。一番いい例が、「タイムボカン」。タイムマシンで、堅いメカの感じを出して、それでいてギャグ作品なわけです。おまけに、コンピューターアニメなんかも使ってるもんで、見る方としては、ギャグとしては見られなかったんですね。"ちょっとふざけてるんじゃないか"てなわけです。タイムマシンというと、どうしても理屈のうるさいＳＦ、というイメージがあるから、とまどってしまったんでしょうね。

視聴率もさっぱりで、5回目くらいから上がってきたんです。見る方もわかってきてくれたんですね。番組のテンポをつかんでくれたわけです。"ここで歌を歌って、ここでスタートして、ここでどんでん返しがあって……"と。

つまり視聴者が自分の思った通りになるという事が楽しいんです。そんなことを3ヶ月くらい続けた頃、今度は突然視聴者を裏切るんです。リズムを狂わすんですよ。すると、それがまたウケる……。ギャグ作品に限らず、見る人と作る人が一緒にプレイするようになってくる。これが大事なんです。

九　視聴者との対話ができているわけですね。作る側も乗ってきます。

笹　そうなるまでに「タイムボカン」の場合でも1月半かかったわけです。そうなるまでっ一番辛い時でした。

途中で、設定を変えさせられたりすることがあるんですが、そうしたらもう駄目ですね。ますます裏目に出ます。

九　ヒッチャカ、メッチャカにつっつき合ったりした作品の方が、いろんな人の意見が入って良くなりそうな気がするんだけど、むしろ最初から、ある方針を貫いたというような作品の方が、成功率はいいみたいですね。

―竜の子プロは、昔からギャグの作品とＳＦの作品が2本柱になっているような気がするんですけど、どうでしょう？

笹　2通りの作家がいるからじゃないのかな。社長の絵は、アクション向きの非常にカッコいい絵でしょ。僕のなんかは、どちらかと言うと、ギャグ向きみたいです。また、他にも実写の世界からきた人もいますしね。

それで、「紅三四郎」みたいなリアルな感じのアクション作品から、ギャグ作品まで、両方個性のある作品が出せたんでしょう。どちらか片方だったらそうは行かないですね。うちは、オリジナルがほとんどで、原作を買って……ということをしないですから。

―コンピューターアニメを使うなど、技術的な面でも工夫がありますね。

笹　これだけ番組が多いと、何か目新しい物を入れていきたい！と思うわけです。そこへあのコンピューターアニメ＝"スキャニメイト"が必要となったわけですが……あれはわずか数秒の1カットを作りあげるだけで3～4万円かかってしまうんです。

一応、画像のベースになる動きは何種類か




■九里一平・笹川ひろし両氏、スタジオにて

セットされているわけですが、それを合成して別の画像を作りだす——そうなると専属のオペレーターの人にもどんな画像が飛び出して来るのか、皆目見当がつかないんですよ。

だから、結果的には自分のイメージに近いものが出た時“その辺でいいです”と妥協しないと“それがいい！”なんて画像はなかなかでてこないので、又、時間を喰って金も喰われてしまうわけです。

でも、オペレーターの人も我々に協力的で“主題歌を聞かせて下さい”と言って、その人なりにイメージをわかせようとしてくれるんです。それでもムズカシイんですよ。

あれは、ＳＦの画面には持ってこいなんですけどね………。

—ただ、あまりにも画像が異色だから他の部分と融合というのか、うまくまとまらないとあれだけが異質の画面になってしまいますね。

笹　そうですね。竜の子プロというのは、今まで色んな試みを“これでもか”“これでもか！”ってやってきたわけですが、今やっている日本アニメの「あらいぐまラスカル」等一連の、動画の手法でもオーソドックスなのを見て、“あれが本当の動画なのかなあ……”と思ったり、“いや、そうじゃない！もっと他にも色々できる事があるんだ！”とも思ったり、しょっちゅう悩んでいるんです。

まあ、ああいうのがあってもいいし、また、アニメでなければできない事をやるのもいいんだ、と考えるんですが、人のやってる事は良く見えて、自分のやってることはキワモノばかりじゃないか、なんて思っちゃったりもして……。

—竜の子プロほど、ギャグを徹底してやっているところもないですね。

笹　「おばけのＱ太郎」とか、今やっている「ろぼっ子ビートン」なんかは、ギャグ作品っていうより生活のものですね。

—ストーリーを考える上で、ギャグっていうのは、一番難しいと思うんですが……？

笹　“笑い”っていうのは、急に逆立ちした人が出てきても笑ってはくれないんです。御膳立てがある程度ないと……。“クスクス”っと笑いながら、最後に“ワッハッハ”と笑えるような——積み重ねの笑いっていうのは楽しいですね。

九　最もやりたい表現の一つは、泣かしながら笑わす、ということです。

笹　日本人の本来の笑いっていうのは、松竹新喜劇のようなものを笑うんですね。生活に近いものを。だから、今までギャグマンガっていうと、「サザエさん」なんです。「サザエさん」は、誰が見てもわかるけど、「ヤッターマン」になると、おばあさんにはなかなか……。

—今は、どのような事をやっているんですか？

笹　今は、「ヤッターマン」とか、「ポールのミラクル大作戦」とかのチーフディレクターです。

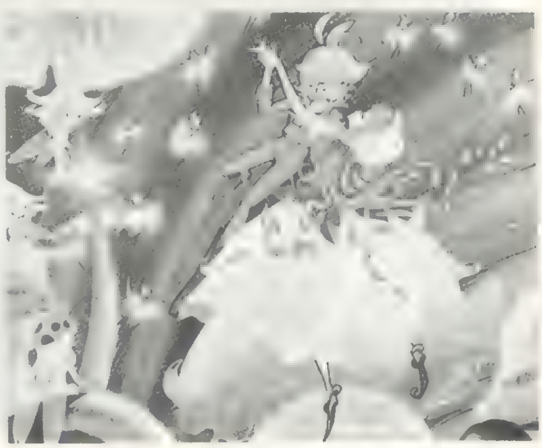
九　「ヤッターマン」なんかのギャグは、ほとんど、笹川さんの考えですよ。

—笹川さんは、これからどのような作品を作りたいですか？

笹　アニメで、いろいろな事をやって来ましたから、まだやった事のないものをやりたいですね。何かないですか……？

昭和45年

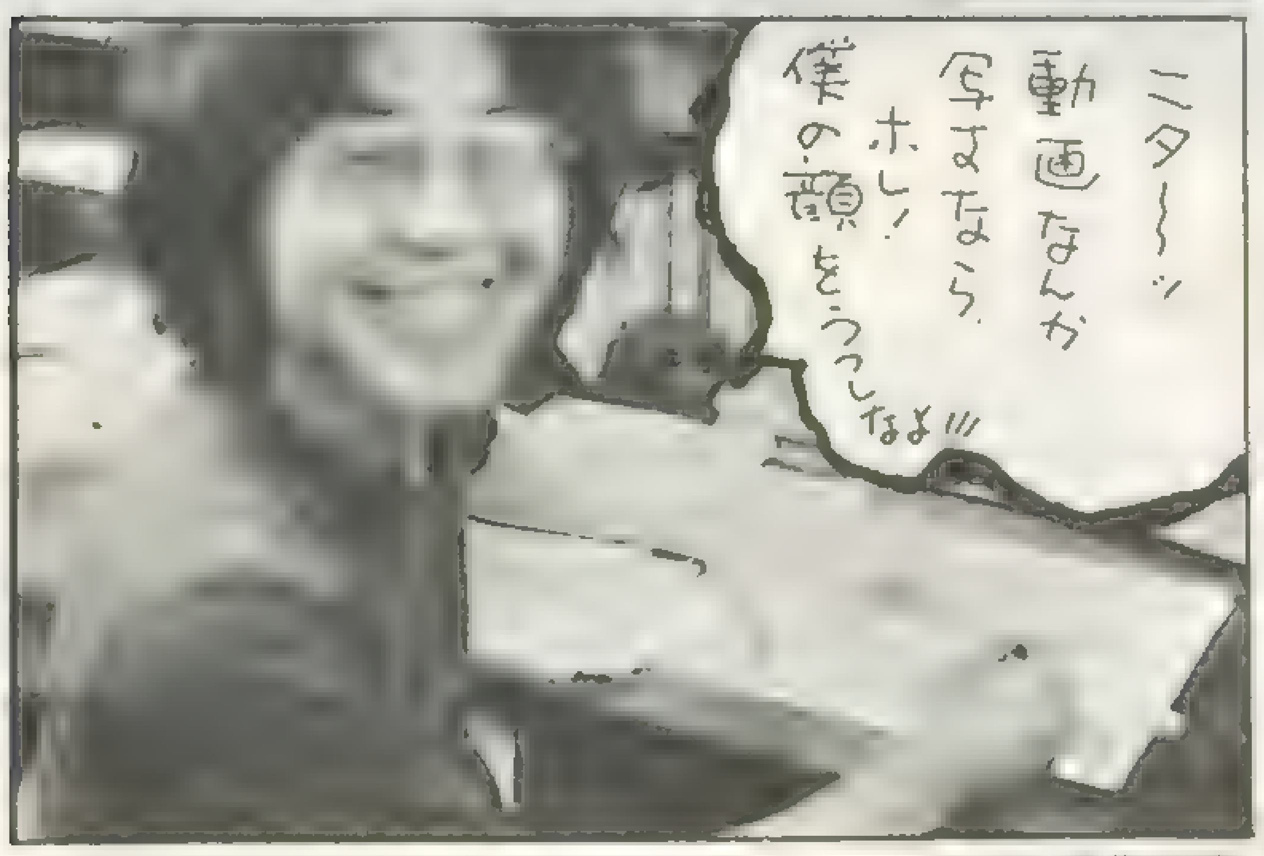
1月	「ドカチン」(DOKACHIN)「紅三四郎」(JUDO BOY)タイに輸出
2月	「ドカチン」「紅三四郎」ホンコンに輸出
3月	「紅三四郎」南米諸国に輸出
4月	「みなしごハッチ」フジテレビ系放映開始
〃	「紅三四郎」第一回富士フィルム技術賞受賞
6月	「みなしごハッチ」中央児童審議会推薦を受ける
9月	「みなしごハッチ」(HONEY BEE HUTCH)ホンコンに輸出
10月	「いなかっぺ大将」フジテレビ系放映開始
12月	「みなしごハッチ」日本視聴者会議より表彰を受ける



竜の子プロ 社会見学



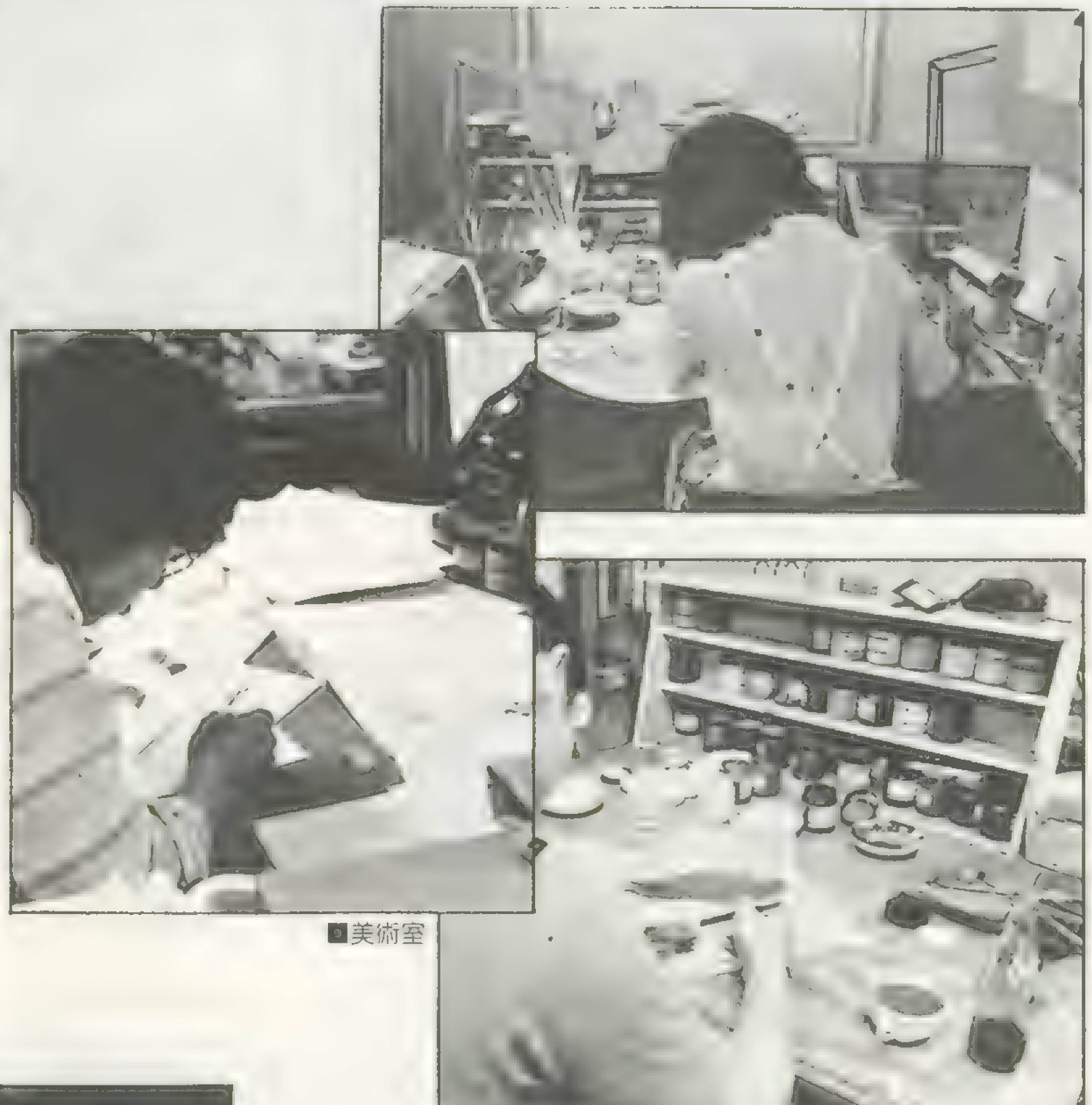




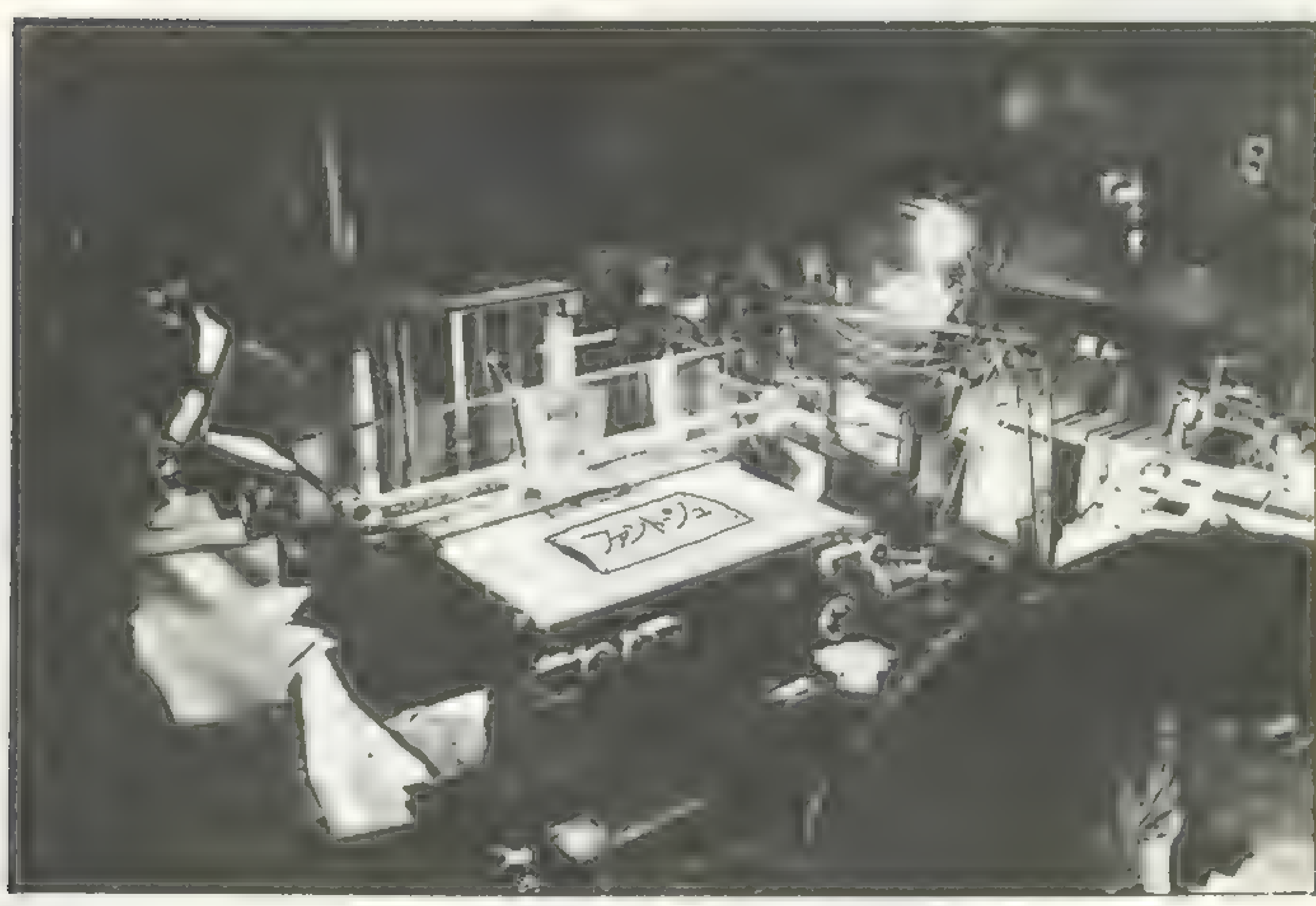
■作画室



■仕上室



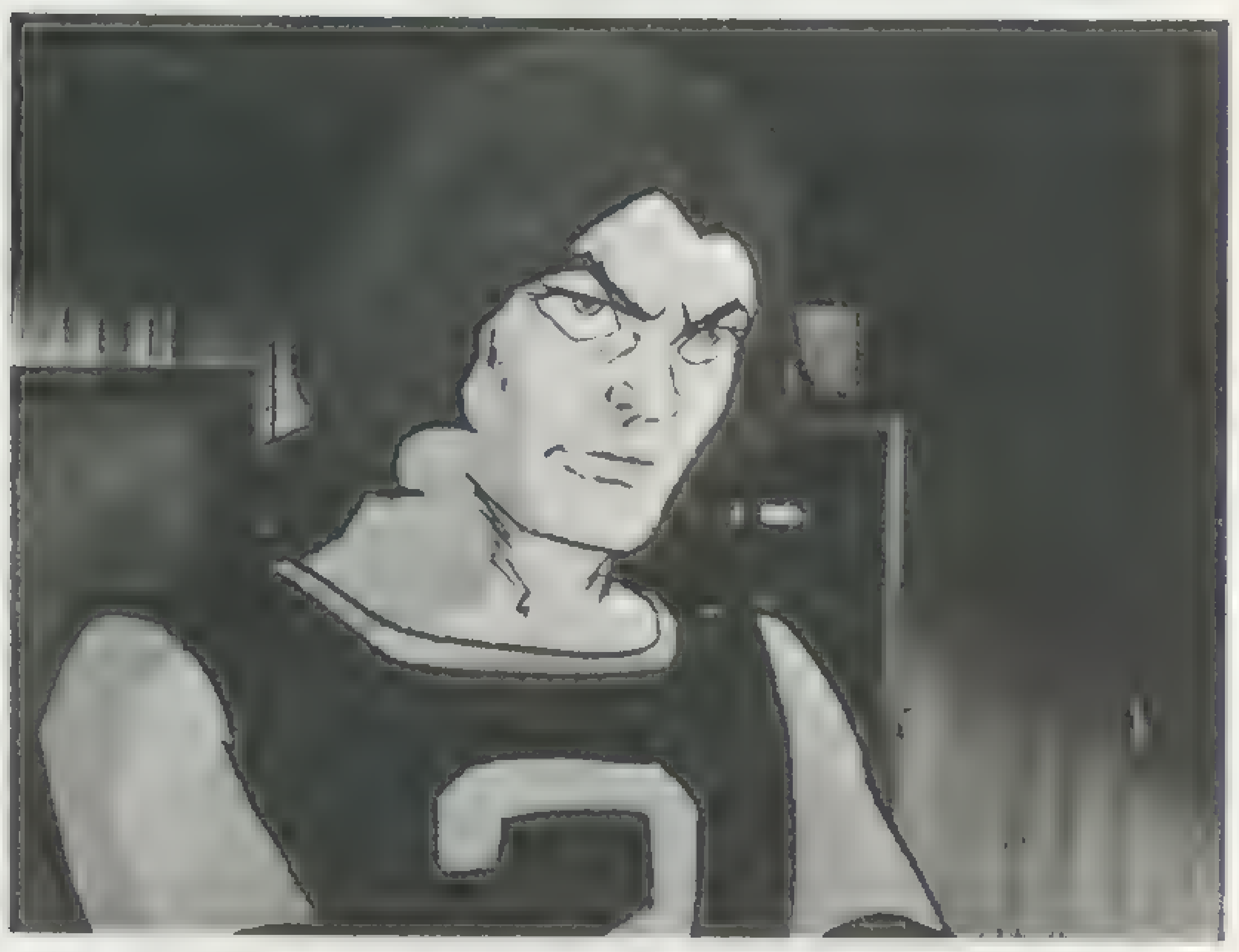
■美術室



■撮影室

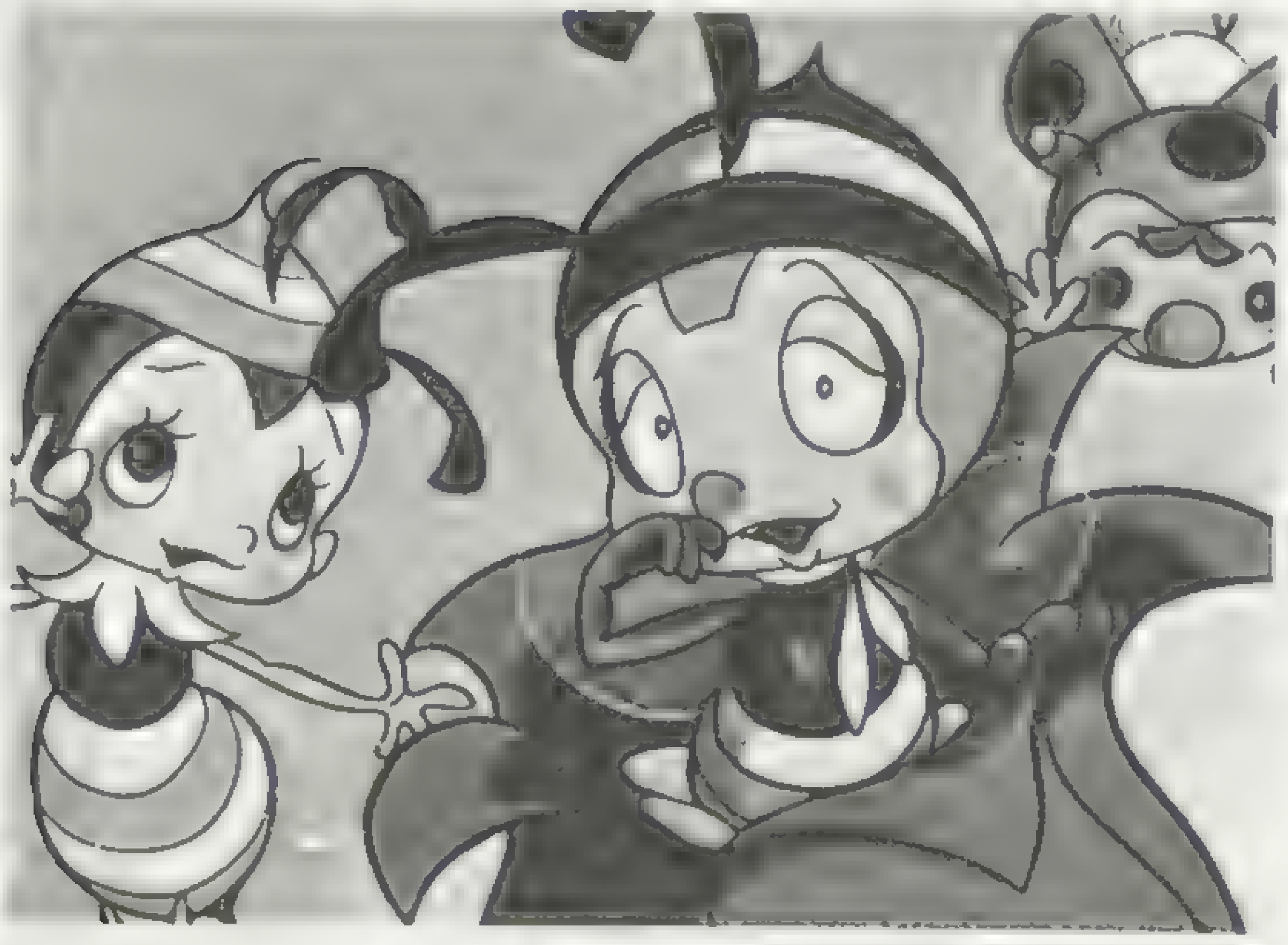
おいそがしい所を、我々と
カメラがぬけてまいりました。
（かけ）おしごとのジャマに
おおいになってきてしまったようです。
あらためて、またうかがいます。
よろしく….

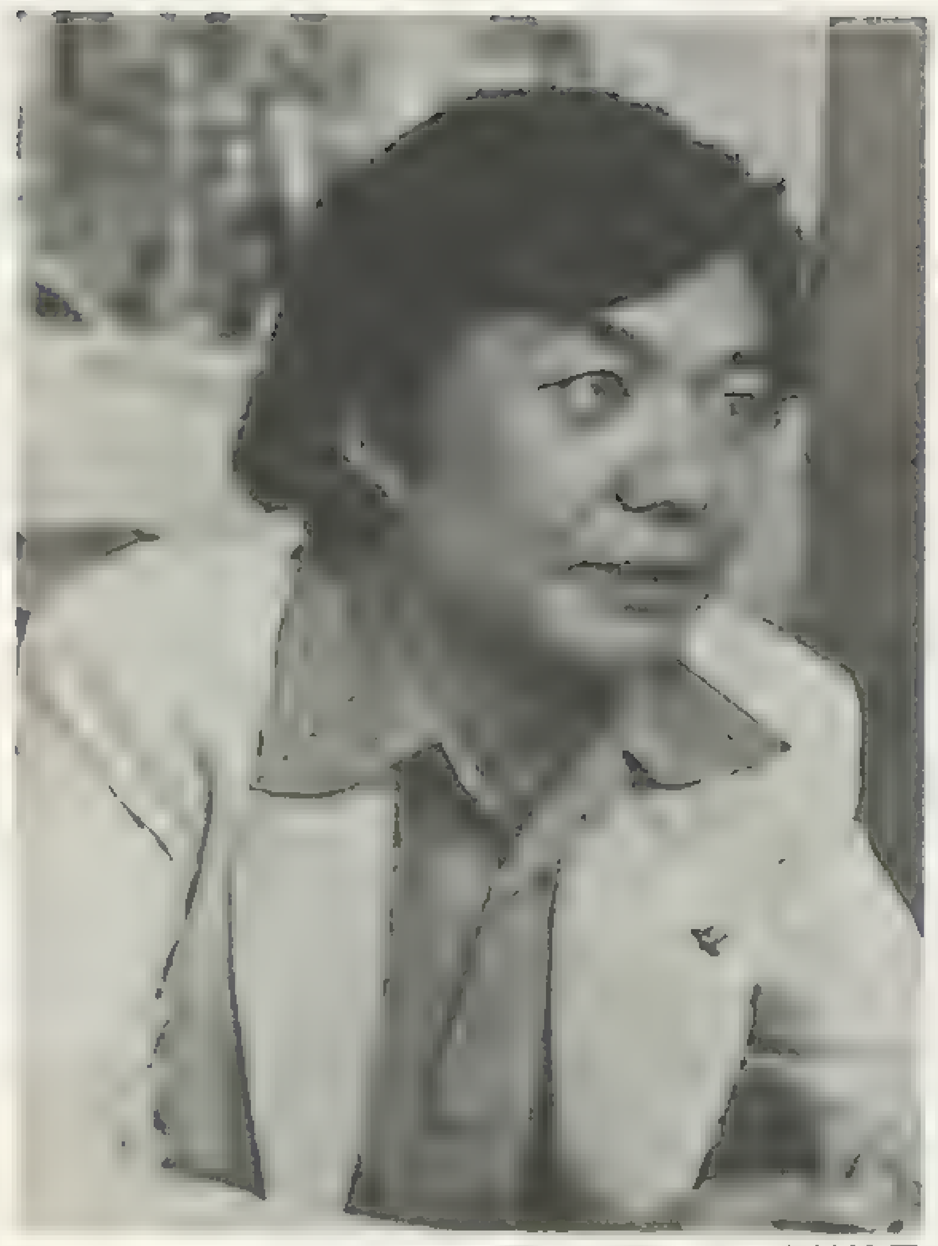




昭和46年
- 1月 「ハクション大魔王」(WONDERFUL GENIE FAMILY)タイ、南米諸国に輸出
- 〃 「カバトット」フジテレビ系放映開始
- 2月 「マッハGOGOGO」オーストラリアに輸出
- 〃 「宇宙エース」ホンコンに輸出
- 〃 アニメンタリー「決断」日本テレビ系放映開始
- 〃 「みなしごハッチ」第二回富士フィルム技術賞受賞
- 5月 「みなしごハッチ」児童福祉文化賞奨励賞受賞
- 10月 「みなしごハッチ」西ドイツに輸出

昭和47年
- 1月 「樫の木モック」フジテレビ系放映開始
- 〃 CM制作室設置
- 〃 「みなしごハッチ」日本コロムビアレコード、ゴールデン ・ディスク賞、ゴールデン・ヒット賞受賞
- 〃 日本コマーシャル連盟会員(JAC)に加入
- 5月 「みなしごハッチ」第12回日本放送作家協会賞受賞
- 〃 「カバトット」(HYPPO & THOMAS)南米諸国に輸出
- 10月 「科学忍者隊ガッチャマン」フジテレビ系放映開始
- 〃 「かいけつタマゴン」フジテレビ系放映開始





■吉田龍夫氏、本社にて

●吉田龍夫氏に聞く

—アニメーションを始めたキッカケは？

キッカケっていうものは特に無いんです。強いて言えば虫プロさんが、華々しく登場したことですね。ただ、アニメでなら自分の作品にインターナショナルな性格を開発できるのではないかというビジョンは持っていました。おこがましい考えかも知れませんが"世界へ羽ばたきたい。"というわけです。ところが実際にそれをやるには企業という形をとらなければならないわけで、そうなると自分1人の考えをそのまま作品にするということはなかなかできなくなりますね。できるだけ当初の夢を反映させる努力はしていますが。2年続けてカンヌの"テレビアニメ・フェスティバル"へ行ってきましたが、バイオレンスに対する考え方の違いなどによって、日本ではそうとうの評価を得た「みなしごハッチ」にさえもクレームがつきました。精神的圧迫、恐怖感などは、子供が好んでも与えてはいけない、というわけです。ヨーロッパでは子供に見せる番組にはとても気をつかいます。"テレビにはカギがかかる"という具合で子供に見せるものは親が選択するのであり、子供には選択権が無いというわけです。日本などは野放しの状態ですからね。日本の市場のそのような面が変わらない限り世界共通の映画作りは、難しいと感じました。

—ハッチ以外にはどのような作品を持って行きましたか。

外国向きとは思えない作品であっても、向こうがどういう受け取り方をするか知りたかったので色々、持っていきました。

—メカニックなものに対する評価は？

これはもう、全然駄目でした。日本でもメカ作品はもう出尽くした感じで、セーブされはじめています。日本の市場・テレビ局にも本来の姿勢を取り戻そうという動きがあるようです。反省の時期にきているのではないでしょうか？アニメの原点に近い作品が10月ごろから出始めるんじゃないですか。そうなると、金儲けだけを目的としたポリシーの無いプロダクションは消え去るをえないですね。ポリシーを持っていても、それを出せない状態だったんですが、テレビ局側からも、本来のアニメらしい作品を、との要望が出始めていますし、少しずつ実現できる方向に向かっています。

—ターゲットを幼年ではなく学生層に向けた作品が出ているようですが全体的な傾向としてはどうですか。

設定のしっかりした、ドラマ性のある作品なら厚い層を得られるのではないかと思うんです。その点「ガッチャマン」などは広い層からの支持を得ることができましたし番組が終ってからも根強く人気が残っています。

技法や設定も斬新でしたし、あの頃のブームの走りだったんじゃないでしょうか。技法などもだいぶ盗まれたようです。「ガッチャマンパート2」をという話が局からも、スポンサーからも強烈にあるんですけど、いいかげんな作品は作るわけにはいかないので今の所は作りたくないですね。今のようなアニメの洪水の中では前作以上の作品を作るのは難しいですからね。

—初期からの作品で吉田さん御自身が気に入ってるものは何ですか？

技術的には今から思うと未熟な面がありますけど、「マッハGOGOGO」それに「紅三四郎」「みなしごハッチ」「ガッチャマン」拾って上げるとすれば、そんな所ですね。

—竜の子プロは、始めはアニメーションをまったくやっていなくて、一から始めたと聞いていますが。

その通りです。初めは"漫画工房"で、普通の漫画家の人達と同じように昼と夜がさかさまの生活をしてたんです。そんな時、虫プロがアニメを始めたということで、笹川さんにけしかけられたりもして（もちろん私も、私なりに夢は持っていましたし）それで、アニメに関してはズブの素人であった私達が手さぐりの状態でスタートすることになったわけです。下地は東映さんでちょっとやりましたけど。動画用紙に描いた絵を8ミリで撮影して、"ああ！動いた！動いた！"なんて歓喜の声を上げて喜んでいた頃ですから今考えると、おそろしいです。（笑）それから動画スタジオを作って社員を集めたわけで、そうなると私は、名前だけは一躍社長ですよ。経験なんか全然ないわけで。スポンサーがそう簡単につくはずもなく初めて営業の苦しさを味わいました。金策には苦労しましたが、パンク寸前で、やっと"カネボウハリス"がスポンサーについてくれて、現在に至ることができたわけです。

—現在の製作費については。

理想の作品を作るにはほど遠いですね。これじゃいけないということで、今、フランスとの合作をやっています。素材はこちらのものではないですが、まずそういうルートを作ろうということでやっているわけです。今のところ資金と、ある程度の素材はフランスから、製作は"竜の子プロ"でという形です。

日本での販売権は我々が持っていますから日本でそれが売れれば、経済面での緩和にもつながるんですが、まあひとつのカケですね。

オリジナルの多いはずのうちがなぜ合作をやったかというと、ヨーロッパのプロデューサーの作り方、内容の吟味の仕方を会得して、竜の子プロのオリジナルに生かし、日本でも受け、海外へも流せる作品を作りたいと考えているからなんです。作品を見ただけでは分からないんです…。実際に組んでみないと…。

またフランスのプロデューサーの要求はきびしく、日本であったら2本から2本半作れるくらいの質的ウェイトを1本の作品にかけていますよ。

—外人と日本人との生活環境による感覚の違

いを越えた、インタナーショナルな作品が、はたして作れるでしょうか？

子供の感覚はどこの国でも、それほど違わないと思います。

一刺激の強い作品が氾濫する中で、おだやかな作品がどれだけ受けいれられるでしょうか？

刺激的なものが、これでもか、これでもかとやっている中に基本の線に戻った作品が出現すると、これがユニークで、またある意味でショックなんです。

—「日本昔ばなし」が新鮮な感覚で受け入れられていますね。

ええ、基本のアニメーションのありかたですね。ああいうものでも日本で受け入れられ視聴率も出てるということは悲観したものじゃないなあと安心しました。しかし、"企業イメージなどどうでもいいから目先の商品宣伝を" といったスポンサーにばかり当たってしまったプロダクションは浮かばれません。

一技術面でやりたい事はありますか？

それはありますね。しかし、私が口を出すとコストが上がるんですよ。それで採算がとれなくなれば文句を言うのは、また、私なわけです。だから言えることは、限られ許された予算の中でいかに効果を上げるのか。ということしか無いわけです。これを言いたくないがために、"海外"ということをやかましく言っているわけです。予算を国内からも、外国からもたくさん取って良い作品を作る。ということは、ある程度、理想が主張できて、表現できるわけです。これをやらないと、社員の生活を保障できなくなってしまいます。カスミをたべて生きてるわけではないですからね。

一最近、韓国や台湾などへ外注するプロダクションが多いようですが……？

国内にアニメーターが少ないということですね。実写物ブーム等とのからみで作品が一挙に増えたり、また減ったりする。これでは養成することもできません。それから、国内のアニメーターですが、技量がともなわないのにもかかわらずちやほやされるもんで鼻が高くなり、一人前のギャラを要求する。そんなことをやっていくと、生産ペースに乗らなくなってしまう。それだったら、まだ、そこまで悪ずれしていない異国で育成した方が、ということになるわけです。彼らには、"何とか日本のアニメーターに負けまい"、という前向きなものがあるんですね。結局、素直にいう事を聞いてくれる、ということです。それに、教えてみると技術的にはほとんど劣らないんです。ただし、あくまでもまかせるのは機械的部分だけです。シナリオ、美術設定、原画などは駄目ですね。国民性の違いもあるし。もちろん、丸々一本まかせきるなどということはできないし、それでは、意味がなくなってしまいます。コスト的には日本で作るのとそんなに変わらないんですが、これをすることによって、国内でのギャラのつり上げを防止することができるわけです。

一竜の子プロ内部での養成はしていますか？

若干ですが研修生という形で。

一なり手は多いですか？

最近では若い演出家が育ってきましたね。

—アニメーターになりたいという人は昔にくらべて減りましたか？

独立して自分のスタジオを持ちたがる人が多いですね。稼ぎたいんじゃないですか。表向きはいろいろなプロダクションに接し、いろいろなキャラクターに接して自分を磨けるなどとカッコのいいことを言うんですが実際には、安易な方向へ走ってしまうみたいですね。

中には本物もいますけど、ニセモノの方が多いんじゃないですか。ほんとうにアニメーションが好きで作品に惚れて、その作品に参加したい、という人は少ないみたいですね。

信念が弱いというか何というか……。たまに、"本物だ！" と思えるような人と出合うと、こっちがびっくりしてしまいます。昔はたくさんいましたけどね、そういう人が。

—会社そのものが、乗ってない作り方をしているところがあるようですが……。

それはあるんじゃないですか。単に儲けのために、需要に乗っているからという経営方針から出てくる会社など……。

——定の線を守って、それ以上は凝らずに行くという。これでは作品の好きな人は乗らなくなってしまう……。

与えられた数字を破って作るというのはプロじゃない、ということもあるわけなんだけど、その与えられた数字の中で最大限に、どうしたら効果が出るかと頭を悩ませてもいいんじゃないかと思いますね。今まで僕は、現場にはあまり口を出さずに作りたいように作らせていたんです。フィルムは資産になるわけですから、後になって、"なんだ、こんな作品" などと思うんじゃなくて、やっぱり、"いい作品だった" と思えるものを考えたからです。「ガッチャマン」などはそうして作ったわけです。ところがそうなると、きりなくゼイタクをしだすので、口を出さないわけにはいかなくなってしまうんです。会社が左前になってしまいますから……。

—今でも吉田さん御自身でキャラクターを描いているんですか？

作品が増えてきているので、全部が全部というわけにはいきません。また若い人にも、いい所があんので極力参加させていくようにしつつあるんです。私の作品ばかりでは竜の子プロは幅の狭いものになってしまいますしね。

—「ポールのミラクル大作戦」では女の人がキャラクターを描いていたようですが。

基本的なところでは、私や九里も参加しています。彼女は募集で来た美術学生でした。以前はうちに出版部があったんですが、そこで絵を描いていたりしていたこともあるんです。(編注：その人は、下元明子さん)

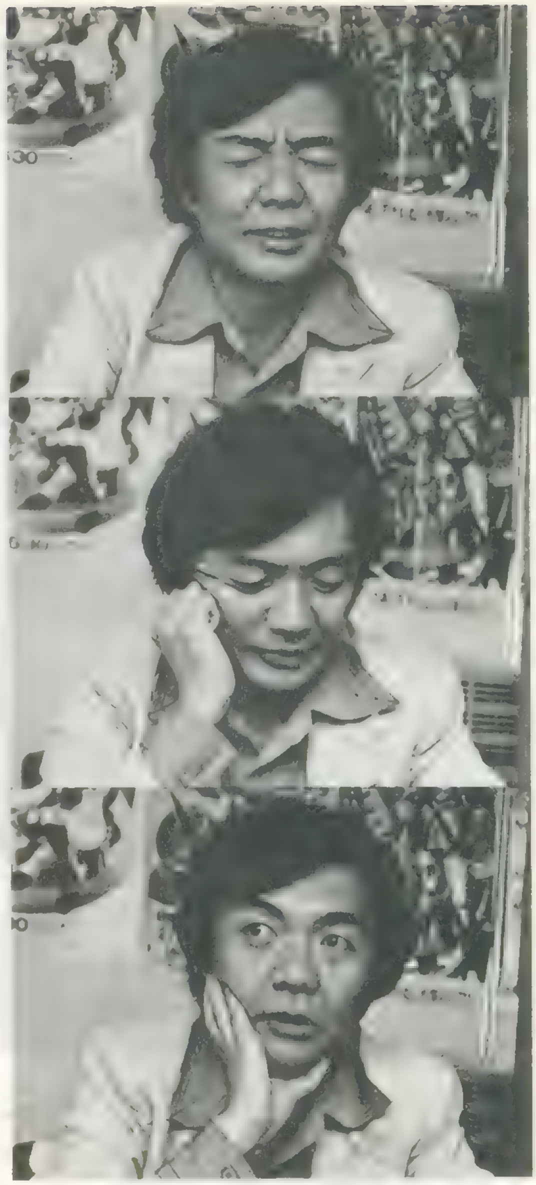
—今まで、基本的な絵は吉田さん九里さん、笹川さんだったのが最近ガラッと変わったようですね。

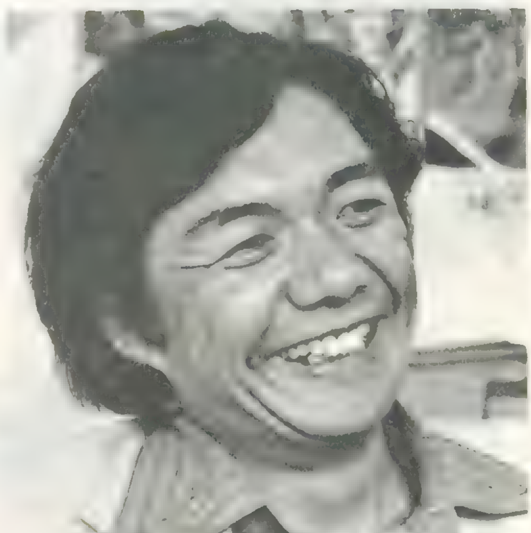
いろいろ出て来て、いいんじゃないですか。カラーが決まってはまずいですよね。"竜の子はあの絵しか出てこない。"なんて風になってしまっては……。

若い者がいいの描いてると、しゃくにさわるしね。個人としては "負けていられない" という気にもなります。しかし会社としては、とてもうれしい事ですよ。若い人をどんどん延ばしてあげるべきだと思いますね。こっちはこっちでまた、いいものを描けばいいんだから………。

現在は、アニメを見るのが当たり前であるかのごとく、アニメが氾濫しているし、みんな似たようなものを作っている。これでは駄目です。

良心的に作ってるところが勝ち残るんじゃないでしょうかね。そう思って頑張ってるんだけど、まあ、いろいろとそればかりじゃいかないですからね。

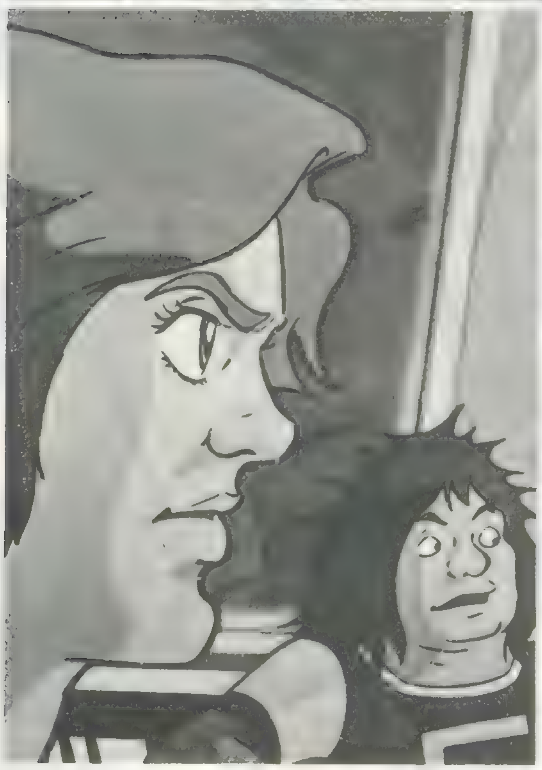




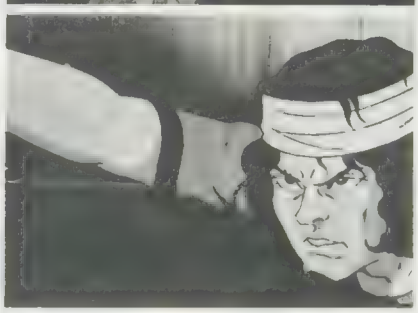












—アニメーションの世界へ入ったキッカケは？

僕はもともと映画出身のライターだったんです。僕等の頃は映画も斜陽化してきていたし、テレビなんかも出てきていたころだったわけです。

—鳥海さん御自身でやりたいことは……？

やりたいことはたくさんあるけど、企業であるわけだし、スポンサーあっての仕事だから必ずしもそれが通るとは限りませんね。

個人としては、形はアクションであろうと底に流れるテーマ、たとえば親子の感情など永遠のテーマになるもの、そういったものを追求したいと思います。また、ギャグであっても風刺や批判を入れたりしています。そうでなかったら作家とはいえないですからね。

今は、全編オモチャのコマーシャルみたいなアニメのブームで、(後退してはいるものの)まずオモチャを頭に置いて企画を練らなくてはならないような状態ですが、「みなしごハッチ」等は、そういうことを考えずに、やりたいことができた作品でした。こういう企画にはなかなか恵まれないですね。

また、竜の子プロは原則として全部オリジナルだから、自分達のやりたいものを入れていくことができるし、色々な作家がいて、それぞれの持ち味を生かしているので、大人向けの作品、2分半くらいの短編、文芸的な作品、ギャグ的な作品等といったぐあいにレパートリーも広いわけです。オリジナルで無い作品も2本ぐらいありましたけど、その場合でも、企業として割り切ってしまうのではなく、十分練り直して竜の子プロなりのものを打ち出していく——そういった意味で、うちみたいな存在っていうのは、あまりないんじゃないですか。「タイムボカン」から「ヤッターマン」へ、というようなシリーズでも、そのまま同じものを続けるのではなく、新しい要素を入れていく、という努力をしています。

それに、日本だけのキワモノみたいな作り方ではなく外国へも通じるような作品を、という姿勢もあるんです。その場合、感覚が違うし、向こうのテレビコード等も考えて作らないと受け入れられない——こちらで作ったアクション作品を外国へ持って行くと強烈なものになってしまうし、逆に外国を意識して作った作品を日本で出すと半端な感じになってしまうというわけです。小さな子供が嵐の中で恐怖におののいているシーンすら出来ない。アメリカでもケネディが死んだ頃は、銃口を人につきつける場面にクレームがつけられたほどだそうです。

ヨーロッパには、子供が街でタバコを吸っているなどという乱れたところがある反面、テレビにはとても気をつかっています。戦争体験等を通じて歴史的に養われた感覚でしょ



う。

いわゆる文芸作品などは、わりあい広く受け入れられるようです。

—ターゲットについてはどうお考えですか？

今まではターゲット(対象年令)を決めて作る作品が多かったのですが、テレビの場合ターゲットを制限してかかるのは、おかしいのでは、という気がします。これからは、幼児から年寄りまでに見てもらえる作品を作るということも大切になってくると思いますね。大人が喜ばないものは、子供だってほんとうには喜ばない、子供が喜んで見るものは、大人が見たって楽しいんです。

—最近、中高校生の女の子のファンが増えてきたみたいですが………

「ガッチャマン」などでは、主人公よりも、ニヒルな脇役や悪役に人気が集まったみたいですね。高校生くらいになると内的なものに興味を持つようになるんじゃないかという気がします。「ガッチャマン」という作品全体の人気にしても、単なるチームプレーアクションというだけでなく、架空の登場人物の中にほんとうに生きた人間としての何かを訴えるものがあれば、(ロマンのある作品になれば)と追求したあたりがウケたんだと思います。カッコ良さに対する見方も変って来てるんですね。人を見てカッコイイと思うのはスーパーカーを見てそう思うのとは、わけが違いますから………。

(—完璧すぎるより、影があったりした方が、身近に感じられるということですね。)

そうですね、単なる美男美女のスーパーヒーローはもう駄目なんです。ほんとうの人間臭さみたいなものがウケる。たとえ愚にもつかないようなカッコの人でも、何かそこに人間臭い魅力があれば主人公になれるのではないでしょうか。

作品としても、単なるアクションだけではなく、ロマンのある作品を作っていかなくては駄目ですね。アニメーターの人はドラマ全体を見通して考えるライターと違って、自ら俳優にならなくてはなりません。つまり、アクションをしている役に没頭してしまうわけです。だから、どうしてもアクション中心の作品になってしまいやすいんだと思いますね。

—「ガッチャマン」で悪役のベルクカッツェに人気が集まったようですね……。

だれもが持っていながら表面に出せない“悪の部分”を、あからさまに出しているからではないでしょうか。「タイムボカン」や「ヤッターマン」などの悪役も、悪役が主役になってしまっているくらい人気がありますが同じ理由からだと思います。ただ、悪人は悪人、とはっきり分けてしまうのは、子供達に人間不信を抱かせる危険がありますね。まあ、作る人間の良心しだいだと思いますが……。

—最近の傾向としてアニメ界全般的SFを素材にしたものが多いようですが……。

アニメでなくてはできないみたいなところがあるからでしょう。ヘタに特撮なんかでやると、いかにも作り物という風に見えてしまって……。その点アニメでならデフォルメなどによって強調したりすることもできるし、かえってリアルな感じを出せる時があるようです。

また、アニメでは、いながらにして、どこへでも好きな所へロケに行ける。行ったことも聞いたこともないところへでも行ける。そんなところが作品に広がりを持たせる要素になるのかもしれません。ですから、メルヘン的なものやファンタジックなものもいろいろできるわけです。むしろ、そんなところにアニメを作る側の考えもあるんですが、今はちょっと受け入れられないですね。もっともSFでも、おもしろい企画を考えても買ってくれなかったり、オモチャ中心の考えでメカに注文をつけてきたり、ということはありますが。

ブームに乗ってないと買ってくれないんですね。

6～7年前、民話がブームになっていたころ、うちでアニメで民話を、と企画したことがありましたが、駄目でした。ところが現在「日本昔ばなし」が、ウケにウケている。よく言うんですが“一歩前進してはいけない。半歩前進しろ！”———つまり、あまり冒険すると失敗するということなんですよ。

ところが「みなしごハッチ」という作品に関しては、「巨人の星」をはじめとする根性物が全盛の頃に甘いイメージの作品を出すという冒険をしたにもかかわらず、ブームを破って大成功しました。母親と子供の情という永遠のテーマは、どのような時でも人の心に訴えるものがあるということでしょうね。

—最近やたらと多い“侵略者から地球を守る”というスタイルのストーリーについては？

勧善懲悪というスタイルは、あくまでも一つの手段であって、テーマでは無い！ということをわきまえる必要があると思います。子供の感覚は鋭いから、作る側がその辺を、しっかり踏まえておかないといけない……。

—ライターとして放送における言葉の制限についてどうお考えですか？

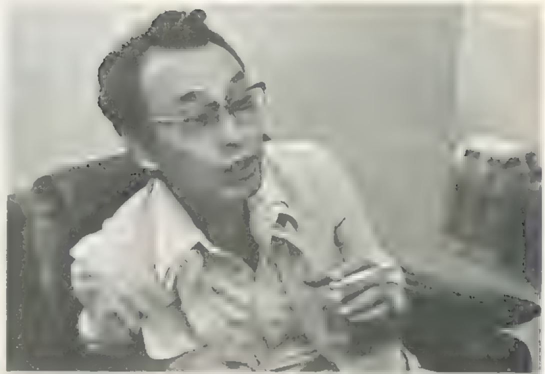
言葉を制限するということは、人間の感情を殺すことになる。そんなことをしていたらドラマなどできません。もちろん作家は“表現の自由を奪う”と対抗していますが、解決は難しいですね。いろんな所からの苦情に対して局がすごく神経を使ってますから。問題のある言葉が出てきたとしても、それはあくまでも手段として用いているのであって、テーマにしているわけではない、というところを考えてほしいと思いますね。

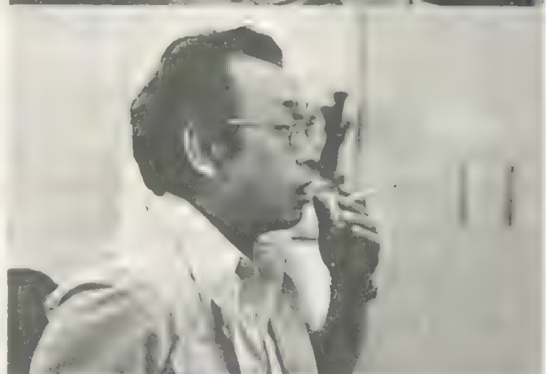
—シナリオライターのなり手は多いですか……？

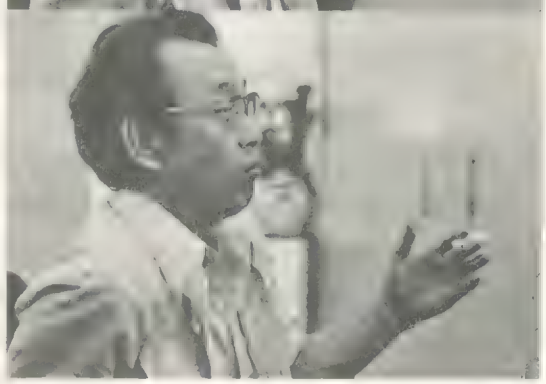
私達としても若い感覚がほしいわけで、どんどん出てきてもらいたいと思うのですが…少ないですね。

—初めの質問と重複してしまいますが、今後どのような作品を手がけていきたいと思いますか？

スポンサー側の、企業イメージにつながる、というような考え方に基づいた、“名作”的なもの、良心的なもの———そればっかりというわけにはいかないけど、作る側の良心をスポンサーが良く、くみ取ってくれて、その上でできていく、というような作品を作っていきたいですね。







昭和48年
4月 「けろっこデメタン」フジテレビ系放映開始
8月 「マッハGOGOGOスペイン、ポルトガルに輸出
9月 「カバトット」イギリス、カナダ、スイス、オーストリアに輸出
10月 「新造人間キャシャーン」フジテレビ系放映開始

昭和49年
4月 「新みなしごハッチ」毎日放送系放映開始、
〃 「みなしごハッチ」韓国に輸出
6月 「新みなしごハッチ」全国放送愛好会より感謝状を受ける
7月 「みなしごハッチ」タイに輸出
10月 「破裏拳ポリマー」NET系放映開始
〃 「てんとう虫の歌」フジテレビ系放映開始
〃 「ウリクペン救助隊」フジテレビ系放映開始

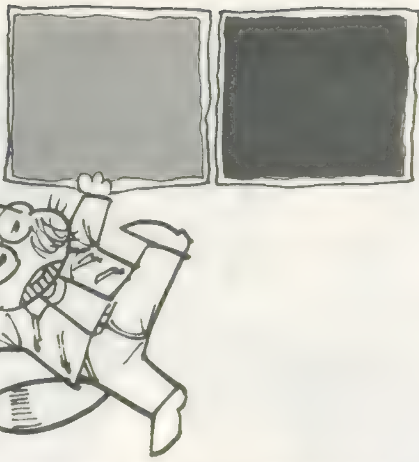
昭和50年
7月 「宇宙の騎士テッカマン」NET系放映開始
10月 「タイムボカン」フジテレビ系放映開始

昭和51年
4月 「ゴワッパー5ゴーダム」朝日放送系放映開始
10月 「ポールのミラクル大作戦」フジテレビ系放映開始

昭和52年
1月 「ヤッターマン」フジテレビ系放映開始

●とくべつげすと・また〜・ねんは2、

小牧雅伸・編



この体私号のためのぼーだいな原稿枚数は
はてしなく、なのにファントーシュのスペースは
なく、つまるところ そのわずかしかのらなかったのです。

科学忍者隊ガッチャマン

199X年、地球は1970年代末に、才3次世界大戦を経験しており、その名残りの廃墟などが所々に残っていた。そして今もなお地域的な戦争や紛争が起っている。地球の汚染は深刻化しておりエネルギー不足もあってISOの手によって地熱エネルギーの開発が急がれていた。この物語は、ここからはじまる。——————

嵐の夜、巨大な亀のロボット、タートルキングがウラン貯蔵庫を襲った。国際科学技術庁の会議場で、南部は、タートルキングを操るのはギャラクターと名乗る組織であることを明らかにする。

南部は独り十数年もの間、この組織の秘密を追って来たのだ。そしてギャラクターを倒すべく、密かに1つのグループを育てていた。科学忍者隊である。

G1号●大鷲の健
G2号●コンドルのジョー
G3号●白鳥のジュン
G4号●つばくろの甚平
G5号●みみずくの竜

健をリーダーとする、5人の若者である。

この若者集団は各人マシンを乗りこなし、5つのマシンが合体すればゴッドフェニックスという潜水自由な高性能大型戦闘機になる。

こうして科学忍者隊とギャラクターとの長い戦いが始まった!

■大鷲の健(声 森功至)・推定22〜23才 公式18才
G-1号 またの名をガッチャマン(リーダー)
本名は鷲 鷲尾(KEN-WASHIO)
日常は小型機のテストパイロット
父親は4才の時に行方不明となり母親は11才の時に病死している。
一時期孤児院に入っていたが、その後、父親の友人である南部博士に育てられる。
《性格》
向こう見ずで、その強情さは並のものではない。比較的冷静な策士タイプだが、頭に血が昇ると周囲の状況に構わず突っ走る所がある。優しさと非情さが同居する複雑な性格の持ち主。

■コンドルのジョー(佐々木功)
G-2号(サブリーダー)・推定22〜24才 公式18才
本名はジョージ浅倉(GEORGE・ASAKURA)
父ジュゼッペ浅倉は、マフィアのボスであり、またギャラクターの大ボスの1人であったが、組織を裏切ろうとして妻カテリーナと共に、ジョーの目前で射殺された。(11〜12才頃)
《性格》
無鉄砲で両親をギャラクターに殺された怨みから、戦闘に徹しギャラクター全滅に執念を燃やす。一見ニヒルな性格だが、その内には寂しがり屋のやさしい心と繊細な感情を有し、健同様複雑な性格の持ち主である。

■白鳥のジュン(杉山佳寿子)・推定20〜21才 公式16才
G-3号・本名不明
日常はスナック「ジュン」のママ
11〜12才の頃に、ジュピター山で幼児だった甚平を見つけ甚平の保親がわりになって育てる。
《性格》寛大であまり物事にこだわらないが、その勝気な性格から時として無茶な行動をとる事もある。男まさりの様に見えるが、女性らしいこまやかさと暖かさを持っている。

■燕の甚平(塩谷翼)・推定14〜15才 公式10才
G-4号・本名不明
日常はスナック「ジュン」で働いている。
父はジュピター忍者群団の頭領であったが部下の反乱にあい当時3才の甚平を残して家族は全て殺されている。その後、甚平は偶然ジュンに拾われ、弟として彼女に育てられる。
《性格》
好奇心は旺盛だが食いしんぼ。負けん気が強く、ちゃっかりしているが甘えん坊である。

■みみずくの竜(兼本新吾)・推定21〜22才 公式17才
G-5号・本名 中西竜
日常はヨットハーバーの管理人
両親、弟共に健在で、父親は漁労長をしている。ただ他の4人との生い立ちの違いから、意識せずに彼らの神経を逆なでしては その存在を浮き上がらせてしまう事がある。
《性格》おっちょこちょいだが、情け深いおおらかな性格である。



■南部博士(大平透)本名・南部考三郎
・推定年令44〜46才・独身
ISO(国際科学技術開発機構)に所属し、マントル計画の重要メンバーであると共に、科学忍者隊の生みの親であり忍者隊に司令を下せるのは博士1人である。かなりの政治力、経済力を有し政治家としての趣も強い。表面的には、国際科学技術庁の一科学者にすぎないが、緊急時における発言力や国連軍などへの指令権、科学忍者隊が博士の私有である事などを考えると、相当の権力者であると思われる。
《性格》
冷徹でおだやかな人物だが、強い意志と精神力の持ち主。

■レッドインパルス隊長(吉沢久嘉)鷲尾健太郎
・推定年令44〜46才・健の父
南部博士の親友で彼のもとでテストパイロットの仕事をしていた。だが、十数年前、博士の頼みで、ホントワール共和国においてギャラクターが進めているV2計画を探る為、南太平洋上で飛行機事故を装い、死亡した事にして名を変え、ホントワールに潜入した。↗



➚ 彼は2名の部下とともにレッドインパルスを組識し、科学忍者隊と共にギャラクターと闘う。だが、ギャラクターが実行したV2計画によって降下したバンアレン帯を上空に吹き飛ばす為、有人ミサイルを操縦して、ホントワールの上空で自爆する。
《性格》不屈の精神の持ち主。信念の為には全てを投げうつ情熱家だが、その厳しさの下に広く大きな優しさを持つ。健に接する彼の態度はまさに"父"そのものであった。

■ベルクカッツェ（寺島幹夫）沢田敏子・北島愛子
ギャラクターの首領
■総裁X（田中伸夫）?????

しゃさい広告

● ―これだで全体の何%を掲載できたのでしょうか？申しわけない。ファントーシュの発売日の15日は今日なのです!! 小牧さんのおくらせて手書きにしたのは、ぼくだし、このコーナーを注文をしたのもぼくだけど、ファントーシュには今、うごける人間が2人しかいないのです。バテているのです。こんなにあたりさわりのない頁をつくってしまって、ごめん。ゆるして！すみません。復刊の際には――なんとか、もっとまとまりよくします。――ひろせ



休刊にあたり

突然ですみません。僕らも、突然でびっくりしているくらいですから貴方のおどろきは充分に承知しているつもりです。

すでに休刊を知って、イカリとカナシミのお電話をいただき、あらためて本誌と読者との間に小さな接点だけはたもっていたんだなあ…などとカンゲキしております。

この接点を少しの間でもとぎれさせたくないのですが、金銭上の残務整理をキチッとして、資金もゼロから集めて新らたなるファントーシュを今後出したいと思っています。

反省しております。

あらゆる面で….





タツノコＳＦ作品の特長と分析

――ファンの目で見た　タツノコＳＦアニメの遍歴――

近藤万里子

１．技術

ａ．画風の変化

タツノコＳＦ作品の第１作、というよりはタツノコプロアニメーション第１作「宇宙エース」は当時の吉田竜夫調とでも言うべきマンガ風の丸味を帯びた柔らかなタッチで画かれている。ＳＦ第２作「マッハＧＯＧＯＧＯ」は、主要人物が当時としては珍しくアダルトであった事も手伝って「宇宙エース」に比べると劇画的だが、それでも後の作品群よりはマンガに近い。画風が変化するのは「紅三四郎」からで、一挙にタッチの鋭いリアルな画風に変化した。劇画的ではあるが、いわゆる「劇画」のような絵の硬さ、表情の乏しさはなく、竜の子調とも言うべき一種独特の作風となっている。

作品により作画監督は異なって来たが、この竜の子調は全ての作品に共通するものであり、そのリアルな作風はハードな内容を支えるのに充分なものであった。

ｂ．映像及び演出

タツノコＳＦアニメは感覚的には「映画」である。つまりマンガの延長上にではなく、映画の延長上に位置している。アニメーションが本来映画の延長として存在するのであるから、こういう言い廻しはおかしいかもしれないが、画像のアングルの取り方、カメラワーク、さらには『間』の取り方等、マンガよりも映画に近いのである。

例えば「マッハＧＯＧＯＧＯ」のオープニング。

『最初にマッハ号の鳥瞰から入って俯瞰にチェンジし、手前右から三船剛が車に走り寄り、飛び乗る。キイを差し込み、クラッチを入れ、アクセルを踏み込む――』

これらの動作をオープニングのイントロに使ったのだが、この展開の鮮かさと歯切れの良さは、当時としては（そして今も）類を見ないリズム感を持っていた。この歯切れの良いリズム感は「紅三四郎」を至て「科学忍者隊ガッチャマン」でその頂点を迎えた様に感じられる。

さらに、タツノコプロはアニメを立体世界として捉え、フルに活用し始めた最初の制作集団であったかもしれない。先に挙げた「マッハＧＯＧＯＧＯ」のオープニングもそうだが、「科学忍者隊ガッチャマン」のオープニングにも面白い演出テクニックを見る事が出来る。

『――画面全体にゴットフェニックスの噴炎が一瞬映った後、機体は画面中央奥に進み、そこから急上昇する――』

こういった立体感覚をフルに発揮したのが爆発シーンだったろう。噴煙や破片が画面の左右に飛び散るのではなく、前後にも飛んでいる。それまで「動くまんが」として二次元世界のものと一般に思われていたアニメーションを三次元世界に移相させた、と言うべきだろうか。これによってタツノコはこれまでのアニメが持てなかった実写の質感、量感を我が物にしたのである。

そして『間』タイミングの取り方が実にうまく、意表を突いて来る。「死の谷のガッチャマン」で大鷲の健のセスナが不時着しようとして森の上すれすれの所を飛ぶシーンがあるが、森を突き抜けた瞬間、眼前に谷が現われる緊迫感の凄さなどは目をみはらせる。また、会話中の間の置き方、沈黙の中の会話等他のプロダクションの追従を許さない感があった。

こうしたスピーディなスリリングさに加えて耽美的な映像演出―――「宇宙の騎士テッカマン・宇宙の食人草」で食人草が花開いて行き、荒野を緑に染め上げてゆくシーンや、「新造人間キャシャーン・戦火に響けコンチェルト」でチャイコフスキー：ピアノ協奏曲第１番第１楽章をバックにキャシャーンがアンドロ軍団と戦うシーン等、各作品の随所にある種の不気味さ、ただならぬものを持った映像美を見る事が出来る。

加えて、適所の渋さに押えられた感情表現等が全ての作品に余情を与えていた。タツノコＳＦ作品のヒーロー達は『軌跡（余情）を曳く男達』であり、これが最大の魅力となっている。

タツノコＳＦ作品は非情さとリリシズムの同居というハードボイルドの醍醐味を持っている。しかし、ただ映画に近いというだけならアニメーションという表現手段を使う必要はない。実写でやればよいという意見も出るだろう。しかし、タツノコＳＦ作品の良さというのはアニメによる実写を凌ぐ迫力にあるのではないか、と思うのだが。リアルさとスピード感とリズム感に、純粋な絵としての美しさ、アニメの動きの自由さを加えた魅力――現実（リアリズム）と幻想（ファンタジィ）の接点――これがタツノコＳＦアニメの面白さではないだろうか。

２．内容

視点の逆転

タツノコＳＦ作品の特長として視点の逆転がある。つまり、ＡからＢを一方的に見て描くのではなく、ＢからＡを、また第３のＣを登場させてＣからＡを見たり、さらにはＡがＡ自身を見る事によってＡの立場を相対化させる。相対化させる事はＡの行動、思想への批判ともなり、また事物の本質を明らかにす

る事につながってゆく。例をあげれば………

「マッハGOGOGO・最終回」

地球一周という大レースに勝利を得た剛は華やかなパレードの中で独り寂しさを覚える。トップレーサーを目指した若者がその地位を獲得した時、彼の立場は追う者から追われる者へと変化した。追われながら常にその先を行かねばならない剛の厳しい孤独感を込めたラストは、勝利を単なる終りとせず、見事である。

「紅三四郎・幻の独眼帝王」

王女ナイルの『武術によって栄える者は必ず武術によって滅ぼされます。それが武術者の悲しい運命(さだめ)なのです。』という言葉は、三四郎の運命を暗示している様で興味深い。そして、最終回、三四郎はある街を支配する悪の組織を叩き潰すが、彼が殺した組織のボスが旅の途中で知り合った娘の父親と判った時、彼は少女から『人殺し』と責められる。彼はここで『正義者』から『殺人者』まで転落してしまっている。ここにも暴力とは一体何かという厳しい追求がある。そして、三四郎に復讐しようと剣を抜く少女は彼自身の姿でもあった。三四郎は無抵抗のまま殺されようとする。彼はその瞬間、此岸から彼岸へと飛翔していた。

三四郎の場合は厳しい自己否定の後に力強い生を得るが、これ以降の作品になると、視点の逆転は単に止まらず、より一般にも向けられてゆく。しかも、疑問は提出されても回答は用意されなくなって来る。

「科学忍者隊ガッチャマン」

この作品の中では幾度となく『戦い』が否定され、しかも戦いを止める事の出来ない状況の中に主人公達は置かれている。彼らは自ら自分達の戦いに疑問を持ち、(「人食い花ジゴキラー」「ギャラクター島の決闘」「装甲鉄獣マタンガー」他)、また「ギャラクター本部に突入せよ」では、科学忍者隊は加害者として描かれているのである。それに、大鷲の健、コンドルのジョーは途中で自分の行為の肯定を止めてしまう。「暴力とは、闘争とは一体何か。何故戦うのか」という疑問がしばしば提出されながら、ついに最後まで答えは見つかっていない。

「新造人間キャシャーン」

(この作品の場合、視点は人間がA、アンドロ軍団がB、キャシャーンはCに相当する。)

これは作品全体が人間に対する激しい否定の言葉で埋っている。アンドロ軍団に迎合しようとする人間は随所にいるし、「ロボットハイジャック」など人間不信が露である。

「キャシャーン無用の街」は力には力を持って対抗するべきだと主張するキャシャーンと、無抵抗主義を通そうとする市長の対立を描いた作品である。これは単なる方法論の違いなどではなく、二人は暴力に対する基本的な考え方が違っているのだ。『わしは平和を理由に闘う者を好まん。』という市長に対してキャシャーンは『あなたのやり方が何処まで通用するか見ていましょう』と応じる。

そしてアンドロ軍団の暴政に甚えかねた人々は反乱を起こし、結果として街は破壊され、市長も人々も死んでしまう。だが、本当に市長は間違っていたのか?どちらが正しかったのか?答えを出せる人間はいないだろう。

26話以後はキャシャーン自身が次第に人間に対して冷やかな批判的態度を取り始め、そこに至っては話全体が視点の逆転を起こしている。

「宇宙の騎士テッカマン・失われた宇宙船」

南城二が地球に飛来した宇宙船をワルダスターか否かも確認しないままに撃破し、関係のない宇宙人を殺してしまっている。彼もまた絶対者になれない人間なのである。

こうした一連の視点の逆転による相対化の結果として各作品を通じて言えるのは、『正義者』の不在、暴力に対する疑問、戦う者は全て加害者でもある、という考え方だろうか。侵略を計る側とそれを防ぐ側という単純な図式の裏にあるさまざまの問題に対して、この視点の逆転というアプローチ法はその疑問点をはっきりさせる事において成功したと思う。

タツノコのSF作品は人間賛歌を伴わない厳しいヒューマニズムの作品である。

3 SF考証
タツノコSFアニメの陰の主役

タツノコプロのSFアニメは他作品に比べ非常に実在感があった。

「鉄腕アトム」や「8マン」のように原作の優れた作品はともかくとし『マンガなのだから何をやっても許されるのだ』という風潮の中において、何故この様にタツノコプロだけがリアルなSFアニメを製作出来たのだろうか?それは第1作「宇宙エース」の時より製作スタッフに、SF考証という部門が存在していたからである。

当時、SF考証家という考え方はなかった。SF考証を専門にやっていた人は小隅黎氏ただ1人であった。

氏は「宇宙エース」にはかなり初期から参加している。『シルバーリングが科学的には一種のエネルギーフィールドである。』などという解説は小隅氏が考案したものである。

小隅黎イコール宇宙塵の柴野拓美氏であることを考えると十分に納得のいくことであろう。

「宇宙塵」は1957年5月15日に創刊された日本最初のSFファンジンであり、現在も日本最高のSF創作集団として活躍している。「宇宙塵」2号の星新一「セキストラ」はその年の秋に「宝石」転載となり早くもひとりの『作家』を世に送り出している。現在の日本を代表するSF作家は総じて「宇宙塵」出身といっても決して過言ではない。

又、「宇宙塵」の柴野氏はSF予備軍としての「高校ファングループ」及び「地域SFサークル」に対し多大なアドバイスを施され日本のSF活動に大きく貢献された人である。

本年5月22日に開催された「宇宙塵20周年記念大会――コスミコン」と前後する様に、新聞、雑誌等に「宇宙塵」及び柴野氏についての記事が紹介されていたので御記憶の読者も多い事と思う。》

「宇宙エース」のSF考証における小隅氏の役割は大きい。シルバーリング以上のエースの必殺武器――プラチナ光線も氏のネーミングである。

アイデア・シナリオ等を専門に考えるスタッフの中には広瀬正氏がおり、広瀬氏のネーミングの快作には「宇宙エース」の仇役組織、ギャラクシーがあり、「科学忍者隊ガッチャマン」におけるギャラクターはその流れを汲んでいる。

「マッハGOGOGO」においても小隅氏はタツノコSF考証の知恵袋として活躍しているし「紅三四郎」でもSF味の強い作品にはきちんとした考証が取り入れられていた。「科学忍者隊ガッチャマン」において氏はタツノコスタッフの一員となり、かなり細部までSF考証を施している。

バードスタイルに変身する忍者隊とそのメカが一瞬ハローに包み込まれるといったアイデアは、SFソウルがなければ決して出て来るものではない。

外観だけをSFらしく取りつくろいながらも、ガラスのごとく砕け散るバリヤーを平気で描くプロダクションはタツノコプロの足許にも及びつかないのである。

しかし、SF考証にも限界があった。

「科学忍者隊ガッチャマン」における総裁X(エックス)が当初宇宙人であったものを狂戦士(バーサーカー)にしようというSF考証家のアイデアもタツノコ側は完全には理解していなかったようだ。

SFアニメ　を作る以上名作と言われるSF作品を読んでおくぐらいの心構えが欲しい。

とは言えタツノコプロは現存するアニメプロダクションでは一番良くSFを理解している。「新造人間キャシャーン」において、SF考証は完全に作品と一体化している。

基本設定からSF考証がなされた最初の作品であった。「科学忍者隊ガッチャマン」と同時期の為、いささか冷遇されているが内容的には決して劣らないものである。

「宇宙の騎士テッカマン」は『科学的な間違いは絶対に犯さないSFにしたい。』というスタッフの強い要望で西歴2000年頃の太陽系構成図すら作成されている。

ブルーアース号の発進シーンも多段階加速を行ない塔乗員に加わるG(重力)を少なくするなどSF考証というよりは科学考証に近い配慮が払われていた。しかし、これだけのSF考証が盛り込まれた作品ながら、テッカマンに物質の鎧を着せたり、ブルーアース号発進時に(他アニメの悪影響か?)左右に横揺れさせるなどという、SF考証が完全に空転している場面も多かった。やはりSF考証家はSFアニメに必要とされないようになるのが理想なのだろう。アニメ界の人々が、SFを理解すれば万事解決なのだから………。

SFファンは現在のSFアニメを見ながらフラストレーションを起こしているのだ。

いつの日にか、完全なるSFアニメーションが現われる事を希望して止まない。

完

資料 テレビ主題歌

レコード・ジャケット特集

／タツノコプロ・編

協力・コロムビアレコード（KV:カバーのみビクター）



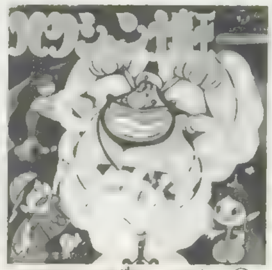
●マッハGOGOGO SCS-33



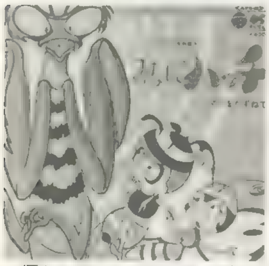
●おらぁグズラだど SCS-61



●紅三四郎 SCS-79



●ハクション大魔王 SCS-89



●昆虫物語みなしごハッチ SCS-101



●いなかっぺ大将 SCS-114



●カバトット SCS-125



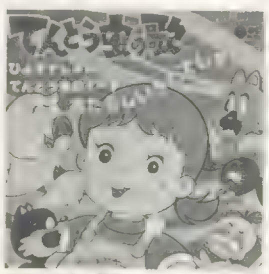
●決断 SCS-127



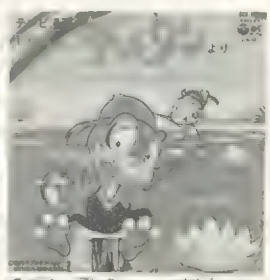
●樫の木モック SCS-151



●科学忍者隊ガッチャマン SCS-505



●てんとう虫の歌 SCS-298



●けろっこデメタン SCS-186



●破裏拳ポリマー SCS-240



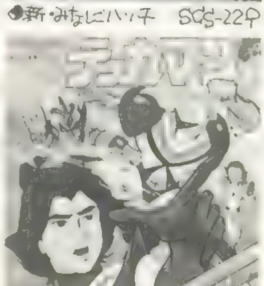
●新造人間キャシャーン SCS-516



●新・みなしごハッチ SCS-229



●ウリクペン救助隊 SCS-239



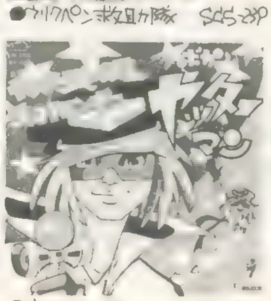
●宇宙の騎士テッカマン SCS-262



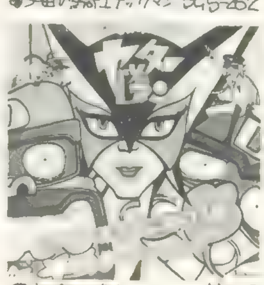
●ゴワッパー5ゴーダム SCS-289



●ポールのミラクル大作戦 SCS-322



●ヤッターマン(1) KV-47



●ヤッターマン(2) KV-48

杉本五郎
(フィルムコレクター)

映画フィルムはなぜ?

(第7回)

季節もちょうどよろしいので、今回は初めから少し脱線して、怖いお話をいたしましょう。

(第1話　お化けのスライドの話)

私が少年時代にオモチャの35㎜映写機でよく遊んだ事は前回にもくわしく書いたが、この種のオモチャ映写機は実によくこわれた。スプロケット(フィルムを送る歯車)が、うすいブリキ板の打ち抜きで、シャフトにハンダ付けで止めてあるだけなので、100尺以上の大巻のフィルムを掛けると、すぐにハンダの部分がはがれ、空回りをしてフィルムが進まなくなってしまう。安い機械だから仕方がない、と、また新しいのを買い直す。こわれたと言っても、電球を入れて映写する機構の方はなんともない。この方はこわそうとしてもこわれようの無い程簡単な物なのである。したがってこのこわれた映写機を幻燈器のかわりにして遊んだものである。

その頃(昭和初期)一番多く吸われていた煙草はゴールデンバットで、定価7銭であった。もちろん子供の私が吸うわけがない。(現在でさえ吸わないのだ。)当時、私の祖父が碁会所をしていて、そこにはいつも、お客の捨てた煙草の空箱が落ちていた。これを集めてきて、その中箱の方を幅35㎜に切り、18㎜×24㎜の窓を切り抜き、セロファン紙を貼りつける。これに絵を描いて映写窓の上から差し込むと、つまみ付きのスライドマウントになるわけである。上の方の幅を広くしておくと、暗いところでも間違いなく、スッと差し込むとキチンと止まる。2寸角のスライドマウントのように、横になったり、さかさまに映ったりしてあわてる事もなく具合がよろしい。セロファン紙だから、セルロイドやガラスと違って墨の乗りも良く、ペンでも筆でも楽に書けるしボカシもきく、水性の染料で彩色も自由だ。書きそこなったらやぶいて捨てても、貼りかえても良い。セルと違って普通の糊で良くつく。ただセロファン紙は現在のように、文房具屋に行けば各色そろえて売っていると言うわけではないので、もっぱらアメやラムネのお菓子の包み紙を利用した。セロファン紙は水につけると柔らかになるので、しわくちゃな物でも濡らして、ガラス窓に貼っておくとピンとしわが伸びて新品のようになった。

色セロファンを幻燈器で映すと、インクや絵の具と違って実に美しく、ステンドグラスのように鮮やかな色であった。

私はこれにお化けの絵を描いた。何と言っても暗いところにポカッと絵が現われるのだから、お化けが一番実感があり迫力があった。私は100枚お化けを描いて、「百鬼夜行」のスライドを作る事にした。しかしなにぶん子供の事だから、青いセロファンにはお岩様、赤いのには大入道、黄色いのは唐傘のお化け、緑はカッパとヒョウタンのお化け、と描いていると、すぐキャラクターが品切れになってしまう。だがありがたい事に私が夜、描きつかれて寝てしまった後、父が夜なべで沢山描いてくれた。あかなめ・せうけら・大首・天井下り・吹消し婆・等々、今でも50ぐらいのお化けの名前を憶えているのは、まったくそのおかげである。

戦後に、水木しげる氏が多くのお化けを描いているが、その絵を見た時、父の描いてくれたお化けと、水木氏のお化けとは同じ種本から採られた物である事がわかった。いやみ、と言う女の姿をした爺いのお化けにしても、うずめ、と言う赤ん坊をだいた女の幽霊にしても、生首と片足の付いた片輪車、鳥の顔をした、おんもら鬼、など、どれも20数年後に水木氏が描いた物と同じであった。しかし父はそれらのお化けを全部記憶で描いていたらしく、私はその原本の方は一度も見た事がなかった。すでに手放してしまい我が家には無かったと思われる。スライドの中には父の創作と思われる物もあり、踏んづけられたアンパンのお化け、たべ残した弁当のお化け、などと言うとぼけた物もあった。

これを映写機の上から差し込んで、スイッチをいれると、壁にパッとお化けが現われ女の子がキャッと言う。その頃は怪奇マンガなどと言う物のない時代なので、そんなにお化けの種類を知っている子供はいない。私は得々としてお化けの解説をする。なにしろ夏の昼間から、雨戸を閉めて映すのだから暑い。

今と違ってクーラーなどと言うゼイタクな物を持っている家はないから、ウチワをパタパタさせながら説明する。このウチワでレンズの前をふさいでおいてスライドを差しかえサッとはなすとパッと映る。スイッチを切ってしまい真暗な中でモタモタしているより具合がよろしい。1枚20秒映して10秒で差しかえても、「百鬼夜行」100枚分を映すのには50分もかかる。そこで助手を使って、機械の方も2台にして交互に映すと30分ぐらいで済む。何しろ6畳の部屋を締め切って10人以上の子供達が見るのだから、夏の暑い日に30分も映写していると、目が廻って頭がポーッとなり、こっちの方がお化けのような顔になってしまう。これが現代のように家庭にクーラが入っていて、子供の人数も少ないと、何とかゴッコに発展してしまう恐それがあるが、当時は本当の映画館でさえ男と女の席は別々になっ

ていた時代であり、女の子はキャアキャア言っても、けっして暗いところで飛びついてくるような、はしたない事はしなかった。（早く生まれて損した。）

夏の夜は子供達が中心になって、お化け大会をして遊んだ。荒川の河原から葦（よし）を沢山切って来て、路地の両側に立て、大きなテルテル坊主に古ゆかたを着せた幽霊や、大ザルに紙を貼って大入道のお面を作り、少し年上の子供がかぶって、おどかす役をつとめる。

私は路地の出口につながる広場で、お化けの幻燈を映す役を引受けた。毎年夏休みの間に３回ぐらいは、こうした催しをして遊んだものであった。だが私は中学１年の夏休み以後、この幻燈あそびをピタリとやめてしまった。それは実に気味の悪い事に出会ったからである。

その日もカステラの空箱に、選り抜きの怖いお化けのスライドを40枚程入れ、１枚ずつ差しかえては映写していた。どの絵ももうおなじみで説明もなれていた。今は人前でしゃべるのは苦手で嫌いだが、その頃の私はスライドを映さない時でも、子供達（自分も子供だが）にお化けの話しを聞かせるのが好きであった。ことに小さな子供達にお化けの話をする時は、自分は部屋の隅の壁によりかかるようにし、子供達のうしろに、なるべくうす暗い空間があるようにしておき、話をはじめる。話の途中、最も怖くなって来たところで突然黙ってしまうのである。そして子供達のうしろの空間をじっと見つめて細い声で、「う・し・ろ・を・ご・ら・ん・・・・・」と言うのである。キヤッと言って飛びついて来る事100％である。ただし鼻垂れ小僧ばかり飛びついて来て、可愛子ちゃんに飛びつかれた思い出がない。

さて、その日も得々として説明していた。「では、次のお化けは・・・・」と言って、私はドキッとした。映し出されたのは私の見た事もないスライドだった。ただ単にうす青いセロファンに、女の顔がペン書きで描いてあるだけなのだが、泣くとも笑うともつかぬ顔の気味悪さ、口が赤く塗ってあるのが、へんにヌメヌメとして何とも気色が悪い。無論私の絵ではないし、父の物とは筆づかいが違う。私はいそいでスライドを引き抜くと、次の絵と差しかえた。あわててレンズにうちわで蓋をするのを忘れ、スクリーンに光を映してしまう失敗さえした。あとはかなり、しどろもどろな説明をしながら一応全部映し終って、カステラ箱をかかえて家に帰ったが、明るい電燈の下でもその夜は何となく気持ちが悪く、箱を開けてしらべる気にはなれなかった。翌朝、さすがに太陽の下では怖くないので１枚ずつ窓の明りにすかして見た。そしてまたゾッとした。その絵はついに見当たらなかったのである。私は昨夜一諸に見ていた友人達にも聞いて見たのだが、「さあ？そんな絵が映ったかなあ・・・」と少しも憶えていないのである。

私は今でも、あれは私の目のせいであったのか、だれかのいたずらであったのかわからない。しかしそれ以来、お化けの幻燈を描く事も、映して見る気もしなくなってしまったのである。

（第2話「エスエスフィルム」の話）

これは私が小学校４年生の時の話である。父が話してくれたエスエスフィルムと言う話であるが、何でこの話をエスエスフィルムと言うのか、実を言うと今でもわからないが、こんなストーリーであった。

ある場末の映画館で日本の現代劇の映画を上映していた。画面は日のサンサンと降りそそぐ草原で、男女が恋をささやいているところである。何しろモノクロサイレントの時代であるから、弁士はここぞとばかり名調子で美辞麗句をならべ雰囲気を盛り上げていた。

その時、客席から一人の少年が立ち上って、「あっ、手が出ている！」と、さけんだのである。

「こらっ小僧うるさいぞ、騒ぐならおもてへ出て遊べ。」客がそう怒鳴りつけるまでもなく少年はおもてに飛び出して行くと、ウィンドーの中に飾られている大形のスチール写真を指差して、

「ほら、ここにも写っている。この草の中に手が出ているんだ！」

あまりの気狂いじみた騒ぎかたに、木戸番の親爺が出て来て看板のスチール写真を見てギョッとした。今まで気が付かなかったが、たしかに草の中から人間の手が出ているのである。大人たちは劇の甘いストーリーに気を取られていて気が付かなかったが、子供は退屈していたので、かえってそんなところに目がいったのであろう。

話はここからはじまり、この場面でラブシーンを演じていた主演男優が、実はその前夜愛人を殺してそこに埋め、完全犯罪をたくらんでいたが、偶然ロケ地が同じ場所になり、たしかに、完全に埋めたはずの死体の手が映画の中に写ってしまったと言う、怪談がかった話で、どうやら当時「新青年」と言う雑誌に載っていた江戸川乱歩の小説を父が適当に改作して話してくれたらしい。しかし後に江戸川乱歩全集を調べて見たが、それらしい話は見つからなかった。友人の説によると当時「新青年」に乱歩の名前で発表されたが、実は横溝正史の代作だったので、乱歩全集に入れなかったのだとか、あるいはその逆であるとか教えてくれたが、ことフィルムに関するとはいえ、小説の話ではあまり熱を入れて探索する気もなく、今だにわからないままである。それにこの話は怪談よりも探偵小説にちかく、子供心にもあまり怖くなかった。流行歌手が愛人を殺して自動車のトランクに入れる現代では、実話の方が小説より怖いくらいだ。では、なぜこんな話を書いたかと言うと、この話を前もって聞かせておかないと、この後の話がなぜ怖いのかわかってもらえないからである。

では私の経験した怖いアニメフィルムについて話そう。

その夜家の者は用事で出ており、留守番の私は一人でオモチャの映写機を回して遊んでいた。フィルムは数ヵ月前に近所のオモチャ屋で買った「無敵凹平地獄めぐり」と言う漫画で、劇場用の35㎜のサイレントマンガをオモチャ用に再編集した短編で、長さは50尺ぐらいであった。地獄へやって来た無敵凹平（キャラクターは宮尾しげをの団子串助にそっくり）が、地獄で大あばれをして見せるだけの





話で、タイトルもトップ タイトルには題名だけで、スタッフの名前は一つもない。今はもうこのフィルムが手もとにないので調べる事ができないが、大正中期の北山映画の作品らしい。なかほどに2枚のタイトルがあり「針の山、つるぎの橋もなんのその 来かかる火焔の大地獄」と言うのと、「火焔地獄も難なく通過、えんま大王びっくり仰天」と言うのがあった。オモチャフィルムのタイトルはメインタイトルでも20コマ以下、中間のタイトルはいくら字数が多くても10コマ以下しかついていないので、手回しのハンドルを止めて読むようになっている。何しろ子供にとって、フィルムは本などとはくらべものにならない程高価な物だから、何度も何度も映写して見る、何度も映写しているのだから今さらタイトルのところで止めて読んで見ても仕方ないのだが、タイトルのところに来ると無意識に手を止めてしまう。

この夜どうしたかげんか、タイトルの1コマ前のところで手が止まってしまった。そして思わず、アッ！と声をあげてしまった。

手が写っているのである。画面の右端に、しかも空中の、そんなところに手のあるはずのないところに、人間の細い手が写っているのだ。アニメーターの手が写り込んだのではない、漫画で描いた細い幽霊のような手が写っているのだ。漫画の手なんて怖くも何ともないと思うだろうが夜、真暗な部屋で一人で映画を映している子供にとって、今まで何度も何度も映写していたフィルムの、しかも考えられない場所に、変な手が写っているのは、かなり気味の悪いものである。私は急に寒気がしてきて、映写をやめると、フィルムをかけたまま、映写機を押し入れに入れてしまった。

フィルムに手をふれるのが恐ろしかったからである。翌日その事を父に話すと、父はフィルムを日にすかして見ながら、

「たしかに1コマだけに手が写っている、しかしこれは買った時から写っていたんだが気が付かなかったんだと思う。たぶんこの映画では、鬼が亡者をかついで行く後を、凹平がつけて行くシーンがあり、このフィルムではオモチャ用にストーリーをつめた為に、亡者のシーンをカットしたが、1コマだけ切り残してしまったんだね。そうでないと、画面の隅のかなり高いところに細い手が写っているはずがない。別に恐ろしいものではないよ。」

そう言われても亡者の手と聞いては、いよいよ気持が悪く、友人のチャンバラ映画と取り替えてしまった。もちろん亡者の手が写っているなどとは話さなかった。

マンガの手で怯えるなどと言うと、私が特に憶病な少年だったように思われるかもしれないが、一人真暗な部屋で映写していて、無いはずの物が映った気味の悪さは、経験した者でないとわからないものだ。

(第3話・人面疽の話)

これはアニメではなく特撮の方に関係のある話である。

人面疽（じんめんそ）と言う物がある。あると言っても本当にあるのかどうか見たわけではないが、「和漢三才図会」という昔の百科辞典に絵が出ている。膝にできる人間の顔をしたオデキのことで、貝母（ばいも）の粉を麦藁で、その口の中に吹き込めば直るという。あるとも思えない病気の直し方まで書いてあるとは随分と親切な辞典だが、この本では木霊（こだま）だの蜃気楼（しんきろう）などは動物の方に属しているのだから、怪奇辞典も兼ねているようである。

さて映画フィルムの話にもどすが谷崎潤一

郎の小説に「人面疽」というのがある。これもサイレント・モノクロ時代の話であるが、その頃、地方の二流館で、こんな映画が上映されていて大変評判が高かったという。当時海外にまで名を知られている日本の某女優が花魁（おいらん）に扮して主演しているが、その花魁を慕って来る客で、実に気持の悪い顔の小男がいた。花魁はこの男を騙して手伝わせて、大形のトランクに隠れて美男の外人とアメリカに密航する。だまされた男は花魁を呪って自殺する。ここから映画は特撮になり、トランクに隠れた花魁の膝にオデキができて、やがてそれがあの死んだ男そっくりの顔になる。花魁は膝に包帯を巻いて隠し結婚するが、その夜、ダンスパーティで踊っていると、人面疽は包帯を喰い破り、口から血を流しながら、今まで物を言わなかったのが初めて笑い声をあげる。花魁はこれを見て発狂すると言うストーリーである。なぜこの映画が呪われた映画なのかと言うと、まず、その女優がそんな映画に出演した憶えがないし、その会社（地球のマークと言うから、ユニヴァーサルらしい）も、そんな映画を製作していない。人面疽になる醜い顔の日本人も誰かわからない。したがって似たようなストーリーの映画の何本かをもとにしてどこかの小会社が撮りたして製作したとしか思えない。特に膝にできた顔が花魁の指に喰いつくシーンの特撮がどうして撮ったのか、技術的にもわからない。さらに気味の悪い事は、この映画を小さな試写室で映写すると、最後のシーンの、口から血を流した人面疽が、画面一杯にクローズアップされて笑うところで、サイレント映画なのに、どこからともなく笑い声が聞えると言うのである。この映画にはこの女優に捨てられた男の恨みがこもっているのである。と言うのが「人面疽」と言う小説のストーリーである。さて、なぜこんな風に、小説のストーリーを長々と引用したかと言うと、私自身やはりこれとよく似た気味の悪いフィルムに出会った事があったからである。

私はよく古道具屋でエタイの知れない、素人の写した16㎜フィルムを見つけて買って来る事がある。早速その夜、1人で試写するのであるが、大概は子供の成長記録か運動会や旅行などで、何かと撮影者の家族がこっちを向いてニッコリ笑う、と言う手のものが多い。

だが中には何で高いフィルムを使ってこんな物を撮ったんだろうと思うようなつまらない風景が延々と写っているものもある。知らない人間の顔の大写しというものは、1人で真暗な部屋で見ていると、何とも気味の悪いもので、泣き顔や怒り顔よりも、澄ましている顔がニヤリと笑う時が一番気味が悪い。

大正時代の末から昭和の初めにかけて、現在の8㎜映画のように16㎜が流行した時があった。なにしろその頃の16㎜は今日の8㎜と違って高価であったから、余程の金持ちでないと出来ない大道楽であった。

したがってこういう人達の撮ったフィルムを見ると、いかにも金持ちのドラ息子と言う感じのモボ（モダンボーイ）づらをした奴が写っている。

こうしたフィルムの中で、私は不思議な映画を入手した事がある。出演しているのは男と女の2人だけであるが、素人の映画にしては珍しく、ちゃんとしたストーリーがあり、明らかにセルフタイマーを付けて、出演した男が、一人で役者とカメラマンと監督を兼ねている事がわかる映画であった。

ストーリーは、カフェーの女給に肘鉄を喰わされた男が、その女給を海岸にさそい出し、岩の上から突き落としてしまうという筋で、何



しろ当時はフィルムの感度も悪いし、ライトも素人では思うように使えないので、室内では当然露出が不足する為に、カフェーの場面は物干しの上に、壁紙を貼ったフスマを立てて、その前にリンゴ箱を重ねて白い布をかけてテーブルのように見せている。風が吹くと壁がフラフラしたり、テーブル掛けがまくれてリンゴ箱がのぞいたりする。それにひきかえ、海岸の場面の方はロケのせいもあって恐ろしいくらいリアルであった。女の方は馬鹿馬鹿しいと言うような顔で演技しているが、突き落とされる瞬間の真にせまった顔、突き落とされて岩の上で血まみれになってピクとも動かない。男の方は終始大真面目で大芝居をしている。その真剣さは目の光りにも現われている。コイツ本当に殺ったんじゃないか、そうでなくても、相当の恨みがあるんじゃないかと言う感じが出ている。最後に死骸を足で蹴ると、こっちを向いてニヤリと笑うアップになる。ああ何とその時「ケケケケ・・・」と言う笑い声が聞えたのだった。

素人の撮ったサイレント映画の16㎜、それもアンプにはスイッチが入れてないのに声が出た。思わず背筋がゾーッと寒くなった。

しかし、私ももう子供ではない。一瞬ギクッとしても、少しぐらいの事では驚かなくなっていた。子供の頃と違って恐怖心よりも探究心の方が上回っていたから、早速巻きもどして、もう一度映写して見た。たしかに「ケケケケ・・・」と言う笑い声が映写機の方からするのである。また巻きもどして今度は燈りをつけたままで映写して見た。原因はわかった。フィルムのへりの部分がなぜかそこだけザラザラになっていて、リールにこすれて音を出し、「ケケケケ・・・」と鳴るのだった。幽霊の正体見たり枯れ尾花。だが、何となく感じの悪いフィルムであった。コマ伸しなど作ってここに入れたいのだが、数年前の火災の時焼失してしまったので、お目にかけられないのが残念である。

（第4話　ある映写技士の死）

さて今度は本当の怪談話である。地方によっては、毎日映画を上映している小屋のないところがある。こうした小屋では地方巡業の映画班が回って来た時だけ映画が上映される。

そういうところでは宿屋もなくて、映画班の一行は楽屋に泊らなくてはならない事もある。その日、目的地に着いたのが夕方であった。映画は明日からなのでまずゆっくりと一泊してと思っていたら、何と前日まで興行していた女剣劇の一座がまだ小屋に泊っていて、私達はしばらく使わなかったホコリだらけの空部屋をあてがわれた。弁士が2人と伴奏のレコード係兼荷物運びの若い衆が1人、それに映写技士の私と合計4人がその部屋に泊ることになった。体の方はつかれているのだがどうも寝つかれない。天井には板が張ってなく、すすけた大きな梁がうねっていて、その上から青大将が落ちてくるような気がしたり、一ヵ所だけ塗り直した白壁のシミが、何となく人の形に見え、壁の中に死体が塗り込めてあるよう思われたり、そんな事を考えていると目がだんだん冴えてくる。とろとろっとしたかと思うと、無精ひげをはやした、やせた男が胸の上にのしかかってくる夢を見て目がさめる。気のせいだろうと思って無理に目をつぶり、少し寝かかると、大きな女の顔が壁一杯に広がって、又、目がさめる。朝までそんな事をくりかえし、はれぼったい目をした顔で話し合って見ると、どうも、皆、同じような夢を見てうなされたらしい。

興行の方は何の変りもなく、一応予定程度の入り（入場者数）であった。夜は女剣劇の一座も発ったので、広い部屋の方でゆっくりと寝る事ができた。

ここは一日だけなので、翌朝次の興行の打ち合わせをしているところへ、小屋主がオタロー（お金）を持ってやって来た。

「どうもおつかれさまでした。一昨夜は手違いで、むさくるしい部屋にお泊めして申しわけありませんでした。お寝みになれましたでしょうか？」と、言うので、

「お寝みどころか、変な男の夢を見て寝られなかった。」と、愚痴をこぼすと、
「やっぱり出ましたか。実はあの部屋は５年ほど前に映写技士が首をくくったので、その後使わなかったんです。」と言う。聞けばなるほど幽霊の出そうな因果話であった。

　その映写技士というのは、もと或る映画会社のカメラマンで、かなり腕の立つ男であった、当時バンプ役で売り出していた某女優を撮らせたら、この男の右に出る者がない、と言われる程の腕で、事実、心のこもった美しさを感じさせる場面を撮ってくれるカメラマンであった。心がこもるのも道理で、実はこのカメラマンはその女優に「ホの字」だったのであった。

　ちょうど社運を賭けたと言われる大作物の映画がクランクアップした日、このチャンスにと、意を決して心のたけを打ち明けたが、こういう純情な男は映画界に向かないもので、ものの見事に振られてしまった。女優の方はとうに資本家の息子と出来ていたのだった。

　それからのカメラマンはすっかり腕が荒れて、いつしか映画界から身を引き、忘れられてしまった。しかし一度この水に染まった者は、なかなかに抜けられないもので、ついに田舎回りの映写技士にまで落ちぶれて、この小屋まで流れてきた。一方、女優の方も、このカメラマンが撮らなくなると、さっぱり見栄えがせず、とうとうお化け映画にも出るようになってしまった。女優も化けるようになるともうおしまいで、資本家の息子との話も遊びだけに終り、映画界を引退、と言うより消えてしまった。

　当時はまだ映画の全盛時代であり、この小屋も常打ちで映画を掛けていたので、技士はいつかここに居着いて20年近く夢の間に過ぎてしまった。

　たまたま隣の町に掛かった、お化け芝居の一座にその女優がいる事を偶然下足番の爺さんから聞いた技士は、早速一弁壜を下げて20年ぶりにその小屋へ逢いに行った。あの頃は大女優と新進とは言え一介のカメラマンの関係だったが、今はどちらも流れ者の似たような境涯、と言う、そんな気安さが逢いに行かせたのであろう。どんな話があったのか、翌朝ベロベロに酔って帰って来て、昼過ぎまで寝ている。そして夕方起きると又酒である。

　映写が出来ないから、と注意に行くと、大荒れに荒れて手がつけられない。やがて時間になりお客が入って来てどうやら映写が始まったと思ったら、急にお客が騒ぎ出した。

　見ると、彼が撮ったあの女優が写っている所ばかり集めたフィルムが写っているのである。(彼が大切にしているフィルムで、時々自分の部屋で、手回しの映写機で写して楽しんでいた筋も何もないもの)
弁士は説明の仕ようもなく困っている。あわてて中止させたが、技士はブツブツ訳のわからぬ事を言うばかり。しかたなく映写はかわりの者にやらせて、自分の部屋にもどらせると、彼はまた寝込んでしまった。明け方ちかく目がさめたのか、１人でカチャカチャ手回しの映写機を回す音がしていたが、そのまま静かになってしまった。寝てしまったのだろうと思っていたら、昼になっても起きて来ない、のぞいて見たら首を吊って梁からぶら下っていたのである。話し好きと見えて小屋主の話はまだつづくのである。

「一応変死なので警察を呼びました。その時変な事に気がついたのです。壁に火箸が２本突き刺してあるんです。しばらくは何の事だかわかりませんでしたが、部屋の隅に映写機が置いてあり、フィルムがかかったままになっているので、燈りを入れて見て驚きました。壁に大きくその女優の顔が映り、その眼のところに火箸が２本突き刺さっていたのです。

　その顔が笑顔だっただけに、かえってゾッとしました。「え？、その女優がその後どうなったか？と言うんですか？」「それがちょうどその時間に煮え湯を浴びて大やけどをして、目が見えなくなったとか言う事になれば、とんだ因果話が出来るんですが、女と言うものは業（ごう）が強いんですか、あれだけ呪われても何の事もないらしく、次の興行地へ移って行きました。その後はどうなりました事やら。あまりパッとしないと見えて、噂も聞きません。あの部屋の壁は塗り直しましたが、何度塗り直しても、女の顔が見えるような気がして、もう何年もあの部屋は使ってないんです。あんたは映写技士さんだから余計にうなされたんでしょう。出発の前にお線香でもあげて行って下さい。」





子供の頃は、変な物が画面に写っただけで怯えてしまい、そのフィルムには手もつけなかった私も、40年もフィルムを取りあつかっていると、こちらの方が化けるくらいの古狸になるもので、怪談よりもその女優の写っているフィルムの方が気になって、
「そのフィルムはどうしました？」と、聞いてみた。
「あのフィルムは棺と一緒に燃しました。あのフィルムの火で焼かれれば本人も満足するでしょうから」
とは、まことに残念な事であった。

(第5話　火の車の話)

"火の車"と言っても貴君のふところの事ではない。火炎車とも言い、火炎につつまれた真赤な御所車で、この中には火事のお化け(鬼)が乗っている。私がこれを見たのは8年ぐらい前の事であった。見たと言っても実体のない物だから、感じたと言う方が正しい。

私達の年頃のオッサンは少年時代には、西洋館（異人館とも言う）にあこがれていた。

白い壁に赤い屋根、庭にバラの花が咲いていて入口に大きなシュロの木があり、金髪の少女が弾くピアノの音がもれてくる。そんな家の空想である。しかし現実の方は切実で、戦争が終れば食う事に追われ、そんな夢は遠くに置き忘れてしまった。かくて数10年たち、私は大宮市の家から東京へ通う途中、与野駅前で電車の中からふと、その置き忘れた想い出の家によく似た西洋館を見つけた。白壁は



うすよごれ、屋根は古ぼけて赤くはないし庭もせまい、バラも咲いていないがシュロの木はちゃんとある。私の想い出も年数から言えばこのくらい古ぼけていてもいいわけだ。

　電車からおりて見たくなったが、そこまで夢にあこがれる齢でもないので、人妻になってしまった、昔の恋人の姿を見るような気持ちで、それ以来それとなく見まもって来た。

　それは12月3日、小雪のちらつく寒い日の事であった。東京からの帰り、ふとこの家を見ようと振りかえって驚いた。窓と言う窓から火炎が吹き出し、家は焼け落ちる寸前、正に断末魔の姿であった、くすぼけた古瓦もこの時は真赤に輝いていた、真のあたりに見る恋人の死である、私はその時屋根の上に火炎車の飛ぶのを感じた。

　その後焼けただれた家は、かなり後までそのままになっていた。私はつとめて反対の方を見るようにし、その家を見ないようにしていたがしかしその時すでに、私と火炎車とは何か不思議な糸によってつながれていたらしい。

　その翌年の12月31日に、私のところでいつもフィルムの現像をたのんでいる「育映社現像所」が全焼した。さらにその翌年の7月12日の事である、その頃私は「東京12チャンネル」テレビの「私の昭和史」という番組に毎回フィルムを貸していた。
この番組は毎回ゲストを呼び、ホストの三国一朗と対談をするのであるが、この時のゲストは、鈴木澄子であった。鈴木澄子とはかの有名な化け猫女優である。後に大映と合併した新興キネマが、日活や松竹の時代劇に対抗する為に製作した怪猫や妖怪の出る映画が大当りし、これで危なかった屋台骨を立ち直らせたのであった。

　私はコレクションの中から、鈴木澄子の主演している映画「怪猫謎の三味線」「有馬猫」「狂恋女師匠」の3本をさがし出し、その中から怖そうなところを4巻にまとめた。こうした古い映画は35㎜可燃性なので、そのままではテレビ会社では編集する事も放映する事も出来ない。16㎜に縮少焼付けし直さなければならないのである。そこで私は真夏の暑い中を、汗をふきふき4巻のフィルムをかかえて育映社に出かけ縮少焼付を頼んだ。

　「火事の時は大変でしたでしょう。」などと社長と世間話などをして、夜8時頃家に帰って来た。それから数時間後、私の事務所の隣室の天井付近から出火、原因不明のままフィルム倉庫まで全焼してしまった。化け猫映画の方は数日後に縮少16㎜版が出来たので番組には穴もあかず、三国一朗が少年時代にあこがれた美女、鈴木澄子との御対面は、昭和46年7月27日「なつかしきかな怪談映画」として無事放映された。

　どうも火炎車のお化けは、育映社へ行った時、私の背中に着いて来たらしい。



昭和13年(1938)新興キネマ作品
「怪猫有馬猫」主演・鈴木澄子

　この原因不明の火災は、火の気の無い所から出火しているので放火の疑いもあるが、類焼した家が損害賠償の訴えをおこしたので、元のところに家を建てるより、いっそ引越そうと、ちょうどこの化け猫映画を私に売ったフィルムブローカーが福生市に住んでいて、自分の家のそばの横田基地付近には外人ハウスの空家が沢山あるから来ないか、と口をかけてくれた。それは少年時代にあこがれた西洋館とはまるで違う貧弱な家であったが、ともかく外人の家には違いなかった。

　この引越しを手伝ってくれたのは、近所の中華そば屋の兄んちゃんで、気の良い若者であった。仕事の後でレンタカーを借りて来て荷物運びをしてくれた。

　ところがである。今度は彼の勤めている店で主人がちょっと目をはなしたすきに、油鍋に火が入って店は丸焼けになり、彼は焼け出されてしまった。どうやらお化けは彼に付いて行ってしまったらしいのである。

　「本当に気の毒だったねえ。」などと同情して何かと付き合っていたら、火炎車は彼の所から、又、私の所へもどって来たらしいのである。それから数ヵ月後、フランス映画社が私の所にフィルムを借りに来た。ハローキートンシリーズの上映をする為に、フランスから輸入したフィルムと、私がアメリカから買ったフィルムとが、同じ映画なのにつなぎ方に違いがあるらしいので映して調べて見たい、というのである。断る理由もないので承知する事にした。フランス映画社は喜んで、ヤマハホールでのハローキートンの試写会の招待券を置いて行った。

　当日私は銀座のヤマハホールへ行って唖然とした。ホールはボヤを出して水びたしとなり、とても試写会どころではないありさまなのである。私は又も火事のお化けにしがみつかれないうちにと、早々に逃げ帰ったのであった。

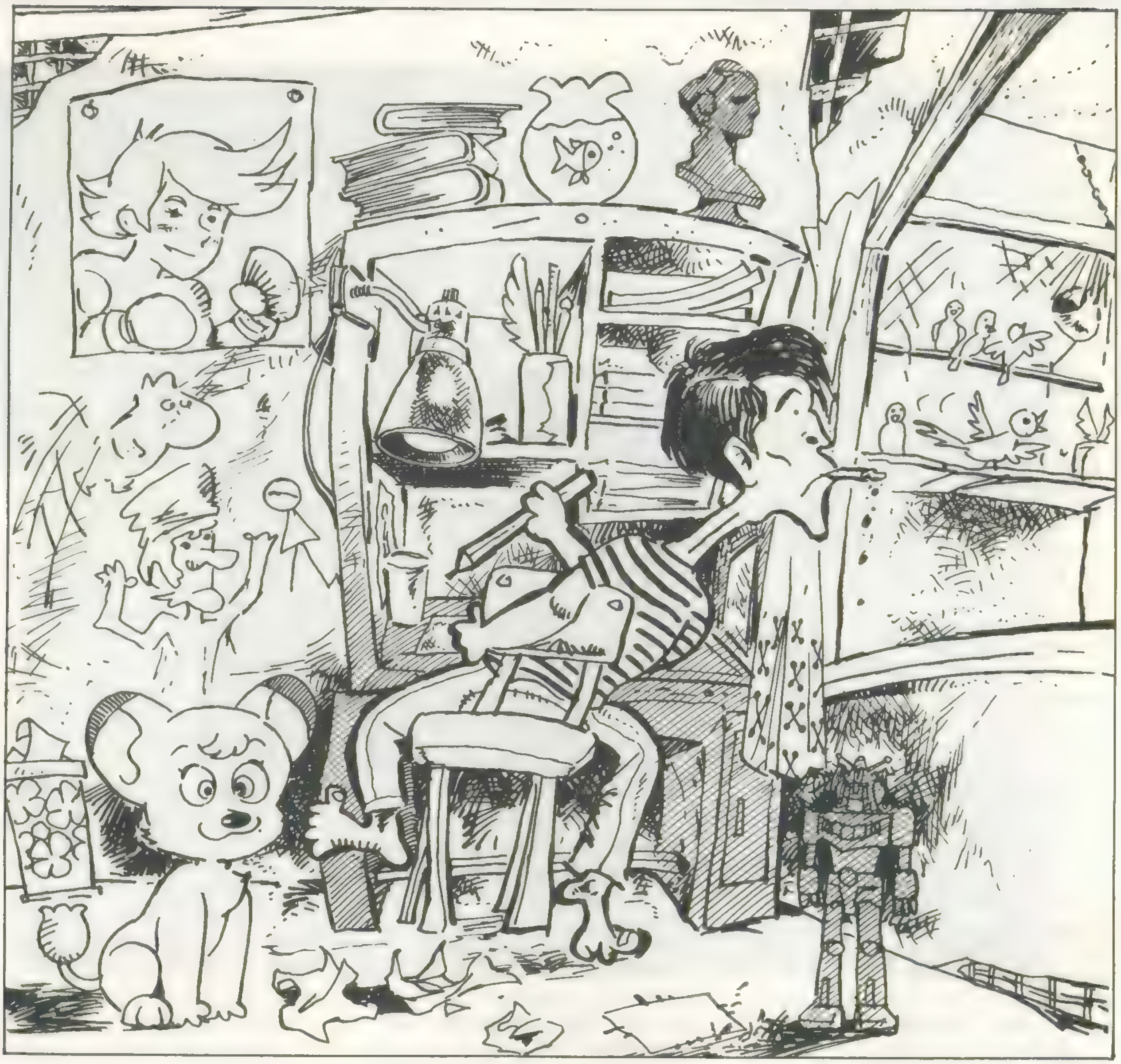
　その後火炎車のお化け（鬼）は、どこへ行ってしまったのか、私のところには戻って来ない。もう絶対に戻って来てほしくないのである。ことによると、貴君の背中に乗っているかもしれませんよ。ほら、うしろに赤鬼がニヤリと笑って立って居るような気がして来たら危険ですぞ。

　まだこのほかにも、四谷怪談の映画と実演の、連鎖劇を持って移動興行をして、弁士も役者も、映写技士の私も、全員祟られて、怪我をし映写機のギヤが割れ、スピーカーのコイルまで断線すると言う、とても常識では考えられない事件もあった。

　怪奇とか怪談とかいっても、それに興味をしめさない人にとっては、偶然とか気のせいでかたづけられてしまう。

　四谷怪談の話も書きたいのだが、もう予定の頁数をはるかにオーバーしたし、怪を語れば怪を呼ぶ。と言う諺もあるので、本当の物の怪を冥府から呼び出さないうちにこの回を終る事にする。

僕の仕事部屋



絵と文・金山明博

最近、３羽いた十姉妹が５羽に増えた――。
子供が２羽卵から、かえったのです。僕はひまをみつけては、こうして鳥とか金魚とかを同じ姿勢で２～３時間は、あきもせずにながめています。友達から良く“君はいったい何が趣味なの？マラソン？野球？映画？酒？ etc ……”って聞かれることがありますが、これといって思いあたるものがありません。でも、ひよっとしたら馬鹿づらをして鳥や金魚をボケーッとながめているのが僕の一番の趣味なのかな!?

こうして鳥をながめていると、昭和40年に虫プロダクションに入社したての頃、当時**「ジャングル大帝」**班で作画監督をやっておられた勝井千賀雄さんのことを思い出します。

あの**「ジャングル大帝」**のオープニングでフラミンゴが群れをなして飛ぶシーンの素晴らしさは12年後の今でも忘れられません。

「ジャングル大帝」で初めて下手くそな原画を描いた時なんかも、勝井さんにチェックしてもらいましたが、自分の持ちカットの80%はリテーク、再々リテークで、それでも原画が良くない場合は、とってもやさしい口調で“全部動画までやりなさい”って言われて、正月を返上して動画を描いたことがありました。

なまけ者の僕にとってアニメーションのきびしさ楽しさを教えられたのは、あの頃だったように思います。

実はこうしていつまでも、ボケーッとしていたいのですが……女房から“あんた!.鳥と英美子（長女で２才です。）とどっちが大切なんや.!”って言われてしまいそう…………。

かなやまあきひろ／38才
アニメーター

昭和40年４月　虫プロ入社（当時26才一給料17,000円）41年「ジャングル大帝」。43年「わんぱく探偵団」。45年「あしたのジョー」「やさしいライオン」「ムーミン」。43年「千夜一夜物語」。等の原画及び作画監督をへて、51年「コンバトラーＶ」52年「ボルテスⅤ」の作画監督に至る。　―――以上主な参加作品。

アニメと私

初めて仕事をした頃のはなし

神谷　明（声優）



昭和45年５月、研究生として劇団テアトルエコーに入った僕は、毎日午前11時から午後４時迄研究所に通い、発声、モダンバレー、声楽などの基礎訓練を受けていた。

その年の秋、僕はテレビに初めて出演する機会があった。僕の貰った役はギターを抱えて歌う流しの役だった。その役割は一軒の焼き鳥屋に１人の外人が来て色々なものに興味を示している所に現われ、調理場の流しと職業の流しの違いを教えるという非常に単純なものだった。

もちろん、歌も歌った。

それがまずかった。―――――何故？

そう、本番中になんと歌詞を忘れてしまったのだ。あーなんたる失態。その為に２曲目の「*YOU ARE MY SONSHINE*」を何度も何度も歌うはめになってしまった。

僕は今でもその歌詞を忘れた歌を聴く度にあのいまわしいテレビ初出演のことを想い出してしまう。その時の歌は「*函館の女*」だった。

その後、仕事ではＴＶ映画やＴＶドラマに出演する機会を与えられ、劇団では研究生公演の準備に忙がしい毎日を送っていた。

そんなある日、アニメーションのオーディションがあり、劇団の仲間２～３人と初めて録音スタジオに行った。結果は全員不採用。だが、自分としては仲間と一緒だったということでかなりリラックスすることが出来、結果は別として満足のいく内容だった。そのせいかどうか、そのオーディションを受けた番組で、その役とは別の役で出演することになった。

しかし、それまでの僕はアニメーションをやったことがない。「さあ大変だ。どうしよう」というのが本音だった。

その不安は見事的中‼

まず台詞（セリフ）以前の問題としてマイクが恐ろしく、自分の台詞を言う番が来ても後ろの方でボソボソ言うだけで、どうしてもマイクに近付くことが出来なかった。

見かねた先輩が後ろからマイクの前へ押し出してくれるのだが、台詞を言いながら腰が後へ逃げて行く。これが全く無意識なのだから自分でも参った。この症状(!?)とは裏腹なこともやった。というのは台詞を言い終ったあとそのままマイクの前で反省してしまうのだ。

目の前でスクリーンを見ながら心の中では前の台詞をポーッと考えている……一緒に仕事をしている人にとっては随分迷惑な事だったろう。

当然、突き飛ばされるという結果が待っていた………。

この作品は「魔法のマコちゃん」で、僕のアニメ初出演はとっても苦しく、とっても痛いものだった。



アニメと私

撮影室の闇を表現に見て

林　静一　(イラストレーター)

私達が、なにげなく想像する社会とは、本質に〈食うて生きて行く〉、といった動物性を露出する。

そして、なにがしかの〈生産〉に手をそめる事で、社会的有効性をもった人間に、成る事が出来る。

それが、個人にとって〈強いられた〉、と想像する時、

一人の表現者が出来上る訳だ。

思えば、大量に生産される子供向けアニメフィルムは、大量のリアリティ無き正義の勝利であり、それは本質的に〈ＵＦＯ〉を想像する構造である。

実際に問題にしなければならないのは、こういった想像力の構造なのだが、使いものにならなきゃあ、それが労働者の手で、作られる事は無いのだ。

だが想像力が、たかだか疲れてフトンにすべり込む、労働者の夢の中にしか、在存しないなどと、

私は思わない。

想像力を生産的に考えるのは、資本家である。

だが、商品化されない想像力は、この世界に、私達の中に、確実にあるのだ、

〈だが、どうだろうね、こういった想像力は、どっか暗い、と言うか、密室でシコシコやってる、マスター、ベイションに似てるぜ〉

〈ああ、表現の本質のイメージは、そうだよ。明るくない訳だ〉

〈いや、明るい、暗いじゃなくて、本質のイメージ自体が、古いんじゃないかね〉

〈お、あんた、ちょっと逢わないうちに、成長したんじゃないの〉

〈まあね、でも、その辺だよ。表現が暗くて、負の正数論って感じなのは〉

〈でも、古い、新しいなんてイメージは、何なの？〉

〈いや、昔の文学者の写真ね、あれだよ。皆、暗い顔して、笑った事が無いって顔してるって事よ〉

〈う～ん、聞いてると、好き嫌いって所で言ってる様だが、その辺？　俺の中にもあるゴチャゴチャした事を、ストリップされるのが嫌なんだろ〉

〈嫌じゃないかね、つまらないんだよ〉

〈あ～、感動ね、サービス精神がたりないって事ね〉

〈そんなとこだな。
でも、この文章は、アニメーションについて何か言うんだろ〉

〈そうだよ〉

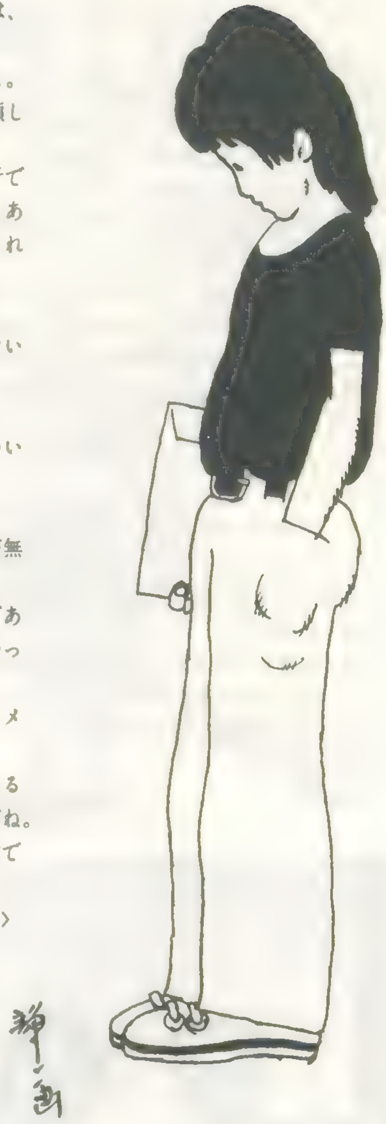
〈じゃあ、何か言わなきゃ、もう紙面が無くなるよ〉

〈だから言ってるよ、本質は〈表現〉であって、アニメーションは手段でしかないって〉

〈あっ、言っちゃってくれますね、アニメシコシコ派から反撃食らうぞ〉

〈ようするに、アニメの構造論に解体するか、動かす事の興味に解体しちまうんだね。
でも〈表現〉は、アニメ的でも、文学的でも、絵画的でも無いんだぜ〉

〈いーよ、そんな話。　早く何か作れよ〉



MANUAL OF ANIMATION

アニメーションを作ってみよう

古川タク

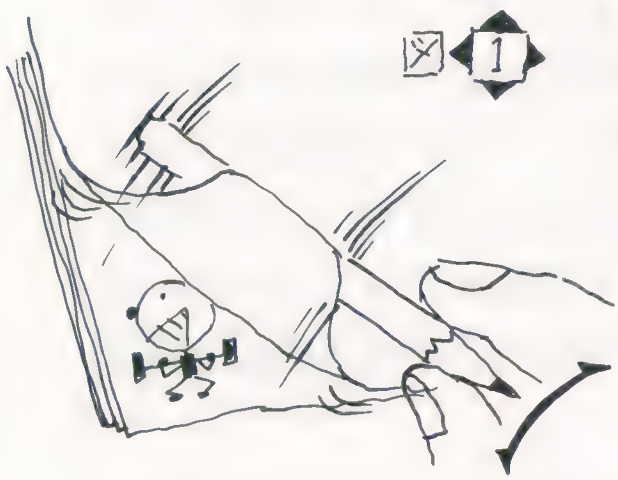
① トウマトロープ

アニメーション映画のすきな君たちなら、必ずやったことがある遊びに、例の本やノートのすみっこに一ページづつ落がきをしていって、パラパラとめくっていくやり方があります。僕もこどもの時から教科書という教科書全部にらくがきをして、なかには本の両ページにわたる超ワイドなパラパラ漫画を試みたものもあります。文部省検定の紙映画をずいぶん作ってきたことになります。



さて、一番シンプルなアニメーションは？というと２枚のちがった画をパタパタ動かして動きを楽しむものとなります。１枚の画じゃどうしても動かないので、ま、これはあたりまえのことなんですが、実際にやってみるとこれがけっこうおもしろいものです。ためしに、スナップ写真かなんかをアルバムから、取出してごらん。なるべく顔や身体のサイズが同じ２枚の写真を重ねて、上の写真をパタパタやるだけでも、笑っちゃうのがあるんだから。それから、次に本のすみっこに一枚、なんでもいいや、マンガのスーパーヒーローでも、ミミズ一匹でも描いて、その下のページに、ちょっと派手めに動いたのを描いてみ

図 1



る。上のページの画に鉛筆を図１のようにグルグル巻きにする。さあ、これで出来上り。あとは上のページで鉛筆をスライドさせれば、やっぱりたったの２枚の画によるシンプルアニメがはじまります。
たったの２枚の画といっても馬鹿にしたもんではありません。驚くほどの効果を生むものもあるわけで、昔、ＮＨＫの「みんなのうた」でイラストレーターの和田誠さんが、たった２枚の画で、一曲とおしのみごとなアニメーションを作ったことがあります。２コマ撮りが優れていて、３コマ、４コマ撮りになると手抜きも手抜き、見るに耐えないなどと、プロフェッショナルなアニメ界で職人的常識は言い張りますが、僕は、どっこいそうでもないんじゃないかなと思います。あくまでも内容にピッタリあった動きが一番よいのだと思い、そんなことより、どんなことより大切なのは、そのアニメーション映画のコンセプトであり、表現力であり、画の力であるような気がします。事実、今年のアヌシーで処女作賞をもらったフランスの映画は、実に新鮮な動きと画面と、音をもっていたけれど、プロなら、おそらく一晩で作ってしまうことだってできそうなフイルムだった。余談ですが、この作者は、フランスの若手のイラストレーターで、ミッキーマウスのようなも



図２



図3



のとか、ヒットラーのようなものとかをなんでもかんでもグッチャグチャに描きなぐりをする、でも完成された画面は、まるで幼児の絵みたいに、てんしんらんまん、色はバッチリ鮮か！……というわけで、僕は、ちょっと前から、フランスのデザイン雑誌なんかで、おもしろいなあと感心していたのですが、今度のアニメでは、それに時間が加わってますますグッチャグチャしていました。

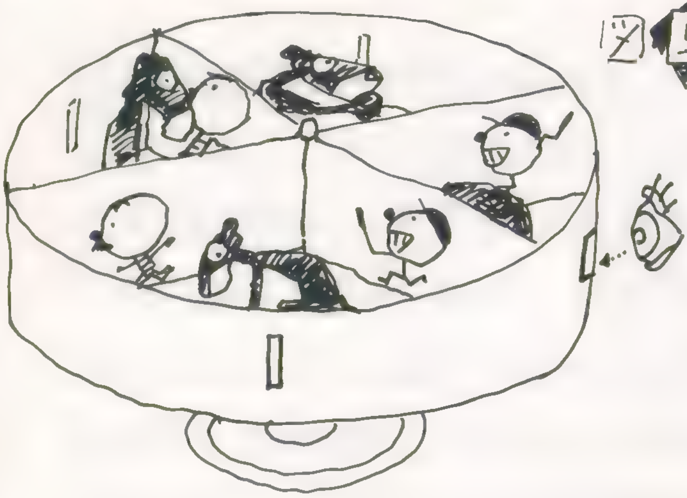
さて、ルーツ・ルーツ　って世の中うるさい時にアニメーションのルーツとばかりに、ここに登場しますのが「トウマトロープ」。鳥かごの鳥と言えば、知ってる人は知ってる。でも知らない人は知らないのですから、紹介をするわけです。

図２のように、二枚の円型の紙をつくります。Ａに鳥かごＢに鳥を描きまして、逆合せにペッタンと帖りつけましょう。そして両ハジにヒモをつけます。ゴホン！ときたら体温計で風邪かな？と熱を計りますが、その前に、グルグルッと回して、熱を35度以下に下げますね。

あの要領で、ひもの両はじをもって回すと、トウマトロープが回転して、鳥が鳥かごの中に見えるわけです。この変型版としては、縁日でうちわを買ってきます。柄の部分が円柱になっているのを選び

図4





ます。図３のようにうちわを回転させて裏表、重なった絵を見ます。暑中お見舞納涼トウマトロープが完成します。図４は、図２の改良型です。つまり、４枚ばねのトウマトロープです。

４枚ばねになったので、簡単なアクションのくりかえし程度の動きが可能になりました。ただし、画面は、完全な間欠運動（映画のように画と画の間に暗転の部分が入ったり、シャッターを切ったり）をしているわけでは、ありませんので、当然、画面が流れて見えます。ですから、ここでは無理をしないで、せいぜいシルエット画を動かして見るくらいの感じにとどめておきましょう。図５は極めつきのトウマトロープ（＋(プラス)フエナキスティスコープ《これについては次回に詳しくやります》）。４部屋に区切って、ワイドな４コマのエンドレス・アニメーションを、のぞき穴から、のぞくのです。さらに、ちょっとやりすぎの感もありますが、一部屋づつに立体の少しづつ動いたものも置いてみます。これは例えば最近よく見かけるビニールのピンクパンサーなんかを４体買ってきて変形させてもいいのです。バックグラウンドの画とともに立体アニメーションも、こんなに簡単な仕組みで、みることができます。なお、これも余談ですが９月頃、この種の昔、ヨーロッパで作られたゾートロープ達の展覧会が西武美術館で催されるようです。

アニメ風の吹くまま

辻　真先



先日、引っ越しした。

五年ごし住んでいた青山から成城へ――引っ越し歴はながく古く、ベテランの域に達しているので、手順にさしたるエラーはなかったものの、閉口したのはアニメシナリオの始末である。

初心忘るべからず、と申します。ご幼少のみぎりの夢は、一生に一度でいいから、アニメの脚本を書くことだった。（絵を描きたいだの、演出してみたいだのと、大望を抱かなかったところがかわいいではありませんか）

そのぼくが夢叶ったいま、脚本の始末に悲鳴をあげるなんて、贅沢もいいところだ。資料的な価値もある。去年、平井和正氏から、「エイトマン」のどの話をだれが書いたかおぼえていないかと電話があった。あわてて倉庫へ降りて、脚本をあさったところ、あきれたことに残してあるのは、たった一冊という惨状。平井和正をはじめ、豊田有恒、半村良、筒井康隆、加納一郎、眉村卓、山村正夫といったそうそうたるメンバーが参加していたはずなのに、書いた本人が記憶細胞をしぼらないかぎり、なんの記録もありはしない。「エイトマン」ばかりではなく、流布されている「虫プロ資料集」を見ても、「鉄腕アトム」以下、スタッフ名は穴だらけだ。

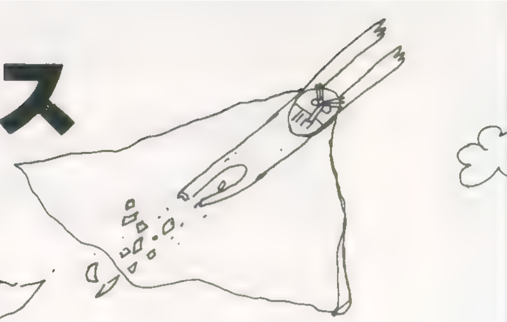
せめて自分が書いたシナリオくらい、大事に整理保存して、一朝ことあるごとにそなえなければ、ライターとしてもファンとしても、一人前の顔ができない――と、考えていることはいるのです。

実は、引っ越しの最中に、朝日ソノラマのS氏から、かつての東映少女マンガ路線の絵本化を依頼された。「魔法使いサリー」にはじまって、「ひみつのアッコちゃん」「魔法のマコちゃん」「魔女っ子メグちゃん」「魔法使いチャッピー」と、なつかしの五本。おなじみの話ばかりだからと気やすくひきうけたら、これが参った。どの作品にどんな人物が出ていたのか、なまじどれにもタッチしていただけに、こんぐらかって手におえない。つくづく中年の記憶力退化をなげいたが、こんなときこそ、ふだん積ん読のシナリオが役立つわけだ。タイミングわるく、引っ越しの現在進行形では、台本を出すに出せず、S氏にご迷惑をかけてしまったが……

アニメのフィルムライブラリーをつくるときには、ぜひともシナリオのライブラリーもほしい。ぼくに金があったらなあ…と、これが中年以後の夢になりそうです。聞けば、東映では「ボルテスV」のシナリオを、有料頒布の計画があるとか。フィルムの裏に埋もれたまま、うたかたのごとく消えてゆくアニメシナリオに、世にのこる道がひらけるとすればけっこうなことだ。

（シナリオライター）

アニメーション・ニュース



上映会・3つ

7月30日(土)
「勇者ライディーン」7本
「コンバトラーV」　2本
「ゼロテスター」　　1本
「ボルテスV」　　　1本　の上映と……
アフレコ大会開催
場所●お茶の水・全電通ホール
時間●午前9時30分～午後4時
出演●三ッ矢雄二
　　井上真樹夫
　　市川治
　　長浜忠夫　他、他数参加予定。
参加●料金400円
申込●電話03－916-3882　杉山リカ
　　毎週(水・木・金)の午後8～9時
主催●R・F・C&AFO

8月10日(水)
長編版「サイボーグ009／怪獣戦争」
「長ぐつをはいた猫」
場所●協動社大町ビル6F（秋田市）
　　電話0188(63)2111／定員300名
　　秋田駅下車（新屋西線・空港線・土崎線・スケート場行き山王線）のいずれかのバスで「交通公社前」下車。
時間●午後1時30分～午後4時30分（予定）
参加●カンパ350円
主催●宇宙騎士団＝コスモ☆ナイツ
　　〒010　秋田市山王6-10-15　今野智
　　電話0188(24)4456

8月22日(月)～23日(火)
「レインボー戦隊ロビン」
バルタ編(第1部)／地球編(第2部)各5本
場所●大阪府立青少年会館
　　電話06(942)2441
　　〒540 大阪市東区森之宮西之町655-1
　　国鉄環状線「もりのみや」駅下車8分
時間●第1部(午前の部)　午前10時～
　　第2部(午後の部)　午後2時～
参加●入れ替え制。前売り300円
　　　　　　　　　当　日400円
　(当日のみ、小学校6年生以下、子供料金200円)
主催●ロビン交流会
　　〒665 宝塚市中山寺1-1-19 谷間ゆかり方
　　電話0797(87)3035　　電話0797
P.S 東京にあるロビン研究会とは、まったくの別組識です。おまちがいなく。

最後のサークル紹介



　個人の責任が追求されそうで、おそろしやと思い感じながらも紹介されていただきます。前回までに登場していただいた、いくつかのサークルには担当者の〝ミステーク有り〟で大変御迷惑をおかけした事をおわびします。チェックする人間（ひろせ）がいながらにして、チェックせずに活字にしておりました。2度と問題をおこさぬためにも、休刊とともに、今回で終了させていただきます。

　ここに登場するサークルのほとんどが思っている事の共通点に〝コミュニケーション〟という言葉があります。でも今だにイメージでしかすぎないようです。

　今回の司会者は広瀬自身で御座囲ますのでおしおきは広瀬まで………。

サークル・テレビッ子・センター

代表●鈴木克伸
〒271 松戸市大橋903-5　鈴木克伸方

　この会には、私め片足の小指ぐらい〝足〟をつっこんでまして、たまーに苦情がファントーシュへ来るのですが、アヤマチです。みなさん！資料を個人的にドッチボールしますが、メイン・スタッフではありません。（責任逃がれかな？）

「ファントーシュ」にも、「マンガ少年」にも彼の名が出て来るのは、このテレビっ子センターの偉大なパワーがものを言ってるのです。

　この会（改め）このサークルは、テレビの子供向け番組に関しての資料・情報を集めていこうというのが主旨です。その活動の一つに、あの不定期刊の〝テレビアニメ放映リスト〟があるのです。くわしくは50円切手同封の上、「ファントーシュで見たのだゾ、君」と書いて「入会案内書を送って下さい。殿」とつけ加え、冒頭の住所へ送って下さい。

　彼は別に仕事を持っているので多少のおくれはカンベンしてやって下さい。

手塚治虫ファンクラブ／京都支部

代表●石川栄基
〒606 京都市左京区一乗寺里ノ前町24　石川栄基方

　新しく誕生した支部なのだけれど、何かこう、やってる人がメチャクチャな人で、金をかけて会誌をつくり、手塚治虫氏の旧作の復刻をしています。事務も東京のようにズサンでは無いので安心できます。会誌は年4回ペースで発行。何かしてやろうという意欲のかたまりのようなサークルです。現在、秋頃にアニメーションのフィルム上映等を企画中……。

　お問い合せは必ず50円切手同封で。

アニメーション・ファン・オーガニゼーション(AFO)

代表●中島ゆきえ
〒343 越谷市大泊294　中島ゆきえ方AFO事務局　PHONE 0489-74-5472

　な、なんとAFOは古今東西のありとあらゆるアニメを多角度から研究分析していこうというグループだそうです。

　活動は連絡誌の発行（月刊）、上映会が中心で、3ヶ月で1区切りして、その間に1つの作品をてってていてきに研究するとのこと……。会誌はB5判・手書きオフセット。不定期発行で、内容がアニメに関する資料とエッセイだそうです。

　50円切手同封の上、ゆきえちゃんの所へ、〝案内書おくれ〟と書いてどうぞ。

●訂正
　勇者ライディーン・ファンクラブとコンバトラーV・ファンクラブは合併しておりません。ライディーンの方は会員募集中とのこと。

●お問い合せ
〝ファントーシュ6号を見て、お問い合わせのおたよりを下さった大阪生野の方、住所・氏名を書き忘れていらっしゃるので案内書をおくれません。吉田宛、御連絡を願います。〟
　アニメディアより

全国
アニメーション
サークル調査

突然にも休刊してしまう本誌ですが、残務整理と新ファントーシュの準備のため、連絡活動はしております。

そこで、創刊の頃より頭の中にくすぶっていた事を少しづつ表面化して処理していきたいと考え、提案いたします。

全国に数多くあるアニメーションのサークルの調査を行います。制作集団・上映観賞団体・ファンサークル・批評集団、いずれもかかわらず調査・発表して互いの存在を確認しあい、そこからまた何かが生れる可能性をつくりだしてみたいのです。

次の要項を書いて編集室まで50円切手を同封して送って下さい。年内中に、集った順に整理していきますので連絡申しあげます。

■アンケート（用紙は自由）

●団体名（あれば略称も）
●代表者（氏名・年令・性別・住所・電話）
●連絡先（氏名・年令・性別・住所・電話）
●発足年月日
●活動主旨と内容
（何を目的として活動しているのか、活動とは具体的に何をしているのかを簡単に記入して下さい。機関紙／上映会／集会の有無と、会費・入会金の有無、金額等）
●会員数と男女比・年令層
男性①12才以下＝　人
女性②13～15才＝　人
③16～18才＝　人
④19～22才＝　人
⑤23～30才＝　人
⑥31才以上＝　人
●会員所在の範囲
地域別にどこが中心地区か…、全国的であれば、「全国的」と記入して下さい。

以上の事を、まず知りたいと思っています。お気付きの点があれば、同時に御記入下さい。

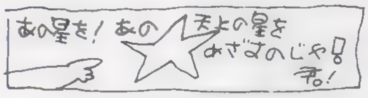
■第１次〆切――――――昭和52年8月31日

上映活動がかっぱつになってきたようです。本誌が一時休刊することは、逆を行くようで申しわけなくおもってます。

しかし、何らかの形で、アニメーションの情報をお知らせしていくつもりです。まず、朝日ソノラマが出している「マンガ少年」誌でのアニメ関係記事の連載（要望をソノラマにお寄せ下さい。）がはじまり。講談社が出している「アパッチ」という本の、シネマのページにコラムでアニメの情報がのります。

ファントーシュでも復刊までに、何かしようとがんばりますので、

みなさんもお元気で。



●オリエンタル中村、「テレビアニメの世界」催事、事後報告

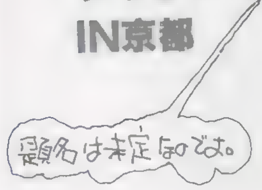
くわしく内容をお知らせできませんが、別記の会社の協力により、展示・即売・ビデオ上映等、多くの企画が現実化、ほぼ成功におわりました。又、セル画の販売に関しては〝チャリティー〟であるということを全面にうたって販売させていただきましたので、それも大変好成績におわっております。当編集室としては、本誌の第６号の別売以外は参加しておりませんが、チャリティーオークションのために、１～６号全巻そろいを、１万２千円で落させてもらっております。

これらの収益の内、総計99,930円は、名古屋の中日新聞社内中部善意銀行に寄付させていただきました。　ファントーシュ編集室

チャリティー参加協力社名――――

日本テレビ音楽出版㈱／㈲コジマ録音／㈱東北新社／㈱東急エージェンシー／㈱愛プロ／㈱万栄社／㈱グループ・タック／東映㈱／㈱日本サンライズ／㈱東京ムービー／㈱アカデミー／㈱日本アニメーション／日本コロムビア㈱／東芝EMI㈱／〔順不同〕

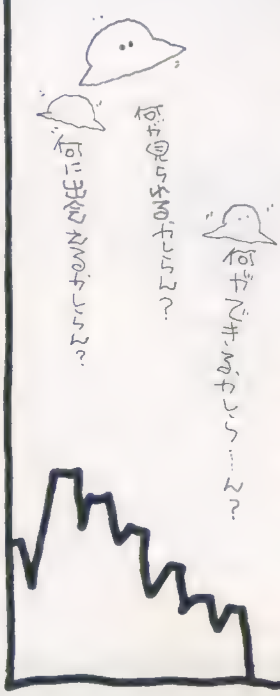
チャリティー・コミック・フェスティバル'77 IN京都



10月10日㈪体育の日に、京都の京都産業会館８F・シルクホールにおいて、恵まれない人々のために、漫画を役立てたいという事と、漫画を通じてコミュニケーションを深める場にしたいという２つの主旨からなる催しがあります。

●入場料500円
（入場料の一部を"京都善意の箱"へ寄付）
●漫画・アニメーションの団体参加による、会誌等のファンジン即売。オークション等。
●プロによる新作自主製作アニメ上映
●定員750人
●開催時間未定

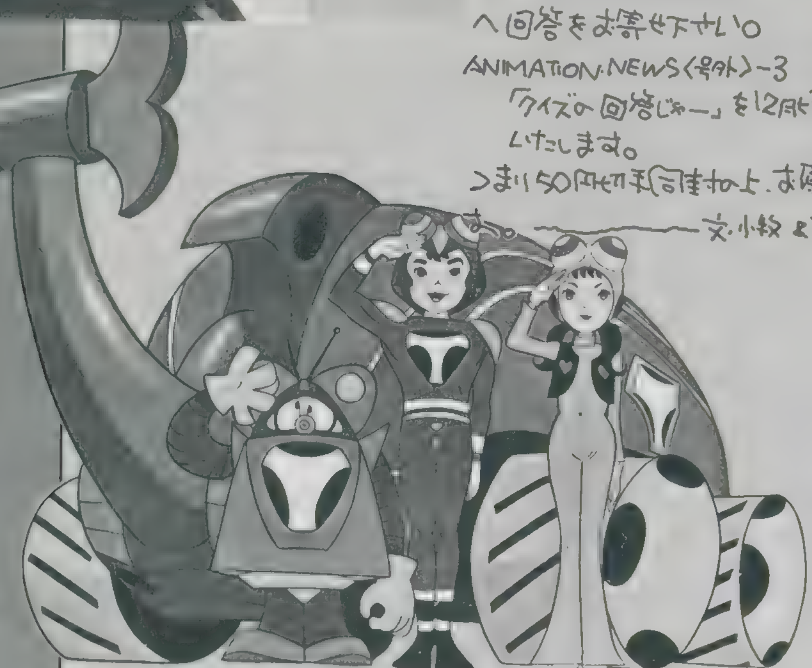
詳細は今の所、未定。お問い合わせは下記へ50円切手同封の上、お願いいたします。
〒606 京都市左京区一乗寺里ノ前町24石川方
手塚治虫ファンクラブ京都支部
電話075-721-5355
参加団体●まんがはうす／手塚FC・名古屋／奈良トリトン同盟／石森章太郎ファンクラブ／立命漫研／京漫研／龍谷大学漫研／ファントーシュ／他





休刊記念 竜の子プロ作品より なんと

★今となっては何も申しません。もとい、何も申せません。タツノコ全作品の中からクイズを出題するようにと□□されながら……。完全に私の□□でSF作品に片寄ってしまいました。特集にするつもりだった記事を全部読んでいただければ80%まで答は出せるでしょう。しかし!!残りの20%がわかるなんて人は、キチガイです。この問題の中から、お好きなコースを1つ選んで、本誌編集室へ回答をお寄せ下さい。
ANIMATION NEWS〈号外〉-3
「クイズの回答じゃー」を12月上頃発表いたします。
つまり50円切手同封の上、お願いします。——文・小松&たし瀬



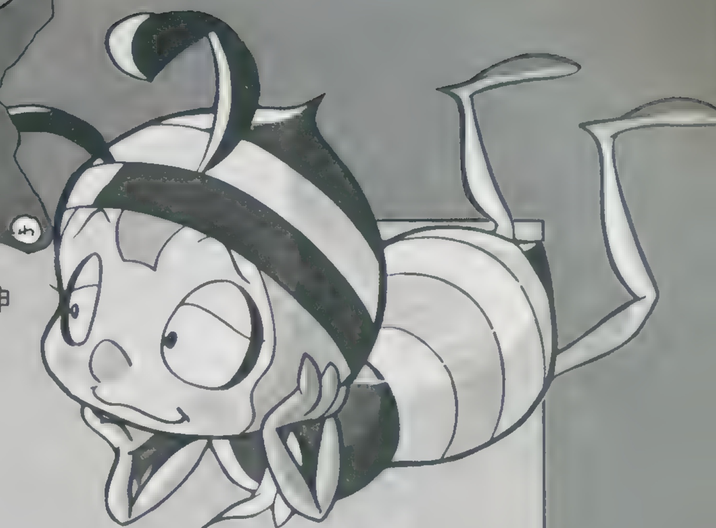
1 初心者コース

① 「宇宙エース」 主題歌の曲名は？
② 「宇宙エース」 エースが空を飛び回るのに使ったリングの名前は？
③ 「ハクション大魔王」 あくび娘が持っている楽器は？
④ 「マッハGOGOGO」 三船剛の良きライバル覆面レーサーの正体は？
⑤ 「マッハGOGOGO」 いつもマッハ号のトランクに入っていたのは誰？
⑥ 「紅三四郎」 三四郎のオートバイの名前は？
⑦ 「みなしごハッチ」 ハッチは何を目的に旅をしていた？
⑧ 「カバトット」 トット君の住んでいたのはどこ？
⑨ 「科学忍者隊ガッチャマン」 G1号機G4号機は日常どんな乗り物？
⑩ 「科学忍者隊ガッチャマン」 ゴッドフェニックスの超バードミサイルは通常何発搭載している？
⑪ 「新造人間キャシャーン」 キャシャーンのヘルメットの名前は？
⑫ 「新造人間キャシャーン」 フレンダーのもとの犬種は？
⑬ 「新造人間キャシャーン」 ルナの持っている武器は？
⑭ 「破裏拳ポリマー」 ポリマーの転身する時の掛け声と転身を解く時の掛け声の違いは？
⑮ 「破裏拳ポリマー」 車探偵事務所はどこにある？
⑯ 「破裏拳ポリマー」 ポリマーの本名は？
⑰ 「宇宙の騎士テッカマン」 スペースナイツのメンバーは？
⑱ 「ゴワッパー5(ファイブ)ゴーダム」 ゴーダムのコンピューターの正式名は？
⑲ 「てんとう虫の歌」 てんとう虫きょうだいの名字は？
⑳ 「タイムボカン」 ボカン3号の名前と艦載機の名前は？

2 竜の子アニメファンコース

① 「宇宙エース」 宇宙食を作った人と宇宙食の名前及び型状は？
② 「宇宙エース」 エースの必殺光線は何光線？
③ 「ハクション大魔王」 魔王の大好物は？
④ 「マッハGOGOGO」 三船くりおは放映中に誕生日をむかえているが、何才から何才になったのか？
⑤ 「マッハGOGOGO」 マッハ号と呼ばれるものは何台登場したか？
⑥ 「みなしごハッチ」 最終回でハッチを助けた2匹の虫の名前は？
⑦ 「科学忍者隊ガッチャマン」 5人の住んでいる街の名前は？
⑧ 「科学忍者隊ガッチャマン」 5人の平常時の職業は？
⑨ 「科学忍者隊ガッチャマン」 "竜巻きファイター"のバリエーションは？
⑩ 「新造人間キャシャーン」 キャシャーンの母がスワニーから姿を現わすのはどんな時？
⑪ 「新造人間キャシャーン」 ブライキングボスの正式ナンバーは？
⑫ 「新造人間キャシャーン」 ブライキングボスの3人の重臣の名前は？
⑬ 「破裏拳ポリマー」 車探偵の年令は？
⑭ 「破裏拳ポリマー」 武士の特技は？
⑮ 「てんとう虫の歌」 きょうだいのおばさんはどこに住んでいる？
⑯ 「てんとう虫の歌」 きょうだいは曜日の名前。ではきょうだいの両親の名前は？
⑰ 「ゴワッパー5(ファイブ)ゴーダム」 ゴワッパー5(ファイブ)の良き理解者・志麻さんの正式な役職名は？
⑱ 「ゴワッパー5(ファイブ)ゴーダム」 ネンドロイドとドロンジャー兵士の共通の弱点は？
⑲ 「タイムボカン」 ダイナモンドがあった時代はいつ？
⑳ 「タイムボカン」 マージョが使っていた喫煙具は？

100問クイズ



3 メカ・ファンコース

クイズ出題●小牧雅伸

① 「宇宙エース」 シーホース号の宇宙航行用のリングの名前は？
② 「宇宙エース」 ロボット犬のイボは、ヤドカリ記者のミスで犬になった。それはどんなミスだったか？
③ 「マッハGOGOGO」 マッハ号には数々の秘密装置が付いていた。ハンドル中央のA～Hボタンは、それぞれどんな装置？
④ 「マッハGOGOGO」 マッハ号が水中でFボタンを押した時、2人マッハ号に乗っていたとすれば、酸素は何分間もつか？
⑤ 「科学忍者隊ガッチャマン」 G1号機～G4号機の各メカに付いている武器は？
⑥ 「科学忍者隊ガッチャマン」 G1号大鷲のケンが使用するブーメランはどんな武器に変化するか？
⑦ 「科学忍者隊ガッチャマン」 G2号～G5号の各人が持っている武器は？（ただしハネ手裏剣は共通である。）
⑧ 「新造人間キャシャーン」 フレンダーはどんな武器に変身するか？
⑨ 「新造人間キャシャーン」 キャシャーンの超破壊光線はどこから発射されるか？
⑩ 「新造人間キャシャーン」 キャシャーンのエネルギー源は？
⑪ 「破裏拳ポリマー」 車探偵の拳銃は何？そして、何を発射するか？
⑫ 「破裏拳ポリマー」 ポリマーの6変化は？
⑬ 「破裏拳ポリマー」 ポリマーは低温に弱いが、マイナス何度でピンチになるか？
⑭ 「破裏拳ポリマー」 ポリマーの転身時間は何分何秒？
⑮ 「宇宙の騎士テッカマン」 ブルーアース号で自動調理される食事は？
⑯ 「宇宙の騎士テッカマン」 テッカマンの鎧だけの重さは何kg？
⑰ 「宇宙の騎士テッカマン」 テッカマンのタイムリミットは？
⑱ 「タイムボカン」 木江田博士が所有する10大メカは？
⑲ 「ゴワッパー5（ファイブ）ゴーダム」 ゴワッパー5（ファイブ）の5台のメカの名前は？
⑳ 「ゴワッパー5（ファイブ）ゴーダム」 ゴーダム本体は約何年前に造られたか？又、それを設計した人は？

4 タツノコマニアコース

① 「宇宙エース」 エースの宇宙食はどこに入れてあるか？ イボはどこに収納していたか？
② 「宇宙エース」 エースが必殺光線を最初に使った相手は？
③ 「宇宙エース」 全ストーリーの前半の、エースの敵の組織名は？
④ 「ハクション大魔王」 しゃっくりをするとツボから出てくるのは誰？
⑤ 「マッハGOGOGO」 マッハ号の装置Eの欠点は？
⑥ 「紅三四郎」 1本だけ内容がギャグの作品があったが、その副題は？
⑦ 「みなしごハッチ」 ハッチが旅の途中で助けられた女王は？
⑧ 「樫の木モック」 モックを悪の道に引き込もうとした3匹は？
⑨ 「科学忍者隊ガッチャマン」 ジョーのエアーガンはどのように使用出来るか？5つ以上の用途を書いて下さい。
⑩ 「科学忍者隊ガッチャマン」 殺人ミュージックの作曲者と演奏者は？
⑪ 「科学忍者隊ガッチャマン」 レッドインパルスの3人の名前は？
⑫ 「科学忍者隊ガッチャマン」 南部博士の正式な役職名は？
⑬ 「破裏拳ポリマー」 車探偵はなぜ虫歯になったのか？
⑭ 「新造人間キャシャーン」 キャシャーンが1度だけMF銃を足にしまったが、その足は、どちらの足だったか？
⑮ 「宇宙の騎士テッカマン」 スペースナイツの宇宙バズーカは2丁合体させて打つと単体の時の何倍の威力があるか？
⑯ 「宇宙の騎士テッカマン」 南城二の父の名前は？
⑰ 「タイムボカン」 タイムガイコツの「今週のハイライト」に出て来る演奏ガイコツは何種類あったか？
⑱ 「ゴワッパー5（ファイブ）ゴーダム」 ゴーダムはメカチェンジをして何になるか？3種類以上書いて下さい。
⑲ 「ゴワッパー5（ファイブ）ゴーダム」 川口のり助の友達のアザラシ2匹の名前とコスチュームは？
⑳ 「ポールのミラクル大作戦」 ポールのミニチュアカーはオカルトハンマーで、どのように動けるようになるか？

5 声優さんファンコース

次にあげる役の声優さんを答えて下さい。

① 「宇宙エース」 ナレーター
② 「おらあグズラだど」 グズラ
③ 「ドカチン」 カカカ
④ 「マッハGOGOGO」 ミッチ
⑤ 「紅三四郎」 三四郎
⑥ 「ハクション大魔王」あくび娘
⑦ 「みなしごハッチ」 ハッチ
⑧ 「いなかっぺ大将」 白雪先生
⑨ 「カバトット」 カバくん
⑩ 「樫の木モック」 モック
⑪ 「科学忍者隊ガッチャマン」 ギャラクターの女隊長
⑫ 「かいけつタマゴン」 タマゴン
⑬ 「けろっこデメタン」 ラナタン
⑭ 「新造人間キャシャーン」 ナレーター
⑮ 「ウリクペン救助隊」 ショー太
⑯ 「破裏拳ポリマー」 鬼トラ長官
⑰ 「宇宙の騎士テッカマン」 南惶生
⑱ 「タイムボカン」 ナレーター
⑲ 「ゴワッパー5（ファイブ）ゴーダム」 志麻さん
⑳ 「ポールのミラクル大作戦」 キノッピー

アニメーション・ニュース

東京ローカル局＝東京12チャンネルで、7月2日～13週間にわたって、過去のテレビアニメーションが放映されます。

タイトルは、「マンガ祭だ60分！」といって夜8時～8時54分まで、2本～4本立ての変則スタイル。メインタイトルは下記の通りですが、サブタイトルまでは、現在の所不明です。

放映日	作品名	時間	色彩
7月2日	「月光仮面」	30	カラー
	「黄金バット」	30	カラー
7月9日	「妖怪人間ベム」	30	カラー
	「鉄人28号」	30	白黒
7月16日	「原始少年リュウ」	30	カラー
	「狼少年ケン」	30	白黒
7月23日	「ダメおやじ」	15	カラー
	「ヤダモン」	15	白黒
	「ドカチン」	15	カラー
	「おらあグズラだど」	15	白黒
7月30日	「樫の木モック」	30	カラー
	「あかねちゃん」	30	カラー
8月6日	「風のフジ丸」	30	白黒
	「佐武と市捕物控」	30	白黒
8月13日	「ばくはつ五郎」	30	カラー
	「サイボーグ００９」	30	白黒
8月20日	「おんぶおばけ」	30	カラー
	「ドンキッコ」	15	白黒
	「ハクション大魔王」	15	カラー
8月27日	「冒険コロボックル」	30	カラー
	「宇宙エース」	30	白黒
9月3日	「あしたのジョー」	30	カラー
	「キックの鬼」	30	カラー
9月10日	「紅三四郎」	30	カラー
	「０戦はやと」	30	白黒
9月17日	「さすらいの太陽」	30	カラー
	「ハリスの旋風」	30	白黒
9月24日	「海底少年マリン」	30	カラー
	「遊星仮面」	30	白黒

人手不足をまねく、愛くるしいこの手書きの文字。
日本全国1億人以上のみなさん!! ゴメンネ。
●これは今夏公開のスヌーピー第3作目 以前に つくられて 放映されていたテレビスペシャル用16本の(東京12チャンネルでの)放映リストです。
下の〔 〕の中は未放映分のフィルムです。
右ページの表は今回「がんばれ！スヌーピー」のスタッフ表です。

■4月5日「祭りだワッショイ！チャーリー・ブラウン」
It's the Easter Beagle C.Brown

■4月12日「ヌケサク鳥は家なき子」
It's a mystery C.Brown

■4月19日「ソバカスパティは恋愛中」
There's no time for live C.Brown

■4月26日「ライナスのモテモテ㊙大作戦」
You're not elected C.Brown

■5月3日「遂に登場！花のカボチャ仮面」
It's a great Pumpkin C.Brown

■5月10日「スヌーピーのいたずら天国」
He was your dog C.Brown

■5月17日「みどりの日のささやき」
It's Arbor Day C.Brown

■5月24日「おかしなおかしなカーレース」
You're a good sport C.Brown

■5月31日「やったぜ！スヌーピーのロック・コンサート」
Play it again C.Brown

■6月7日「スヌーピーの迷(?)コック長」
A C.Brown thanksgiving

■6月14日「チャーリー・涙のオールスターゲーム」
C.Brown's all stars

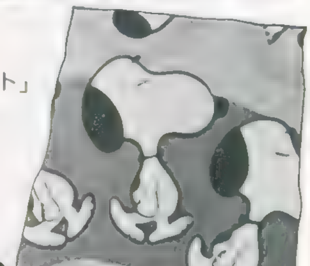
■6月21日「世にもおかしな夏休み」
It was a short summer C.Brown

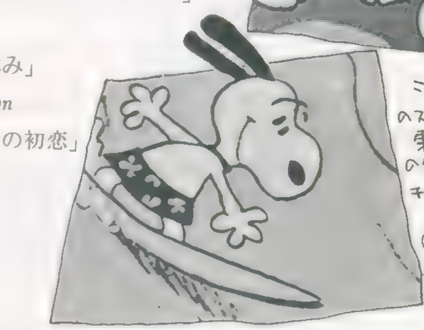
■6月28日「チャーリーブラウンの初恋」
You're in love C.Brown

〔*A C.Brown Christmas*
Be my Valentine C.Brown
What a nightmare C.Brown〕

資料提供●東京12チャンネル映画部







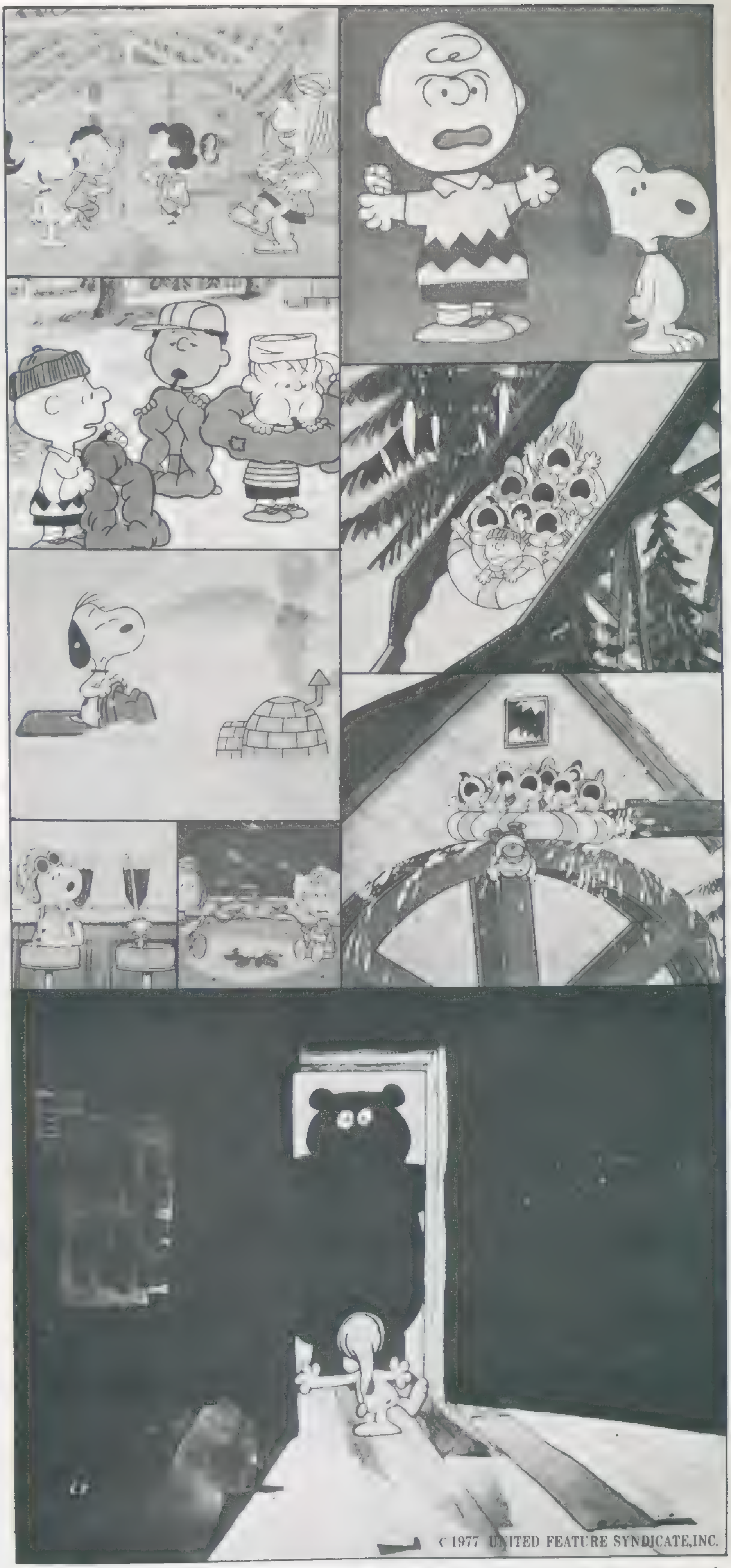
この頁の3枚のスヌーピーは、東宝東和配給の「スヌーピーとチャーリー」より
©1969 UNITED FEATURE SYNDICATE, INC.

☆スタッフ大ぜいなのです。

PARAMOUNT PICTURES PRESENTS

RACE FOR YOUR LIFE, CHARLIE BROWN!

PRODUCED BY／LEE MENDELSON and
BILL MELENDEZ
DIRECTED BY／BILL MELENDEZ
WRITTEN AND CREATED BY
CHARLES M. SCHULZ
CO-DIRECTED BY／PHIL ROMAN
MUSIC BY／ED BOGAS
DESIGN／EVERT BROWN
BERNARD GRUVER
TOM YAKUTIS
DEAN SPILLE
ELLIE BOGARDUS
ANIMATION／DON LUSK
BOB MATZ
HANK SMITH
ROD SCRIBNER
KEN O'BRIEN
AL PABIAN
JOE ROMAN
JEFF HALL
SAM JAIMES
BOB BACHMAN
GEORGE SINGER
BILL LITTLEJOHN
BOB CARLSON
PATRICIA JOY
TERRY LENNON
CHECKING／LARRY LEICHLITER
CAROLE BARNES
PEGGY DRUMM
EVE FLETCHER
INK AND PAINT／JOANNE LANSING
SUE DALTON
CHERI LUCAS
VALERIE PABIAN
ADELE LENART
CHANDRA POWERIS
PAT CAPOZZI
MICKEY KREYMAN
SUE ROWAN
ROBINA SARKISSIAN
SHERI BARSTAD
VOICES／LEE HOFFMAN
DUNCAN WATSON
GREG FELTON
STUART BROTMAN
GAIL DAVIS
LIAM MARTIN
KIRKLAND JUE
JORDAN WARREN
JIMMY AHRENS
MELANIE KOHN
TOM MULLER
BILL MELENDEZ
RADIO ANNOUNCER
FRED VAN AMBURG
TITLE SONG SUNG BY
LARRY FINLAYSON
EDITING／CHUCK McCANN
ROGER DONLEY
NEGATIVE CUTTING／ALICE KEILLOR
PRODUCTION MANAGER
CAROLE BARNES
PRODUCTION ASSISTANTS
SANDY CLAXTON
LORA SACKETT
CHARLOTTE RICHARDS
BABETTE MONTELL
MARTHA GRACE
CAMERA／DICKSON VASU
RECORDING／MIX—PRODUCERS' SOUND SERVICE, HOLLYWOOD
DIALOGUE—COAST RECORDERS, SAN FRANCISCO



PINK PANTHER

ユナイト・テレビ制作

動画「ピンクパンサー」全作品リスト



昭和52年4月4日〜7月19日放映分
〔東京12チャンネル、PM7時23分〜30分〕

日本代理窓口・東宝株式会社事業部

話数	原　題	邦　題
1	PINK PACKAGE PLOT	君の使命は……？
2	PINK PAJAMAS	ねむいねむい
3	VITAMINE PINK	効果はてきめん
4	WE GIVE PINK STAMPS	深夜のデパートで……
5	PINK PARADISE	犬も歩けば……
6	PINK PEST CONTROL	虫も殺さぬ顔
7	PINK, PLUNK, PLINK	運命のいたずら
8	PINK POSIES	花はピンクに咲く
9	PINK QUARTERBACK, THE	都会の１ドル銀貨
10	PINK VALLIANT	弱き者汝の名は？
11	PREFABRICATED PINK	ただいま工事中
12	PREHISTORIC PINK	むかしむかし
13	DIAL "P" FOR PINK	開けてびっくり
14	EXTINCT PINK	骨折りぞんの……
15	PINKNICS	ピクニック
16	PINK-A-BOO	ウマくいかんネ
17	PINK-A-RELLA	街のシンデレラ
18	PINKCOME TAX	最後の最高の時間
19	ROCK-A-BYE-PINKY	走狗は死なず
20	PINKFINGER	決死の情報部員
21	PINK PHINK	ペンキ騒動
22	PICKLED PINK	酔払い天国
23	PINK SPHINX, THE	砂漠の宝探し
24	SKY-BLUE PINK	タコ上げもほどほどに
25	THINK BEFORE YOU PINK	道路を横断する法
26	TWINKLE, TWINKLE, LITTLE PINK	星空のピンク
27	SINK PINK	アニマル人間
28	REEL PINK	フイッシングはゴメンだ
29	SMILE PRETTY, SAY PINK	カメラマン騒動
30	PINKADILLY CIRCUS	ご主人さまのためならば…
31	COME ON IN THE WATERS PINK	海へいこうよ
32	PSYCHEDELIC PINK	ピンクパンサーの変な世界
33	BULLY FOR PINK	ピンクパンサーの闘牛師
34	PINK PANZER	大　戦　争
35	GENIE WITH THE LIGHT PINK	魔法のランプ
36	HAND IS PINKER THAN THE EVE	パンサーと変なウサギ
37	LUCKY PINK	ラッキーなてい鉄
38	PINK ICE	ダイヤ大戦争
39	PINK PANIC	幽霊ホテルの怪
40	JET PIXK	無免許パイロット
41	PUT PUT PINK	ガラクタ二輪車
42	PINK IS A MANY SPLENDORED THING	森のきこり
43	PINK OF LITTER	もとのもくあみ
44	PINK OUTS	ピンク・ワールド
45	SUPER PINK	スーパー・パンサー
46	CONGRATULATIONS! IT'S PINK	ママと呼ばないで
47	AN OUNCE OF PINK	しゃべる体重計
48	IN THE PINK OF THE NIGHT	おこさないで〜！
49	PINK PUNCH	ピンク・ジュース
50	PINK IN THE CLINK	深夜の工場で……
51	PINK ON THE COB	もろこし畑で……
52	PINTO PINK	ネズミ退治
53	G. I. PINK	見習い兵隊
54	IN THE PINK	男性美は体操で
55	SHOCKING PINK	黙らっしゃい！
56	LITTLE BEAU PINK	テキサスの羊飼い
57	PINK PILL, THE	入院も命がけ
58	PINK BLUEPRINT, THE	わが家を建てよう
59	PINK TAIL FLY, THE	蚊にはかなわない
60	PINK PISTON	安全運転がいいネ
61	SLINK PINK	かわいそうな犬
62	TICLED PINK	三つの願いごと
63	A FLY IN THE PINK	ハエをやっつけろ！
64	GONG WITH THE PINK	ゴングを鳴らせば…
65	PINK BLUE PLATE	コックも楽じゃない
66	PINK FLEA	ノミのすみか
67	PINK-IN	ピンク・ダイジェスト
68	PINK PRANKS	北極よいとこ
69	PINK TUBADORE	ラッパも使いよう
70	PSST PINK	いたずらなタイヤ
71	BOBOLINK PINK	飛べない小鳥
72	FORTY PINK WINKS	ホテル騒動
73	IT'S PINK BUT IS IT MINK?	ターザンの災難
74	KEEP OUR FORESTS PINK	森を汚すな！
75	MYSTIC PINK	魔法の帽子
76	PINK AYE	豪華船に乗って
77	PINK CAMPAIGN	恨みを晴らせ！
78	PINK DA VINCI	モナリザの唇
79	PINK EIGHT BALL	逃げたボール
80	PINK ELEPHANT	ゾウを飼おう！
81	PINK OF ARABEE, THE	アラビヤの蛇
82	PINK PIPER	ネズミ騒動
83	PINK PLASMA	吸血鬼の城
84	PINK PRO	スポーツ教師
85	PINK STREAKER	スキーのチャンピオン
86	PINKY DOODLE	自由の鐘を鳴らせ！
87	ROCKY PINK	ペットの石
88	SALMON PINK	陸に上った魚
89	SCARLET PINKERNEL, THE	野犬狩り
90	SHERLOCK PINK	のろまな探偵
91	THERAPUTIC PINK	尻尾にかみついた犬
92	TRAIL OF LONESOME PINK	ジャングルの英雄

資料●東京12チャンネル映画部



A fantasy vision of the future. **WIZARDS**

PRODUCTION STAFF

Written, Produced and Directed by	RALPH BAKSHI
Music Composed and Conducted by (Original Music Copyright © 1976 Fox Fanfare Music, Inc.)	ANDREW BELLING
Edited by	DONALD W. ERNST, A C E
Layout	JOHN SPAREY
Sequence Animation	IRVEN SPENCE
Illustrated Histories	MIKE PLOOG
	IAN MILLER
Background Design	JOHNNIE VITA
Background	MARTIN STRUDLER
Background Supervisor	
Animators	BRENDA BANKS
	IRVEN SPENCE
	MARTIN B. TARAS
	ROBERT TAYLOR
	ARTHUR VITELLO

Running time: 81 minutes.

本作品は1977年4月6日、パリに於て開催された第６回国際Ｓ・Ｆファンタジー・フィルムフェスティバルに於て大衆賞を獲得した。

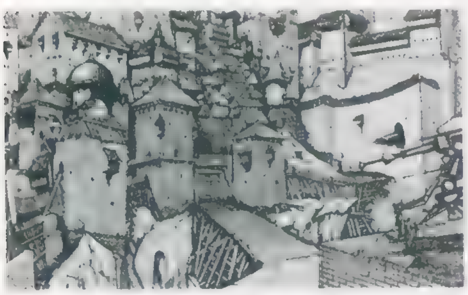
リベラシオン紙
LIBERATION

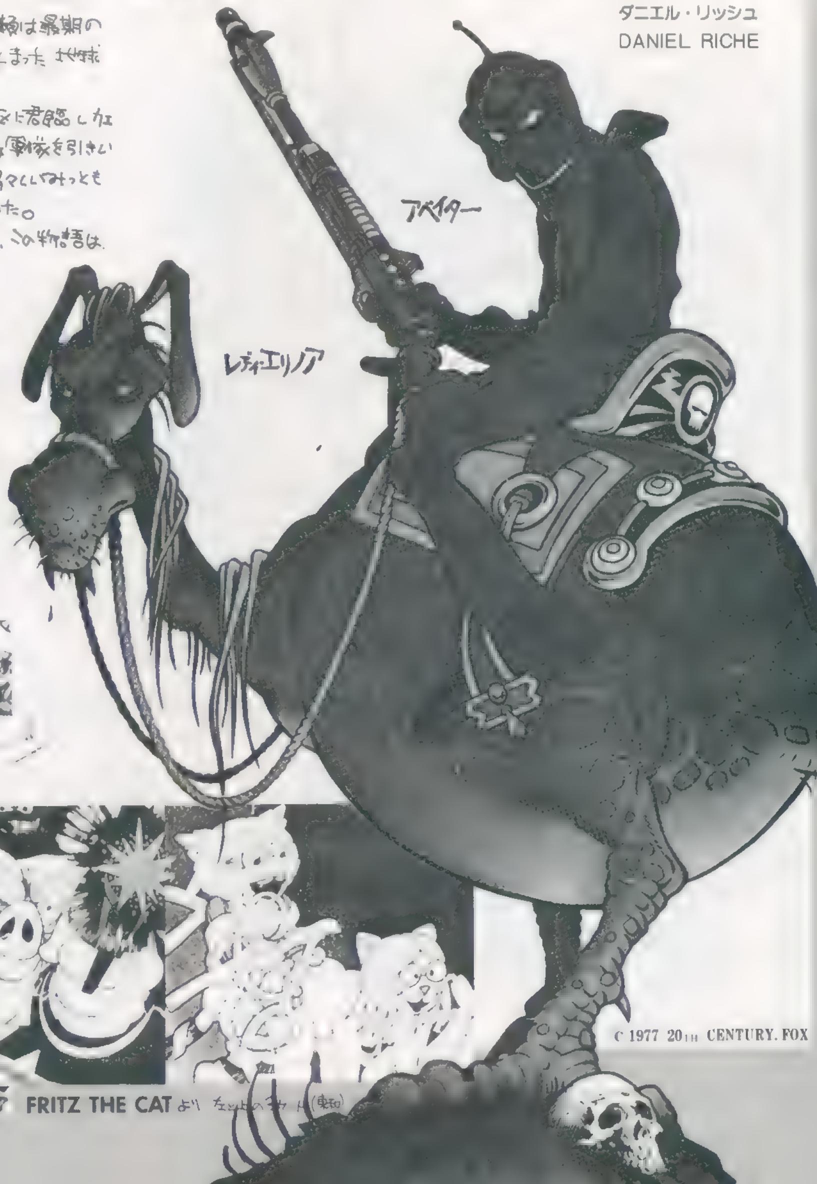
"FRITZ THE CAT" とNINE LIVES OF FRITZ THE CAT" の仕事の後に作られたこの "WIZARD" の作者バクシーの名は、人々の心に深くきざみつけられ、それが、第６回国際Ｓ・Ｆフィルム祭で賞を取った事につながった。この "WIZARD" は幻想的、もっと正確に云えば、"英雄的幻想物語" とも云える。
つまり 遥かなる未来社会の幻視的風景の中で、色々な妖精や魔法使いや魔女たちが、その生きざまの中で見るサイケディリックな夢、暗い悪夢の様な物語である。
バクシはこの作品を色々な協力者の才能によって作り上げている。美術担当のジョン・スパン (John Spavey)、音楽のアンドリュー・ベリング (Andrew Belling)、アニメーターのアービング・スペンス (Irving Spence) 等々。
そして、バクシはこれら協力者たちの才能を十分に発揮させたのである。
又、バクシはこの作品を通して、ディズニーの描く世界だけがアニメーションの世界ではない事を証明し、表現しようとしたのである。
そしてこのテーマを製作チームと長い間検討し、本作品にみられる "反文明" のテーマを選定し、それがこの成功となって世に出たのである。
だが ひとつだけ残念な事は、時として使用されている第二次世界大戦のフィルムの使い方や作品の全体のリズムを落とす事を考えて使われている。
ソラリゼーションをかけたシーンの処理など気になる部分はあるが、それもすぐれた美術のテクニックでカバーされているので、あまり作品の仕上りを落としてはいないと思う。

ダニエル・リッシュ
DANIEL RICHE

☆当分、この「ウイザード」の公開は決まらず、20世紀FOXの倉庫に眠ることになった。スチル等も、上の絵が一点、借用できただけで紹介らしい紹介もできないのが残念…。

この「ウイザード」＝「WIZARD」は、今から200万年後の未来、地球人類は最期の核戦争により死滅し、妖精や悪魔、そして魔法使いの世界と化してしまった地球上での、魔法使い達の争いの物語である。
悪い魔法使いは「ブラック・ウルフ」＝BLACK・WOLFといい スコーチ地区に君臨し、カエルや悪魔や、世界を征服しようとしているあらゆる生き物達のキョーボーな軍隊を引きいていた。一方、良い魔法使いは、「アベイター」＝AVATARといい、きたなく弱々しいみっともない老人ではあるが、親しい妖精たちとモンタガ地区に住んでいた。
このブラック・ウルフとアベイターは全く異った道を歩む兄弟であるが、この物語は、この2人の争いの物語であり、善と悪の物語である。

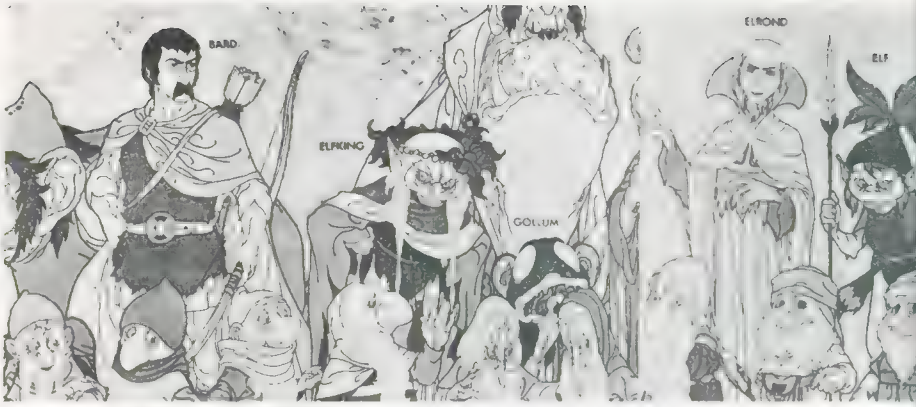






FRITZ THE CAT より











●ホビットの冒険

「ウイザード」のラルフ・バクシ監督が、プ ロデュースしているといわれるJ・R・R・トールキン原作の「指輪物語」へ続く作品の 動画映画化。日本のトップクラフトの技術で11月には、アメリカで放映される。

物語は――――――――――――

ビルボ・バギンズは13人のドワーフ達と、老魔法使いガンダルフと一緒に旅に出た。それは、昔、竜に奪われたドワーフの宝を奪い返しに行くための旅であった。

ビルボは“ホビット穴”で平和に暮していたが、ガンダルフに、13人では不吉だという理由で14人目として冒険にでかけないかと誘われた。初めは、気がすすまなかったビルボだったが、旅立つのであった。

旅がはじまり、一行はトロル達に出会い、喰われそうになった。が、ガンダルフが魔法でトロル達を石にし、難を逃がれる。ここで、ビルボは魔法の短剣 ―― 魔物が近づくと輝く短剣 -- を手に入れる。

次に一行は、エルロンドの館に辿り着き、しばし休息する。この時、トーリンの持っていた宝の秘密の入口を描いた地図に月光文字が隠されていることを、この館の主、エルロンドが発見する。月光文字とは、その文字を書いた時と同じ形で同じ季節の月の光に照らした時だけ読むことができる特殊な文字のことである。

エルロンドの館を後にした一行は、嵐の夜ゴブリン達に襲われる。逃げる途中、ビルボだけが仲間とはぐれ、洞穴に落ちてしまう。ここにはゴクリという怪物が住んでいた。偶然、ビルボはゴクリの宝物である金の指輪を拾う。この指輪は、指にはめると姿が消えるという魔法の指輪だった。

ゴクリは、ビルボを襲いたいが、ビルボが魔法の短剣を持っているため近づけない。ビルボはゴクリと謎々をする間に、指輪の秘密に気づき、洞穴を逃れる。ゴクリの呪いの言葉を背にうけながら……。

ゴクリの洞穴を脱け出したビルボは、仲間とおちあって旅を続ける。再びゴブリンとオオカミに襲われるが、ワシに助けられ、闇の森(マーク・ウッド)へと旅をすすめた。森の中で巨大な蜘蛛に出会うが、ビルボは蜘蛛と闘うことによって自信をつけ、大胆になっていく。蜘蛛と闘っている間に、仲間はエルフに捕えられるが、ビルボは指輪の魔力を利用して、彼らを救い出す。

その後、しばらくの間、一行は人間の住む湖の町で落ち着くのだった。

ついに、一行は宝の山へ着いた。ツグミによって、秘密の入口の扉の鍵穴がみつかり、扉を開くが、スマウグがいるため、誰も入ろうとしない。指輪を持っているビルボが、姿を消して入り、スマウグの弱点を捜す。弱点はみつけるが、スマウグが目ざめ、怒って追いかけてくるので、あわてて逃げ出す。スマウグは、湖の町を襲うが、バルドに黒い矢で射殺される。ビルボが見つけ、ツグミによってバルドに伝えられたスマウグの弱点とは左胸のうろこが一枚なく、肉がむき出しになっていたところだった。

トーリン達は、先祖の宝物を取り戻すが、思いおもいの分け前を要求する人間や、エルフとの間に争いが起こる。争いの最中にゴブリンとオオカミが加わり、入りみだれ、この争いは、みにくいものとなった。この争いで、トーリンが死に、13人いたドワーフは半分になってしまう。

ビルボは、戦いの無意味さを知り、初めから参加しなかった。持てるだけの宝の分け前と、指輪をたずさえ、最愛の我が家“ホビット穴”に戻ってきた。

数十年後に、この指輪をめぐって、闘いと冒険が、繰り広げられることになるのである……。

(岩波書店「ホビットの冒険」より)

尚、映画では一部(ビヨルンの館の部分)が省略される為、その部分は省きました。













●ホビット族（THE HOBBIT）
トールキンの創り出した小人。ドワーフ族より小さく、魔法は使えないし、顎ひげもない。他の種族とほとんど交流せず、平和で静かな人に知られない土地に住んでいる。穴をすみかにし、質素だけれども、愛想がよく、平和で平凡を好む。

●ドワーフ族（THE DWARF）
白雪姫にでてくる7人の小人の仲間。長いふさふさした顎ひげをたくわえ、不愛想で頑固で頑丈。外の世界よりも自分達で掘った地下にある穴や洞穴を好む。手先が器用で、金銀などで宝物をつくるのが得意。

●エルフ族（THE ELF）
この世ならぬ美しい智恵と純粋さをもった利発な不死の小人。エリザベス朝時代に描かれた空想の小さな妖精とは異なる。ドワーフ族とは、あまり仲がよくない。

●ゴブリン族（THE GOBLIN）
残酷で腹黒くて、心の底から悪い小人。何でも憎み、なかでも、きちんとした正しい者や、りっぱに栄えている者をみるとむかつく。争いを好み、他の種族とは不和。

●オオカミ
ゴブリンの仲間。人間が馬に乗るように、ゴブリンはオオカミに乗る。

●ワシの王（THE LORD OF EAGLS）
あらゆる鳥たちの王。昔、ガンダルフに助けられたことがある。ゴブリンとは不仲。

●スマウグ
ドワーフ達の宝を奪い町を滅ぼした竜。ビルボ達が奪い返そうとしている宝物を護っていたが、ビルボに弱点を発見され、バルドに殺される。

●ツグミ
宝の秘密の扉の鍵の場所を、ビルボ達に知せる。その後、バルドに、ビルボが発見したスマウグの弱点を伝える。

●バルド（BARD）
湖の町に住んでいる人間。スマウグを黒い矢で射殺す。

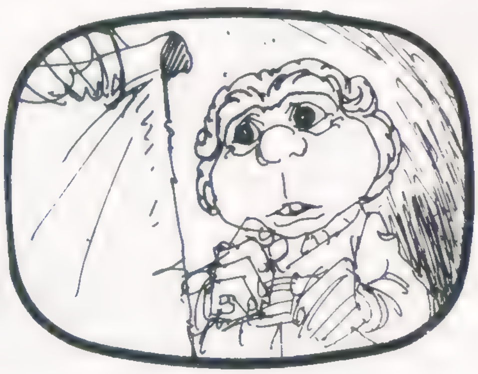
●トロル（TROLL）
巨人。ガンダルフによって石にされる。

●エルロンド（ELROND）
エルフと人間の交った人。半永久的に生きることができる。この種族の族長。高貴で美しく、賢明で強く、尊敬できる人。

●ゴクリ（GOLLUM）
暗い洞穴の中の冷たく黒い湖の岩のうえに独りで住んでいる、いやらしい堕落した小さな生き物。どこから来たのか、何物なのか、全くわからない。二つの丸くて青い大きな目玉を除けば、全身くらやみのように真黒。この物語の重要な物である　魔法の指輪の持ち主。

舞台設定
はるか想像もつかない程、昔の地球。人間が人間以外の生きもの、ホビットや、エルフ、ドワーフｅｔｃと世界を共有していた時代。トールキンは、この世界を〝Middle Earth〟（中つ国）と名付けている。





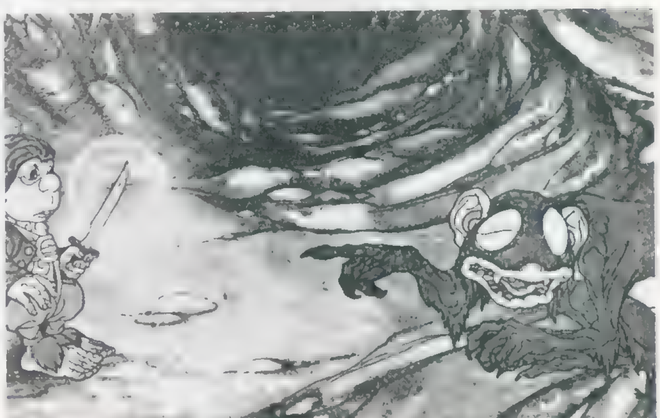
●ビルボ・バギンズ（BILBO BAGGIN）＝ホビット族
典型的なホビット族の１人。何事もあるがままで満足しているが、ガンダルフに誘われて、困難にみちた冒険にでかける。

●ガンダルフ（GANDALF）
旅から旅へと、ところ定めぬ老魔法使い。ビルボやドワーフ達の良き助言者。

●トーリン・オーケンシールド（THORIN ORKESHIELD）＝ドワーフ族
ビルボと冒険にでかけた13人のドワーフの１人で、ドワーフ達のリーダー。スマウグに宝を奪われ、町を滅ぼされたデューリン族の子孫。トーリンの祖父が描いた地図を手がかりに宝を取り戻しに行く。宝を取り戻し、山の下の王となるが、戦いで死ぬ。

参考文献　『ホビットの冒険』　Ｊ・Ｒ・Ｒ・トールキン著　瀬田　貞二訳　岩波書店
「トールキンの世界」リン・カーター著　荒俣　宏訳　晶文社

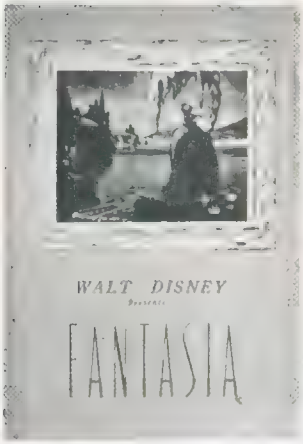
製作…アーサー・ランキン・Ｊｒ	原画……………………小林一幸
……ジューレス・バス	吉田忠勝
………原徹（トップクラフト）	背景デザイン　西田　稔
脚本　・ロメオ・ミューラー	演出　……　山田勝久
音楽……ジューレス・バス	……佐々木暗一
…アーサー・ランキン・Ｊｒ	総監督・キャラクターデザイン
ストーリー・ボード……窪　昭之	……………………窪　昭之
‥　久岡敬史	





ウォルト・ディズニーの「ファンタジア」今秋リバイバル公開!!

© WALT DISNEY PRODUCTION



●日本初公開時のパンフレットの表紙



●前回リバイバル時のパンフレットの表紙







★今夏「ジャングルブック」をリバイバル公開するブエナビスタ映画だが、すでに秋に公開が決定した「ファンタジア」を準備している。今や洋画界は立体音響があたりまえになっているが、この走りはこの「ファンタジア」なのです。しかし、その元祖たる音も古くなったと、新らたなる技術を加え、ナントカカントカ・フォーとかいう名称で今、(もう少しあとの今)甦える!!
右ページはスタッフでございます。

ファントーシュよ、しばらくおやすみだそうです。
でも、アニメーション専門紙が7号まで続いたなんて奇跡に近いですね。
スタッフのみなさん、おつかれさん。
再出発の日を期待してます。

愛読者諸君 またお会いしましょうね!!

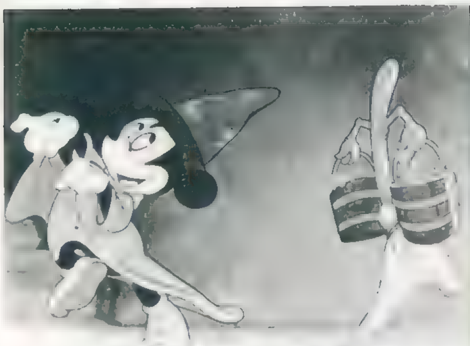
さよなら……

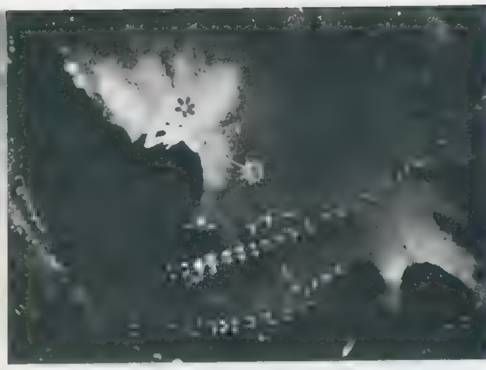
さよなら……

さよなら……

株式会社 **白組**

[illegible]3-11-16[illegible]ス10号 〒107 Tel.407-76C









WALT DISNEY
Presents
The Jungle Book

Color by ....TECHNICOLOR®
Story ....Larry Clemmons, Ralph Wright, Ken Anderson, Vance Gerry
Inspired by the Rudyard Kipling "Mowgli" Stories
Directing Animators .....Milt Kahl, Frank Thomas, Ollie Johnston, John Lounsbery
Character Animation ......Hal King, Eric Larson, Walt Stanchfield, Eric Cleworth Fred Hellmich, John Ewing, Dick Lucas
Effects Animation ....Dan MacManus
With the voice talents of
PHIL HARRIS ...."Baloo" the Bear
SEBASTIAN CABOT ....."Bagheera" the Panther
LOUIS PRIMA .."King Louie" of the Apes
GEORGE SANDERS .."Shere Khan" the Tiger
STERLING HOLLOWAY .."Kaa" the Snake
J. PAT O'MALLEY ......"Col. Hathi" the Elephant
BRUCE REITHERMAN ....."Mowgli" the Man Cub
Elephants ....VERNA FELTON, CLINT HOWARD
Vultures ....CHAD STUART, LORD TIM HUDSON
Wolves ....JOHN ABBOTT, BEN WRIGHT
The Girl ....DARLEEN CARR
Layout ....DON GRIFFITH
Basil Davidovich, Tom Codrick, Dale Barnhart, Sylvia Roemer
Background Styling ......AL DEMPSTER
Background ....Bill Layne, Ralph Hulett, Art Riley, Thelma Witmer, Frank Armitage
Production Manager ......Don Duckwall
Sound ....Robert O. Cook
Film Editors ....Tom Acosta, Norman Carlisle
Music Editor ....Evelyn Kennedy
©Copyright MCMLXVII — Walt Disney Productions
Music ....GEORGE BRUNS
Orchestration ....Walter Sheets
Songs ....Robert B. Sherman and Richard M. Sherman
"The Bare Necessities" ..Terry Gilkyson
Sung by Phil Harris
Directed by ..WOLFGANG REITHERMAN
Released by Buena Vista Distribution Co., Inc.
©1967 Walt Disney Productions
Running Time: 78 min. 7 sec.

トッカータとフーガ・二短調
TOCCATA AND FUGUE
バッハ作曲

監　督●サミュエル・アームストロング
構　成●リー・ブレア
エルマー・プラマー
フィル・ダイク
美　術●ロバート・コーマック
背　景●ジョー・スターリー
ジョン・ヘンチ
ニノ・カープ
動　画●サイ・ヤング
アート・パーマー
ダニエル・マクマナス
ジョージ・ローリー
エドウィン・アーダル
ヨッシャ・メドー
コーネット・ウッド

組曲くるみ割り人形
THE NUTCRACKER SUITE
チャイコフスキー作曲

監　督●サミュエル・アームストロング
構　成●
シルヴィア・モバーリー　ホランド
ノーマン・ライト
アルバート・ヒース
ビアンカ・マジョリー
グラハム・ハイド
デザイン●ジョン・ウォルブリッジ
エルマー・プラナー
エルセル・カルサー
美　術●ロバート・コーマック
アル・ジネン
カーティス・D・パーキンズ
アーサー・バイラム
ブルース・ブッシュマン
背　景●ジョン・ヘンチ
エセル・カルサー
ニノ・カープ
動　画●アート・バビット
レス・クラーク
ドン・ラスク
サイ・ヤング
ロバート・ストークス

魔法使いの弟子
THE SORCERER'S APPRENTICE
デュカ作曲

監　督●ジェイムズ・アルガー
構　成●パース・ピアース
カール・フォルバーグ
美　術●トム・コドリック
チャールズ・フィリッピ
ザック・シュワーツ
背　景●クロード・コーツ
スタン・スポーン
アルバート・デンプスター
エリック・ハンスン
動画監督●フレッド・ムーア
ウラディミル・ティトラ
動　画●レス・クラーク
ライリー・トンプスン
マーヴィン・ウッドワート
プレストン・ブレア
エドワード・ラヴ
ユーゴー・ドーシー
ジョージ・ローリー
コーネット・ウッド

春の祭典
RITE OF SPRING
ストラヴィンスキー作曲

監　督●ビル・ロバーツ
ポール・サターフィールド
構成並びに考証●ウイリアム・マーティン
レオ・ミール
ロバート・スターナー
ジョン・フレイザー・マクライシュ
美　術●マクラレン・ステュワート
ディックケルシー
ジョン・ハブリー
背　景●エド・スター
ブライス・マック
エドワード・レヴィット
動画監督●ウォルフギャング・レイザーマン
ヨッシャ・メドー
動　画●フィリップ・ダンカン
ジョン・マクマナス
ポール・ブッシュ
アート・パーマー
ドン・トービン
エドウィン・アーダル
ポール・B・コソフ
特殊撮影●ゲイル・パピノー
効　果●レオナード・ピックリー

田園交響曲
THE PASTORAL SYMPHONY
ベートーヴェン作曲

監　督●ハミルトン・ラスク
ジム・ハンドリー
フォード・ビーブ
構　成●オットー・エングランダー
ウエブ・スミス
アードマン・ペナー
ジョーゼフ・サボー
ビル・ピード
ジョージ・ストーリングス
デザイン●ジェイムズ・ボドレロ
ジョン・P・ミラー
ローナ・S・ソダストロム
美　術●ヒュー・ヘネシー
ケネス・アンダースン
J・ゴードン・レッグ
ハーバート・ライマン
エール・グレイシー
ランス・ノーリー
背　景●クロード・コーツ
レイ・ハフィン
W・リチャード・アンソニー
アーサー・ライリー
ジェラルド・ネヴィアス
ローイ・フォーカス
動画監督●フレッド・ムーア
ウォード・キンボール
エリック・ラースン
アート・バビット
オリヴァー・M・ジョンストン，ジュニア
ドン・トースリー
動　画●バーニー・ウォルフ
ジャック・キャンブベル
ジャック・ブラッドベリー
ジェイムズ・ムーア
ミルト・ネイル
ビル・ジャスティス
ジョン・エリオット
ウォルト・ケリー
ドン・ラスク
リン・カープ
マレイ・マクレラン
ロバート・W・ヤンギスト
ハリー・ハムセル

時の踊り
DANCE OF THE HOURS
ポンキエリ作曲

監　督●T・ヒー
ノーム・ファーギュスン
デザイン●マーティン・プロヴンスン
ジェイムズ・ボドレロ
デューク・ラッセル
アール・ハード
美　術●ケンドール・オコナー
ハロルド・ドーティ
アーネスト・ノードリー
背　景●アルバート・デンプスター
チャールズ・コナー
動画監督●ノーム・ファーギュスン
動　画●ジョン・ラウンズベリー
ハワード・スウィフト
プレストン・ブレア
ヒュー・フレイザー
ハーヴェイ・トムス
ノーマン・テイト
ヒックス・ローキー
アート・エリオット
グラント・シモンズ
レイ・パタースン
フランクリン・グランディーン

禿山の一夜とアヴェ・マリア
NIGHT ON BALD MOUNTAIN AND AVE MARIA
ムソルグスキー作曲　シューベルト作曲

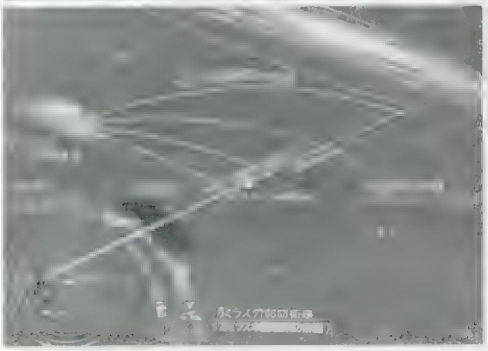
監　督●ウィルフレッド・ジャクスン
構　成●キャンブベル・グラント
アーサー・ハイネマン
フィル・ダイク
美　術●ケイ・ニールスン
テレル・スタッブ
チャールズ・ペイザント
ソー・プトナム
背　景●マール・コックス
レイ・ロクラム
ロバート・ストームス
W・リチャード・アンソニー
動画監督●ウラディミル・ティトラ
ウィリアム・N・シャル
ロバート・W・カールスン，ジュニア
レスター・ノブロス
ドン・パタスン
特殊動画効果●ヨッシャ・メドー
マイルス・E・パイク
ジョン・F・リード
ダニエル・マクマナス
特殊撮影効果●ゲイル・パピノー
レオナード・ピックリー
コーラス監督●チャールズ・ヘンダースン
独　唱●ジュリエッタ・ノーヴィス

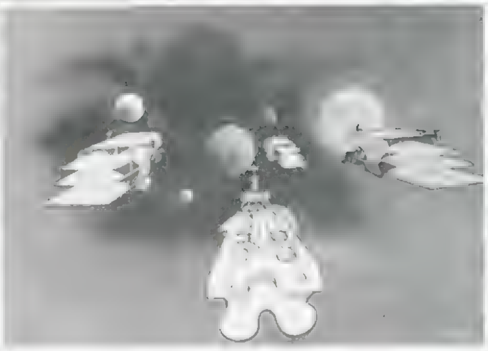


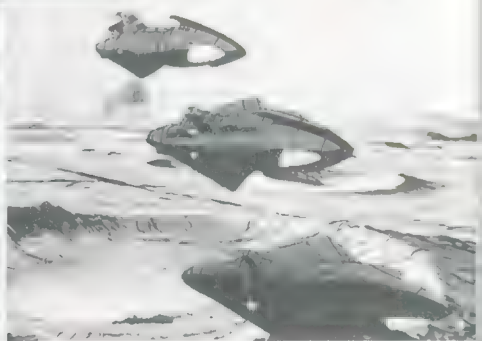
アニメーション・ニュース

今夏、なんと49年の10月から50年の3月まで読売・日本テレビ系で放映されていた「宇宙戦艦ヤマト」が東京を中心とした全国ロードショー公開される!!それも30分ものの劇場用長編(2時間10分)となって。



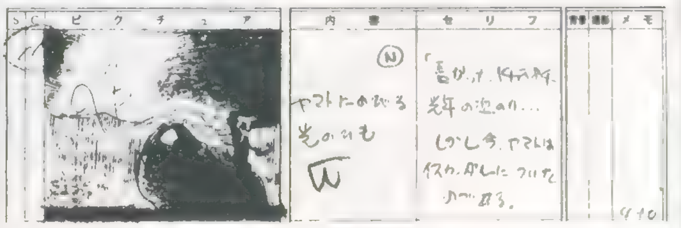






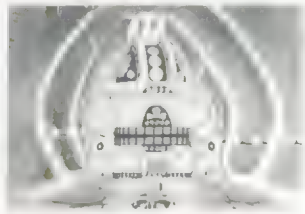


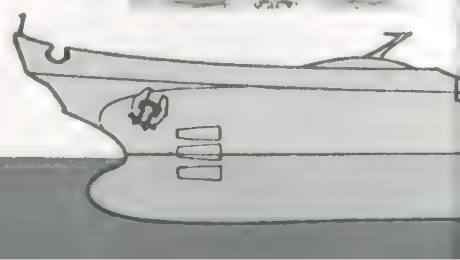
新作を含めて2時間10分!!



休刊を祝って、カラーページからスチルを満載しているが、この上にある絵コンテはまったく同じカットを2年前に出された本誌の創刊号に載っているものです。この絵コンテは、長編に編集しなおす時点で修正すべきエピソードとして、イスカンダル星へ着いた所から、石黒昇氏の手により書かれています。この新作を含めて、編集作業が終ったのは、今年の7月。(もちろん、手直しに手直しを重ねて……)なんと2年もかけた大作なのです。なのだ!!なんだ!!

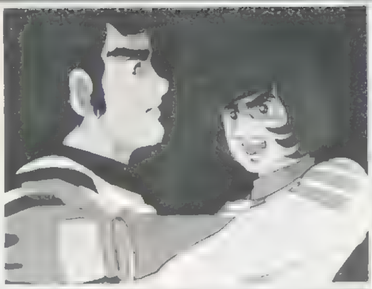
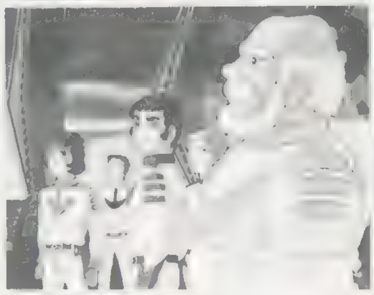
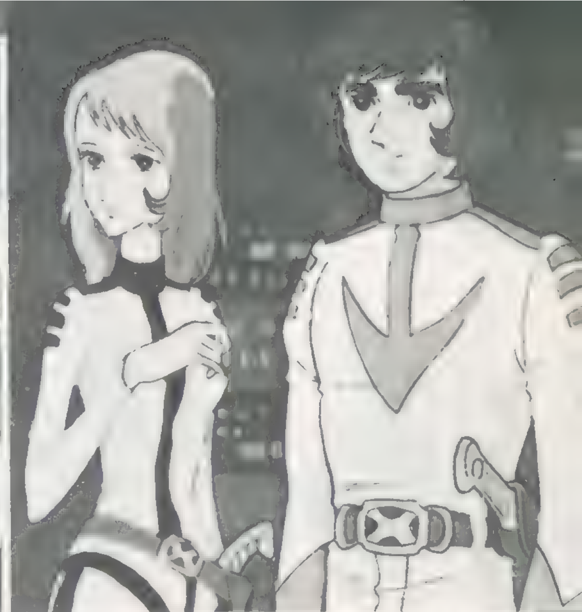
録音も新らたなる部分が多く、セリフやナレーションもテレビ版とは異っている。





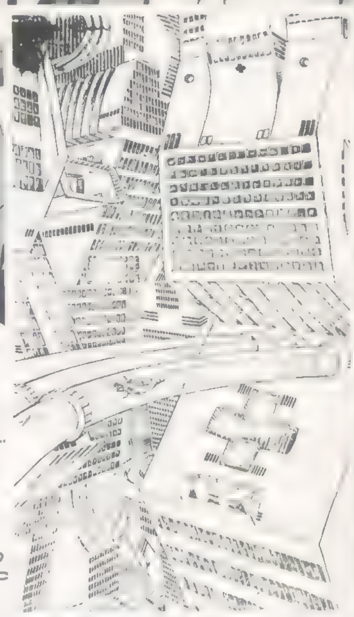
企画・原案・製作・総指揮●西崎義展
構成●舛田利雄・西崎義展
シナリオ●藤川桂介・山本暎一
音楽●宮川　泰
美術・設定デザイン●松本零士
監督●舛田利雄
アニメーション・ディレクター●石黒　昇
作画監督●芦田豊雄・小泉謙二・白土武
泉口薫・宇田川一彦・岡迫亘弘
森田浩光
背景美術●槻間八郎
音響監督●田代敦己
効果●柏原　満
編集●鶴渕允寿
助監督●棚橋一徳
製作担当●長嶋正治・野村和史・堤隆之
配給●西崎義展　（株式会社アカデミー）
オリジナル・サントラ盤●コロンビアレコード

沖田十三●納谷悟朗
古代進●富山　敬
島大介●中村秀生
森雪●麻上洋子
古代守●広川太一郎
徳川彦佐ェ門●永井一郎
真田志郎●青野　武
佐渡酒造●永井一郎
アナライザー●緒方賢一
地球防衛軍司令●伊武雅之
デスラー総統●伊武雅之
ヒス副総統●山下敬介
ドメル将軍●小林　修
スターシャ●平井道子
ナレーター●木村　幌


●サントラ CS-7033 コロムビア


ささきいさお


●甦えるかヤマト!そして続編は?!

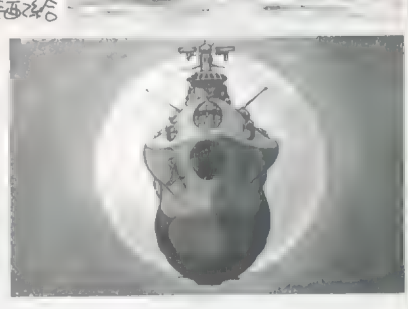
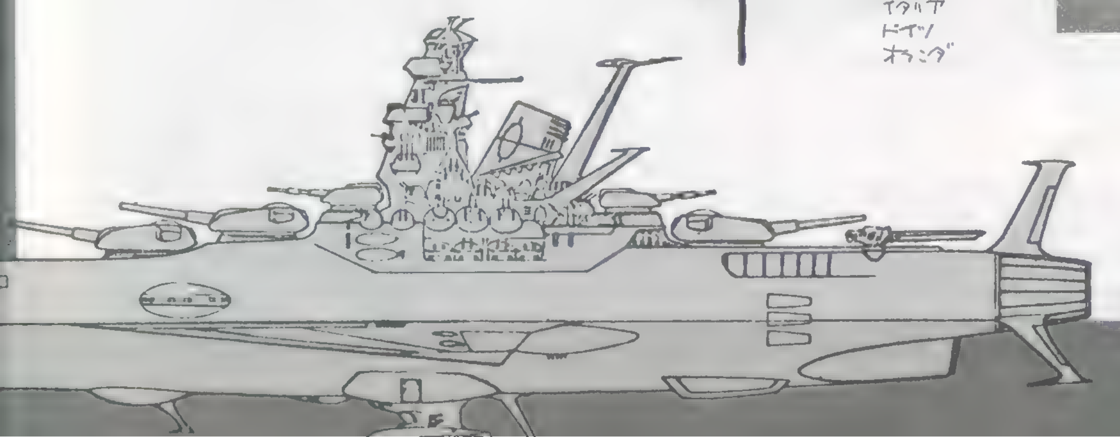
上の写真はヤマトの主題歌をうたって人気急上昇となった歌手ささきいさお氏。そのたは放映2年後にしてやっと発売されたサントラLP。TVも映画も同じサウンド・トラックのオリジナルを使っているため、構成の違いはともかく、サントラ盤(オリジナル)である。このLPは、全26本を軸としたダイジェスト盤で、アレヨアレヨと26本耳で聞きおえてしまうという仕組み。音でヤマトは甦えった!!という所だろう。

そして、放映当時〜終了時に発売されたコミックと文庫が、いまだに売れているそうだが再び新版(書き下ろし)ハードカバーの小説ノベライゼーションが、朝日ソノラマから発売される。全3巻でカラー共、本編からカット抜き出しで使用されている所など、ファンには手に入れなければならない一冊だ。

と書いて内容はどうか……というとてっとも、責任自分でたしかめて下さい。人には好ききらいがあるからムリはいいません。

さて、このいきおいいつまで続くのか?! 公式に続編の制作準備は進められているようだし、世界の同時配給も決まったことだし…………。

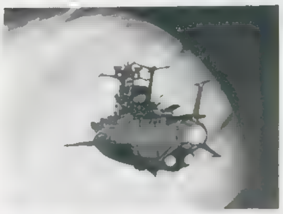
海外同時配給地区
アメリカ — ロスアンジェルス
　　　　　サンフランシスコ
ヨーロッパ — イギリス
　　　　　フランス
　　　　　イタリア
　　　　　ドイツ
　　　　　オランダ

英語版「宇宙戦艦ヤマト」
キャラクター名称・声優



沖田 OKITA / MARVIN・MILLER
古代 JASAON・KODAI / REX・KNOLLS
島 SHANE・O'TOOL / PAUL・SHIVELEY
森 YUKI・MORI / MERCY・GOLDMAN
相原 AIHARA
太田 OHTA
佐渡 SADO
アナライザー TOBOR / REX・KNOLLS
真田 SAMUELSON / JERRY・HARLAND
徳川 THOMPSON
加藤 KATO
地球防衛軍司令官 COMMANDING GEN
デスラー DESLER / LARRY・BARRELL
ドメル DOMERU / DUDLEY・COLEMAN
ヒス HISS / JERRY・HARLAND
クランツ GRANZ
ハイデルン ZANDOR
ゲットー GETTO
バーガー BERGER
クロイツ KRENZ〔KROIZ〕





Presented by:
ACADEMY CO., LTD.
Screen play written by:
EIICHI YAMAMOTO
KEISUKE FUJIKAWA
Music composed by:
HIROSHI MIYAGAWA

Animation director:
NOBORU ISHIGURO
Art director:
REIJI MATSUMOTO
Produced and directed:
YOSHINOBU NISHIZAKI

★上のネーミングは98分にまとめられたイングリッシュ版・ヤマト。
パンフレットの表紙には、こうかいてあります。

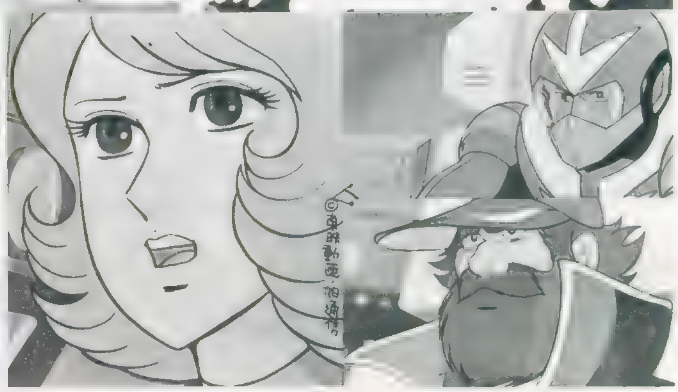
SHE MUST RETURN IN 365 DAYS
FROM THE JOURNEY OF 296,000 LIGHT YEARS
THE MISSION WAS GRAVE FOR
SPACE CRUISER YAMATO!!

東映まんがまつり 7月17日〜

ソ連の「せむしの仔馬」 中編「ダンガードA対 暗黒将軍」
他に「ドカベン」「あらいぐまラスカル」etc〜……

せむしは日本語版になおされてくるけど、みておいてもいいとおもうよ。





★特別鑑賞券を送料共950円（美麗ポスターB2判付き）で上記・朝日ソノラマ「マンガ少年」ヤマト係で、8月6日まで受付中!!－現金書留で。



日本中の
ヤマト・ファン
全員集合
●「ヤマト」のファンクラブとファンのために事務局を設立致します。
活動状況を手紙又は電話でお知らせ下さい。(セル、その他資料の提供を考えております)
●特別鑑賞券900円(一般1200円・大学1100円 高校1000円のところ)申し込み受付中!
鑑賞券をお申し込みの方にもれなく"ヤマト"のポスターを差し上げます。
宇宙戦艦
ヤマト
〈カラー作品〉
企画・原案・製作・総指揮 西崎義展
監督〈トラ・トラ・トラ〉〈人間革命〉の舛田利雄
設定デザイン 松本零士
脚本 山本暎一 藤川桂介■音楽 宮川 泰
アニメーションディレクター 石黒 昇
助監督 棚橋一徳(オリジナルサントラ盤コロムビアレコード)
配給 西崎義展(株式会社アカデミー)
■お申し込み、連絡は
千代田区九段北1−12−4徳海屋ビル6F
㈱アカデミー「ヤマト」係まで
TEL(03)264−1003 (03)265−9474
8月6日より大ロードショー
東映パラス
東急レックス
池袋東急
銀座東急



RACE FOR YOUR LIFE, CHARLIE BROWN
さあ〜たいへん!!
スヌーピーとチャーリーたちが
大ピンチの連続!
みんなの声援で助けましょう!
がんばれ!
スヌーピー
カラー作品●長編アニメーション映画
待望のシリーズ第3弾!
日本語吹き替え版
製作リー・メンデルソン
ビル・メレンデス
監督ビル・メレンデス
原作・脚本チャールズ・シュルツ
音楽エド・ボーガス
7月16日(土)より 夏休みロードショー
有楽町スバル座
新宿ビレッジ2
パラマウント映画
CIC配給
(C) 1977 by United Feature Syndicate, Inc.



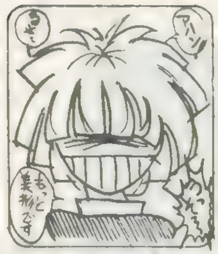
FOR THE LOVE OF
Benji
7月23日はベンジーの日です
I feel Love!
CBS
ヘラルド映画
Herald
ベンジーの愛
シネマ1
新宿文化
渋谷文化
横浜スカラ座
吉祥寺スカラ座
上野パーク
八幡スカラ座
池袋日勝文化
川崎駅ビル文化

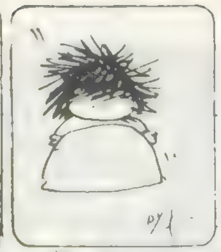
きみこそスターだ!!
愛読者自画像展示会の編

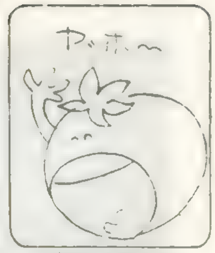

安井仁美さん


倉股みさをちゃん

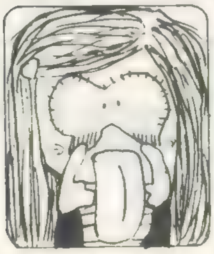

斉藤洋一郎どの

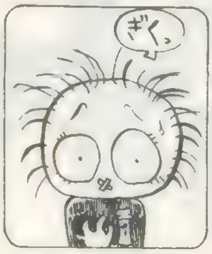

福島弘子美人さん


真部朋子さん



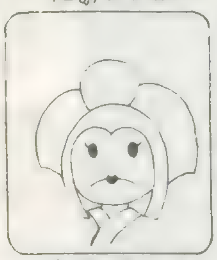
木村久美子さん

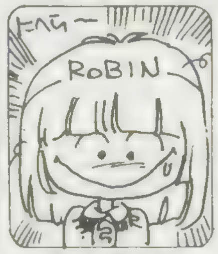

会田桂子ノィー…



平川みどり くぎっ


水本けい子(顔は?)

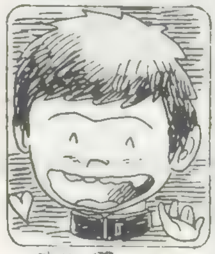

大野有子せんせ



村田順子ちゃん


桜井百合子さん

ひろせ君は商売人だから、
人の顔も売ってまうぞ!!
でも人、それぞれ心というもん
もっとるんさかい。
心はちょっと売れん!
おれの心でよけりゃ売ったる!
ファントーシュの心じゃ!! 以上


渡辺健一どの

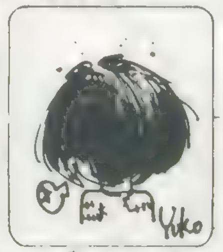


桑原智 男?女?



加藤雅子ちゃん

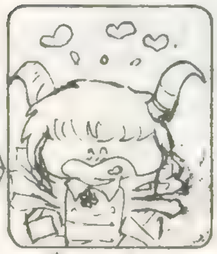

金子由美子さま


伊勢田祐子さん


霜田優子さんま



山田美智代さま


森はつみさん


松尾加奈子ちゃん



関根順子ベ〜〜〜



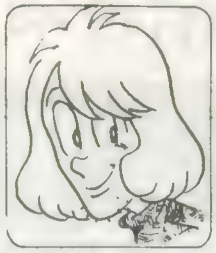
こいけしずいち②


丸尾恵子さん



富永眞喜子どの


長谷川当弥ちゃん


三浦ススムくん


国坂森ちゃん


古田奈々子ちゃん


山田実 ギャオ!


佐山誠くん


鈴木貴浩くん


松本啓子さん


小倉雅昭さん



山田耕作ちゃん


朴径子さん



私 18才 狂い咲き やよい
宇佐清美くん
脇屋緑さん
河村やよい よいよいないない!
依知川雅子さん
塚本篤さん
後藤まゆみちゃん
この顔にピンときたら110番
沢野幸徳さん
服部路子さん
今村佳代子さん
佐原直紀ちゃん
小中千昭どの
河野和久くん
絵にも 書けない 美しさ! わおっ
花の若年寄
黒須徳どの
都倉祥未どのの
深沢のり子《顔をだせ〜》
伊藤寛子さん
八崎健二くん
本当はずっとハンサムだ〜
(トレード・マーク)
山元るり子さん
富山耳聡さん
姫田登喜さん
細田清くん
東條佳子さん
ちょっと見かけたら 110番.
青木早苗どの
伊津政道くん
大川千代子さん
新井則善どの
木下佳子さん
高石香織さん
わからん
この欄は いったい なんなの?
藤井聡くん
桑原陽子さん

ファントーシュ

かくされた事実はここにあり編　最終回

■[illegible]
[illegible]……
[illegible]……
[illegible]
頭にでたのかをしりてえよ！こうなったらも
[illegible]
（大東市の岸かおるさん）

■[illegible]事務担当の方へ
[illegible]
えないのでしょうか？予定からいくと3号だ
だと3・4・5・6と、6号までは送って
[illegible]
価格が500円になったことは知っていま
す。それにしても不足はしているものの金
[illegible]
る場合メモも入れてはいけないことは知って
ます。でも3号から申し込んでいる人たち
はまだいるはずです。その人たちのためには
[illegible]も、3号から申し込んでいる人、
[illegible]
とでも書いてくれれば送りますのに。ほん
とうにおごい人たちですね！名古屋という田
舎に住んでいるのです、通信販売にたよるし
かないのです。もう少しそういう人たちのこ
とも考えてやって下さい。お願いします。
[illegible]
なくなったらおわりです。でもボクは信じて
ます、ねえだから6号送って下さい。それと
も、定期購読費用がきれていたら送ります。
おしえてもらいたいのですが……。お願いし
[illegible]
[illegible]しかなくて、ハガキで送ってご
めんなさい。ではさようなら乱文乱筆をお許
[illegible]（名古屋市の和田さんから）

■[illegible]編集者へ!!
[illegible]……
[illegible]……
[illegible]（静岡県富士宮市の蛭川さんからの葉書）

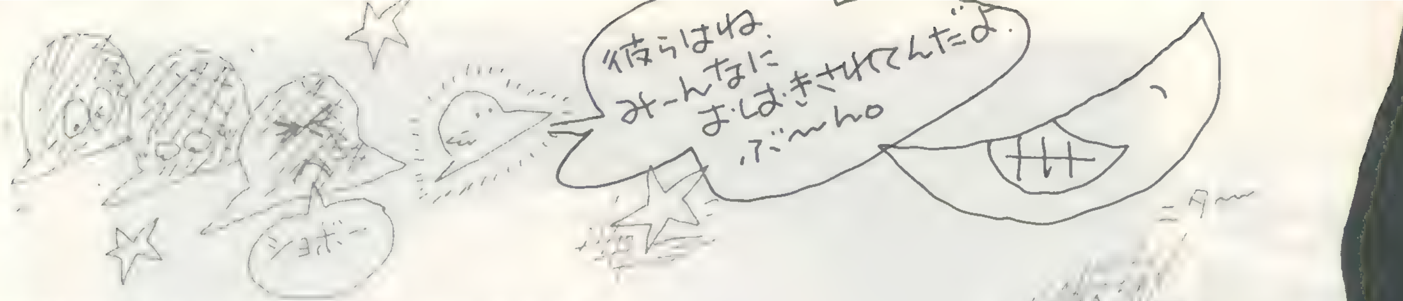
■[illegible]
あのなー　あんたら。いいかげんにせんとつ
[illegible]!!!
[illegible]
[illegible]あるよなー。
それがどうだ!!4月12日の今日になっても、
[illegible]!!!!!
[illegible]
号）の予約をする。それから余りの60円は、
[illegible]
あげよう。これからも内容の濃いものをつく
っていくように…………。　後略
（港区の原田宗晴さん）

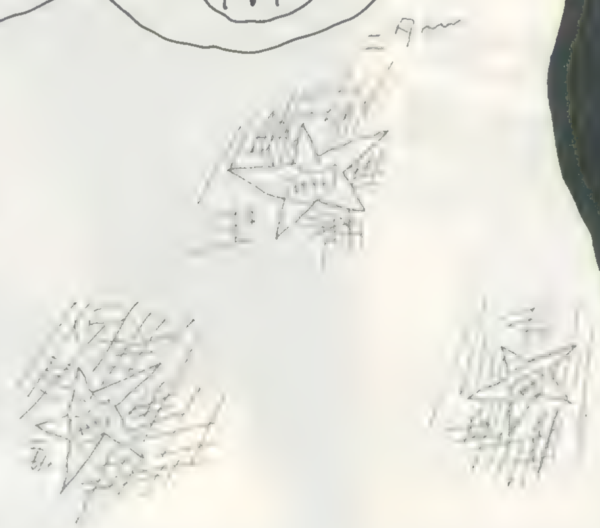
■5月も半ばを過ぎ、緑の燃える季節となり
ましたが、編集の皆様はいかがお過ごしでし
ようか？
ところで……私、今ほんとうに腹が立ってい
[illegible]
私方にノファントーシュ6号が送られてこない
のですよ、去年の6月16日私は2年分の購読
料を送りました。その後2号～5号まではち
ゃんと送っていただいたのですが…調べてみ
て下さい。このままではすまされないことで
[illegible]
よ）などの申し込みは受け付けないというの
でしたら送金の残りをかえして下さい。
地方だからなんて思っているんじゃありませ
んか？せっかく今まで楽しく読ませていただ
[illegible]
この要書きまで無視はしないでしょう。お
願いします。ファントーシュをきらいに[illegible]
ないで下さい。（倉敷市の西之内さんから）

■[illegible]
いかがおすごしですか？　ファント[illegible]
私がちゃんと定期購読してますから[illegible]
刊になることはないと思[illegible]
ちゃ！）
日ごろお世話にな[illegible]
[illegible]ひと[illegible]……
と思ってふでをとった次第にて候。（きゃ～
時代がかって[illegible]
るの！）
このたび県立高校[illegible]
ま新しい下着……いえ、ま新しい制服を身に
つけて、毎日[illegible]
[illegible]
[illegible]時、私のわきには、なんと～ファン
[illegible]がはさまれていた！もしや……も
[illegible]まわりの白い目の対象は、このファント
[illegible]だったのではないだろうか"
[illegible]にあげまして一[illegible]
おります。ひたすら（でもないけ）芸大を目
指し、日夜　勉強にスポーツにはげんでおり
ます。（私の私生活を知っている人が
ファントーシュに手紙が行ったらヤバイけ
そんな　ハードな勉強に疲れている[illegible]
ひとたびやすらぎをあたえてくれるのは、こ
の　ファントーシュ　です。
[illegible]
[illegible]買わずにファントーシュ買うわん！決
して、コマらせるよーなことは申しません。だ
から　どーかいつまでもファントーシュ発刊
続けて下さいね！　一[illegible]
（横浜市の嶋　伊鶴さん）

■あっ…あのう……誠にブシツケで申しわけ
[illegible]
かわりに送って下さるはずの5号はどうなっ
たのでしょう―？　ううう（泣き声
[illegible]
じ……実は受験で忙しくて本屋へ行けなかっ
たのですが（送って下さるものときめこんで
いたので）――――――もう5月で[illegible]
4月頃から、ものすごく不安になりまして…
[illegible]"
また、ファントーシュにヤマトの話がのった
とか……それは[illegible]
わ～～!!支離メツレツな文ですみませ～ん．
でも、どうなっているのか、お教え下さい。
おねが[illegible]（練馬区の　田中由利さん）

○後の処理をほ[illegible]
面を読んでもわ[illegible]
的に問い合わせております。そして、この方
のような通知（○号は品切れなので○号に
[illegible]
いますが）を、編集室から受けとって、そ
[illegible]





■[illegible]

[illegible]

秋でもないのに……　一部省略

（熊谷市の松川直子さん）

■トリトン[illegible]

トリトンの魅力は、第1話、第2話……そして、ちょっとニュアンスが違うけれど、最終話につきます。

ピピとのやりとりはよく、それずーっとむしく感じられました。

トリトンのファンに、男性も多いのは、キャラクターの魅力もさることながら、その旅自体が[illegible]それにトリトンの生き方[illegible]情熱に動かされるからではないでしょうか。一部省略

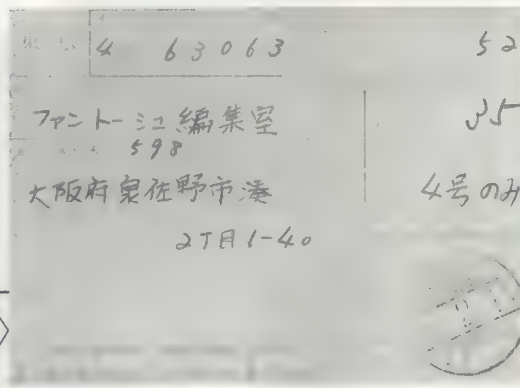
（明石市の鈴木　仁さんの手紙から）

■下記の10名の方々は、発送しました本が、宛先不明で編集室に戻ってきた方です。ご本人、もしくは[illegible]編集室までご連絡下さい。

荒木靖一	176	練馬区下石神井4-25-8紫竹荘
板野雅子	164	中野区本町２－５２－２０
岩崎幸雄	114	北区田端新町3-8-13園田様方
大森孝子	170	豊島区巣鴨１－２５－１１
佐藤　晃	359	所沢市大字上新井1265－２
鈴木　宏	171	豊島区5-4-1角栄マンション607
佃　一晴	065	札幌市北14条西２　北学寮内
富樫英夫	062	札幌市豊平区月寒東3条9丁目
藤田麻貴	350-13	狭山市入間川１３５４－６
松野悦子	233	横浜市南区堀ノ内町１－212

さがしものこおなあ

No.1．この振込をされた方、又は、この住所に心あたりのある方は編集室まで、ご連絡下さい。御名前の記入がないので困ってます。



4　63063　52

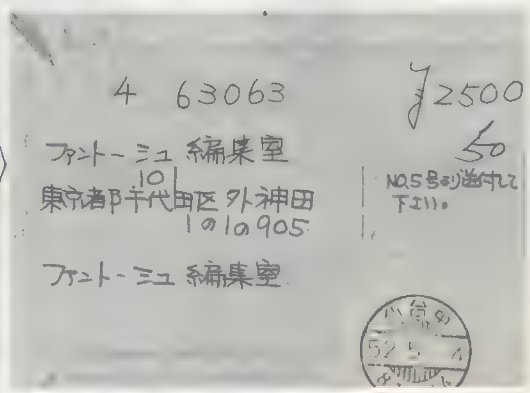
ファントーシュ編集室　35

598

大阪府泉佐野市湊　4号のみ

2丁目1-40。

No.2．この振替用紙に心あたりのある方、編集室までご連絡下さい。仙台の方で、郵便振替で申しこまれて、本の届いてない方、いらっしゃいませんか?。調べる方法がないので、困っているのです。この字に見覚えのある方、ぜひ、ご連絡下さい。



4　63063　￥2500

50

ファントーシュ編集室

10

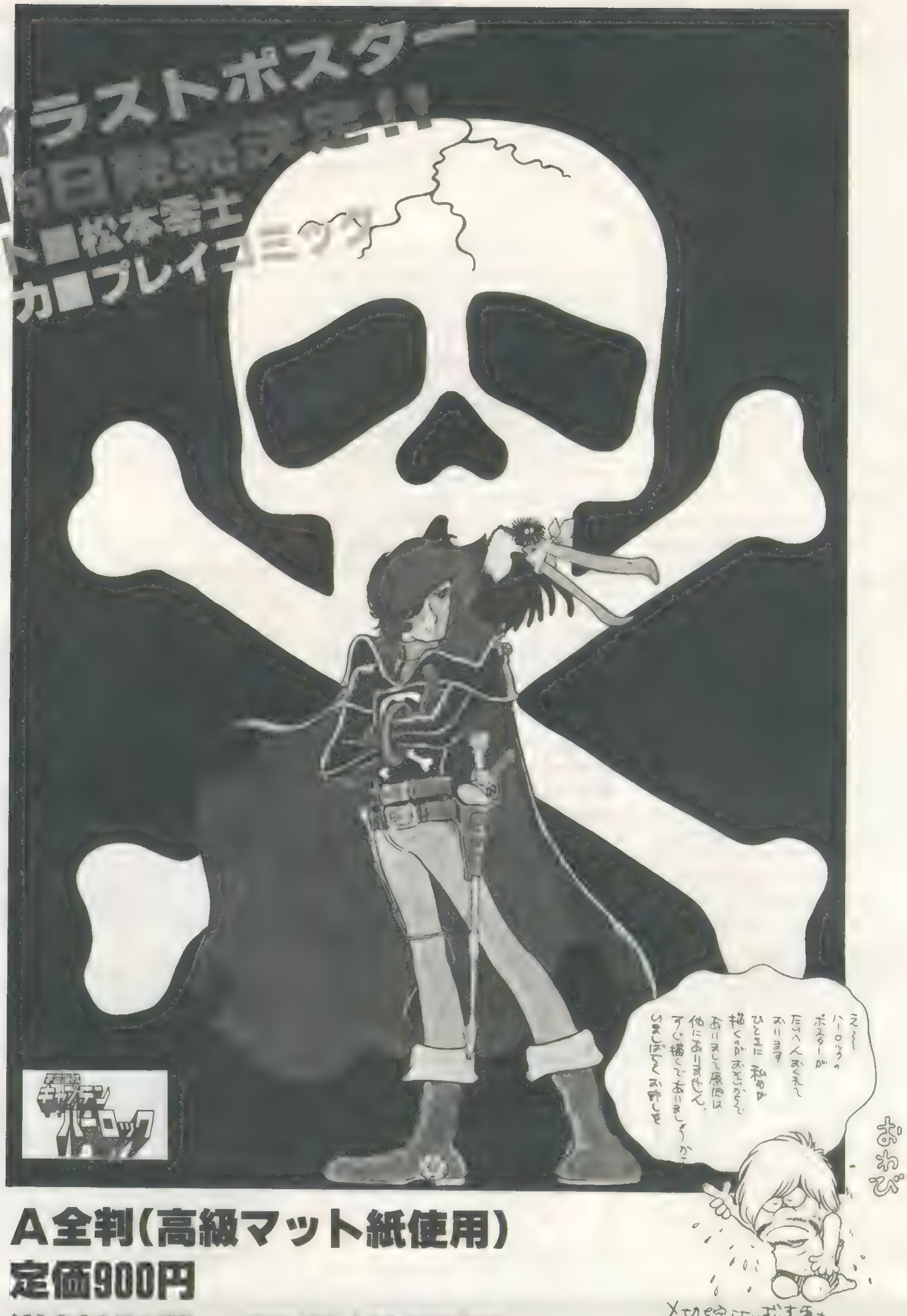
東京都千代田区外神田

1の10905

NO.5号より送付して下さい。

ファントーシュ編集室

大型イラストポスター
8月1■日発売決定!!
イラスト■松本零士
協力■プレイコミック



A全判(高級マット紙使用)
定価900円
送料350円〜550円(地帯別)

∴筒代・手数料は当方で負担いたします。

	送料	都・道・府・県別
第一地帯	350	山形・宮城・福島・茨木・栃木 群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川 山梨・新潟・長野・富山・石川 静岡・愛知・岐阜・三重・滋賀
第二地帯	450	青森・岩手・秋田・福井・京都 大阪・兵庫・奈良・和歌山・鳥取 島根・岡山・広島・香川・徳島 愛媛・高知
第二地帯	550	北海道・山口・福岡・佐賀・大分 熊本・長崎・宮崎・鹿児島・沖縄

というわけで、4月末から8月へと延長せざるをえなくなりました。

★お申し込みは … なるべく近いキョリの所からお受けとり下さい。
東京●まんが画廊 …
東京●ファントーシュ編集室 … 必ず来訪の前に電話を。
京都●手塚治虫FC …
大阪●まんがはうす・郵送のみ …

製作・販売元●プランニング・プロデュース
販 売 協 力●ファントーシュ編集室

7 fantoche——?

過去、1～7号まで本誌に協力をして下さった主な方々です。永い間ありがとうございました。

相原信洋
愛プロ
青木治道
アカデミー
あかばんてん
朝日ソノラマ編集部
旭プロダクション
アド・イースタン
あーと・のあ
アニメーション・
　スタッフ・ルーム
RVC
飯島敬
池内辰夫
池田一郎
石川栄基
石森章太郎
石之博和
江口俊真
MGM映画
及川恒平
大沢かほり
大塚康雄
大場伊紘
オカスタジオ
岡田英美子
岡本忠成
小野耕世
オリエンタルランド
梶原一騎
勝井千賀雄
学習研究社
カナダ大使館
金山明博
神谷明
川崎のぼる
川本喜八郎
神田豊
キャップ
キャニオンレコード
キングレコード
久里洋二
グループ・ジョイ
グループ・タック
グループ・ダート
芸研プロ
月刊ぴあ
コジマ録音
コロムビア映画
坂本雄作
さくまあきら
ささきいさお
サンリオフィルム
CIC
島村達雄
子門真人
集英社
白川大作
白組
神保まつえ
瑞鷹
杉本五郎
鈴木克伸
鈴木伸一
鈴木義雄
スタジオ・ディーン
スタジオ・ライブ
スタジオ・リップ
スタジオ・ロビン
スタジオ・ユニ
創映社
創文新社
大工原章
高沢暎一
高山弘
竜の子プロダクション
田村穂
ちばてつや
チェコスロバキア大使館
月岡貞夫
辻真先
円谷プロダクション
テイクワン
手塚治虫
手塚プロダクション
電通
東映
東映動画
東京コマーシャルフィルム
東京12チャンネル映画部
東芝EMI
東宝
東宝東和
東宝レコード
東北新社
トップクラフト
富野喜幸
鳥海永行
内外企画
長井泰治
永沢詢
中村和子
中村武雄
南家こうじ
西井豊
20世紀FOX映画
日音
日ソ協会
日本アニメーション
日本アマチュア
　アニメーション協会
日本海映画
日本コロムビア
日本サンライズ
日本ビクター音楽産業
日本ヘラルド映画
博報堂
林静一
彦根範夫
ビデオ東京
P・V・プロデュース
ブエナビスタ映画
双葉社
フランス映画社
フランス大使館
ブルガリア大使館
古川タク
古沢日出夫
プレイコミック
文久書林
ベルギー大使館
ペロペロ・キャンディー
星新一
堀江美都子
ポリドール
前田康生
政岡憲三
真鍋博
松本零士
まんが画廊
水木一郎
宮本貞雄
森卓也
森康二
モンキーパンチ
安彦良和
柳原良平
矢吹公郎
籔下泰治
山口旦訓
山田勝久
山田けい子
ユーゴスラビア大使館
ユナイト映画
横尾忠則
和田誠
渡辺米彦
ワーナー映画
ワーナーパイオニア
（アイウエオ順・敬称略）

6


5


1


2


3

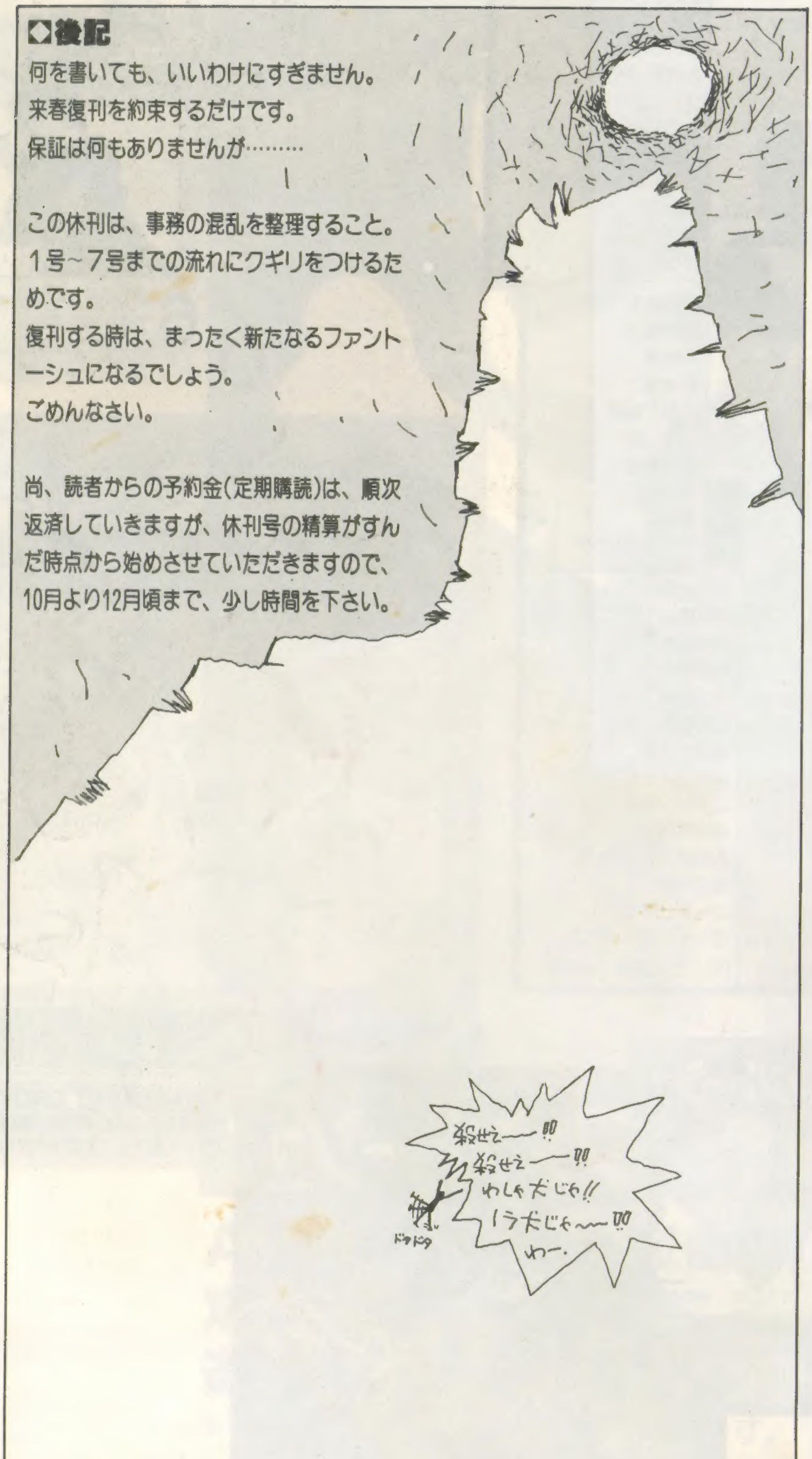

4


◇後記

何を書いても、いいわけにすぎません。
来春復刊を約束するだけです。
保証は何もありませんが………

この休刊は、事務の混乱を整理すること。
1号～7号までの流れにクギリをつけるためです。
復刊する時は、まったく新たなるファントーシュになるでしょう。
ごめんなさい。

尚、読者からの予約金（定期購読）は、順次返済していきますが、休刊号の精算がすんだ時点から始めさせていただきますので、10月より12月頃まで、少し時間を下さい。



これは、本の山でしょうか？お札の山でしょうか？苦情の手紙の山でしょうか？借金の山でしょうか？

《休刊号》
編集スタッフ

編集
●
広瀬和好
西谷弘子

協力
●
桜井雅信
森脇和子
藍原淑子

写植
●
創文新社
アド・イースタン
南行社
ロック・アート

製版
●
日伸製版

印刷製本
●
文久書林

製作協力
●
有限会社スタジオあかばんてん
（永い間、スタジオの一隅を無料で借用させていただき、ありがとうございました。　一同）

発行
●
広瀬和好
ファントーシュ編集室

昭和52年8月1日初版発行
第2巻第3号　通巻第7号



ぼくの友達＝フレンドです。
くじらのスーさんと、円盤くんたちです。
このビルディングもです。
こんな絵しか かけないんです、ぼくは。　1977年7月20日
(和、改めて)わ。